



D&O
PhotoLab

ユーザーガイド

Microsoft® Windows® | Apple® OS X®

000000

Copyright © DxO Labs 1999-2017. All rights reserved
テキスト : Gilles Théophile

DxO PhotoLabについての詳しい情報: www.dxo.com

登録商標

DxOは、欧州連合内と他の地域で登録されたDxO Labs社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows 7、Windows 8は、Microsoft Corporation社の登録商標です。OS Xと Macのロゴは、アメリカ合衆国と他の国で登録されたApple社の登録商標です。FLICKRとFlickrのロゴは、Yahoo! Inc.社の登録商標です。Flickrのロゴは、Yahoo! Inc.©2012 Yahoo! Inc.の許可を得て使用しています。Facebookは、Facebook Inc.社の登録商標です。これ以外の登録商標は、それぞれの商標の所有者の財産です。

特許

DxO Labs社はDxO製ソフトウェアを保護する特許を所有しています。これらの特許のリストは以下のURLで参照いただけます:
www.dxo.com/fr/patents.

承認

DxO PhotoLabは、以下の著作物を利用しており承認を受けています :

- DirectoryInfoEx (Licence LGPL v3) : <http://www.codeproject.com/Articles/39224/Rewrite-DirectoryInfo-using-IShellFolder>
- DotNetZipLib (Ms-PL) : <http://dotnetzip.codeplex.com/license>
- LuaInterface (MIT License) : <http://code.google.com/p/luainterface/>
- MVVMLightToolkit (MIT License) : <http://mvvmlight.codeplex.com/license>
- NLog (BSD License) : <http://nlog-project.org/>
- PowerCollections (Eclipse public license) : <http://powercollections.codeplex.com/license>
- SQLite (Public Domain) : <http://www.sqlite.org/copyright.html>
- System.Data.SQLite (Public Domain) : <http://system.data.sqlite.org/index.html/doc/trunk/www/index.wiki>
- WindowsApiCodePack (Custom) : <http://archive.msdn.microsoft.com/WindowsAPICodePack/Project/License.aspx>
- BPlusTree (Apache 2.0) : <http://help.csharptest.net/?CSharpTest.Net.Library/> (Rubrique License)
- Flickr.Net (LGPL) : <http://flickrnet.codeplex.com/license>
- Facebook SDK for .Net (Apache 2.0) : <http://facebooksdk.net/docs/about/>

このガイド内に記載されている項目は、記載されている以上ではありません。DxO Labsはこの文章に記載されているソフトウェアを使用する、使用しないに関わらず、このガイドに記載されている項目によって生じた直接的、間接的、過失、を含むいかなる損害についても責任を負いません。

v1.0

目次

概要	1
DxO光学モジュール	1
インターフェースの概要	3
画像の選択	9
画像の管理	9
画像の選択	14
画像のフィルタと選択	18
画像の補正とレタッチ	23
最初の補正作業	23
プリセットの適用	26
基本的な補正の適用	32
トーンと色の調整	51
ノイズ除去とシャープネス調整	54
部分調整とディテール補正	57
光学補正とジオメトリ補正	71
レンダリング調整	78
DxO ONEの画像を処理する	82
画像のエクスポート	84
画像のエクスポート	84
インターフェイス	85
ハードディスクへのエクスポート	87
別のアプリケーションへのエクスポート	90
Lightroomとの連携ワークフロー	91
Facebook へのエクスポート	93
Flickrへエクスポート	94
プリント	95
プリント - Windows	95
プリント- Mac OS X	98
メニューとキーボードショートカット	100
メニューとプリファレンス- Windows	100
キーボードショートカット	105
ライセンス認証とシステム要件	108
登録、ダウンロード、インストール、ライセンス認証	108
サポートしている画像形式	110

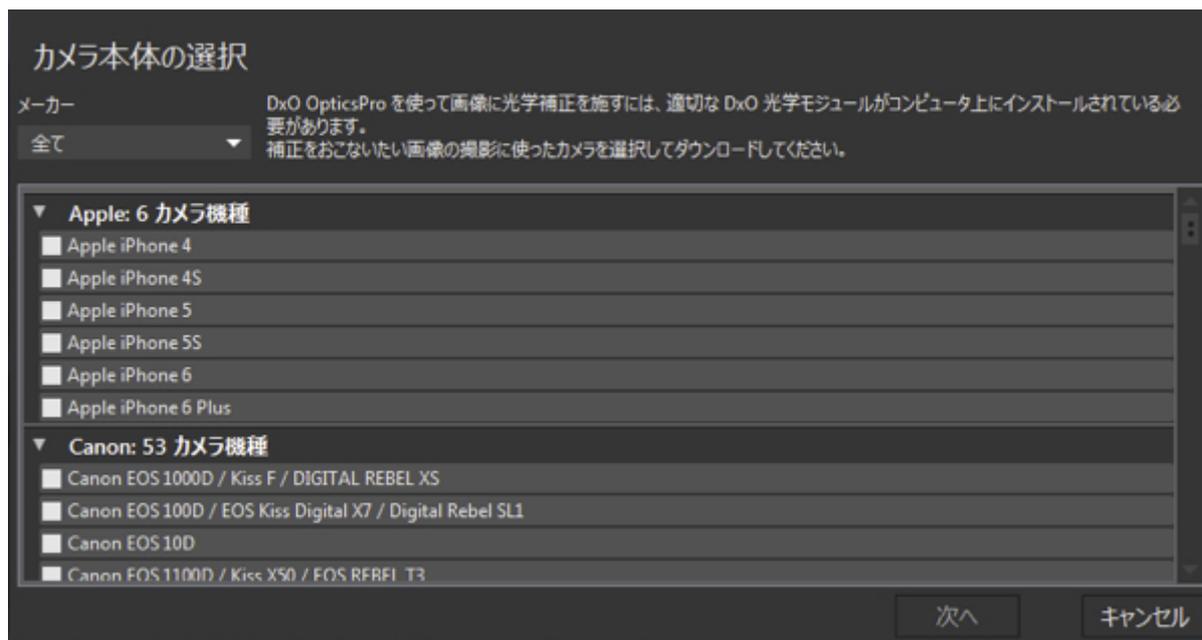
DxO 光学モジュール

DxO PhotoLab は、撮影機材に基づいた DxO 光学モジュールを使って自動処理が可能です。DxO 光学モジュールを管理できる2つのダイアログボックスも用意されています。

i DxO 光学モジュールの検索とインストールにはインターネット接続が必要です。以下のページから手動でダウンロードすることもできます。

新規 DxO 光学モジュールのインストール

DxO 光学モジュールのダウンロードウィンドウを表示するには DxO 光学モジュール > インストールされていないDxO光学モジュールのダウンロード (Windows)、DxO 光学モジュール > DxO 光学モジュール管理 (OS X) を選択します。



ダウンロードできるDxO光学モジュールの一覧がアルファベット順にメーカー別に表示されます。
Windows 版では、リスト全体の表示や、メーカー名のドロップダウンメニューから特定のメーカーモデルを表示することができます。

DxO 光学モジュールを追加でダウンロードするには :

Microsoft Windows

1. ダウンロードしたいカメラにチェックを入れます。
2. 次へをクリックします。
3. レンズを選択してチェックを入れます。
4. 次へをクリックします。
5. 選択したDxO光学モジュール (カメラとレンズの組み合わせ) のリストが表示されます。
6. 次へをクリックします。
7. モジュールがダウンロードされインストールされます。
8. インストールが完了した旨のダイアログボックスが表示されます。
9. OKをクリックして、モジュールインストーラを閉じます。

OS X

1. メーカー名の横にある三角形をクリックし、カメラモデルの三角形をクリックします。
2. リストからカメラとレンズの組み合わせを選択して、ダウンロードをクリックします。
3. モジュールがダウンロードされ、自動的にインストールされます。
4. 他のモジュールが必要な場合は同じステップを繰り返します。
5. 閉じるをクリックして、モジュールインストーラを閉じます。

インストールされている DxO 光学モジュールの管理

Microsoft Windows

DxO 光学モジュールウィンドウには、インストールされているモジュールがすべて表示されます。ウィンドウを開くには、DxO 光学モジュール > DxO

光学モジュールの有効性の表示・確認メニューを選択します。表示モジュールはフィルターをかけて絞り込むことができます。アップデートされたモジュールのみ、または対応していないモジュールのみを表示させることができます。



モジュールを再度ダウンロードするには、リストから選択して、インストールをクリックし、新規モジュールをインストールするウィンドウを開きます。

同じ方法でモジュールを削除することもできます。モジュールを削除して良いかどうか確認のダイアログボックスが開きます。

Mac OS X

〔DxO 光学モジュール〕メニューから〔DxO 光学モジュール管理〕を選択し、画面の左下にある〔インストールされたDxO 光学モジュールのみ表示する〕にチェックを入れると、コンピュータ内にインストールされている全てのモジュールを表示することができます。

追加のモジュールをダウンロードしてインストールするには、〔インストールされたDxO 光学モジュールのみ表示する〕のチェックを外して、モジュールをリストから選択して、モジュールの右にある〔ダウンロード〕をクリックします。

DxO光学モジュールをコンピュータから削除するには、リスト内で削除するモジュールを探し〔削除〕ボタンをクリックします。

i 進行中の処理で利用されているDxO光学モジュールは削除できません。削除する場合は、DxO PhotoLab を再起動して、画像を読み込む前にDxO光学モジュール管理を開いて削除します。

インターフェースの概要

- [選択タブについて](#)
- [設定タブについて](#)
- [主要ツールパレット](#)
- [パレットとワークスペース](#)

選択タブについて

インターフェイス

DxO PhotoLab

を起動すると選択タブが開きます。この最初の画面では、単体やバッチで処理したい画像が含まれたフォルダやプロジェクトを探したり選択することができます。



選択タブは4つのパネルから成り立っています：

1. コマンドバー：ファイルシステムのナビゲート、画像の表示、プリセットの適用。
2. 参照ブラウザ：フォルダやプロジェクト内を見て、処理したい画像を探します。
3. 画像ブラウザ：選択したフォルダやプロジェクト内の画像のサムネイルを表示。
4. 画像ブラウザ内で選択した画像のプレビュー表示。



これらの4つのパネルは、必要に応じて調整できます。それぞれは間にある縦横2つのセパレータで区切られており、中央に Windows の場合は矢印、OS X の場合は点が表示されています。それぞれのセパレータを動かしてサイズを変更することができます。

設定タブについて

設定タブはDxO PhotoLabのインターフェースの2番目のタブで、画像解析と画像補正のツールが全て入っています。



設定タブは4つのパネルに分かれています：

1. コマンドバー：主に画像の表示方法に利用します。参照タブのコマンドバーと似ていますが追加されている機能があります。
2. パレット：ウィンドウの右側に補正ツールが配置されています。このパレットは画面の左側に移動することも可能です。
3. プレビューパネル
：画像ブラウザで選択した補正画像を表示します。様々なツールを使った補正効果を確認することができます。2画面表示にして、補正前と補正後の画像を並べて表示することもできます。
4. 画像ブラウザ：すべてのタブで利用できます。プロジェクトやフォルダを参照して読み込んだ画像が表示されます。

補正パレットについて

DxO PhotoLab のDxO - スタンダードワークスペースには、全ての補正ツールとヒストグラムが5つの補正パレットに分類されています：

- ・ヒストグラム： RGB 各チャンネルの光分布と明度を表示します。
- ・主要ツール： 他のパレットにも入っている基本的な補正ツールが集められており、一目でアクセスできます。
- ・ライト： 露光とトーン補正に関するツール、コントラスト、ヴィネットなどが入っています。
- ・カラー： 色調補正に関するツール、例えばホワイトバランス、色彩強調、カラーレンダリングなどが入っています。
- ・ディテール： 画像のディテール再現に関するツール、例えばノイズ除去、xO レンズブラー、ダスト除去などが入っています。
- ・ジオメトリ： クロップ、水平、ディストーション (DxO 光学モジュール) が入っています。

新しいDxO -

スタンダードワークスペースには、基本的な補正ツールを集めた主要ツールパレットがあり、様々な補正ツールに簡単にアクセスできます。これらのツールは、他のテーマ別のパレットにも入っています。

- ・ライトパレットにも入っている補正ツール： 露光補正、DxO Smart Lighting、選択的トーン補正、DxO ClearView、コントラスト
- ・カラーパレットにも入っている補正ツール： ホワイトバランス、色彩強調
- ・ディテールパレットにも入っている補正ツール： ノイズ除去
- ・ジオメトリパレットにも入っている補正ツール： 水平、クロップ

i パレット間の重複表示を避けたい方は、自分でパレットをカスタマイズすることをお勧めします。

お使いのコンピュータに DxO FilmPack と DxO ViewPoint

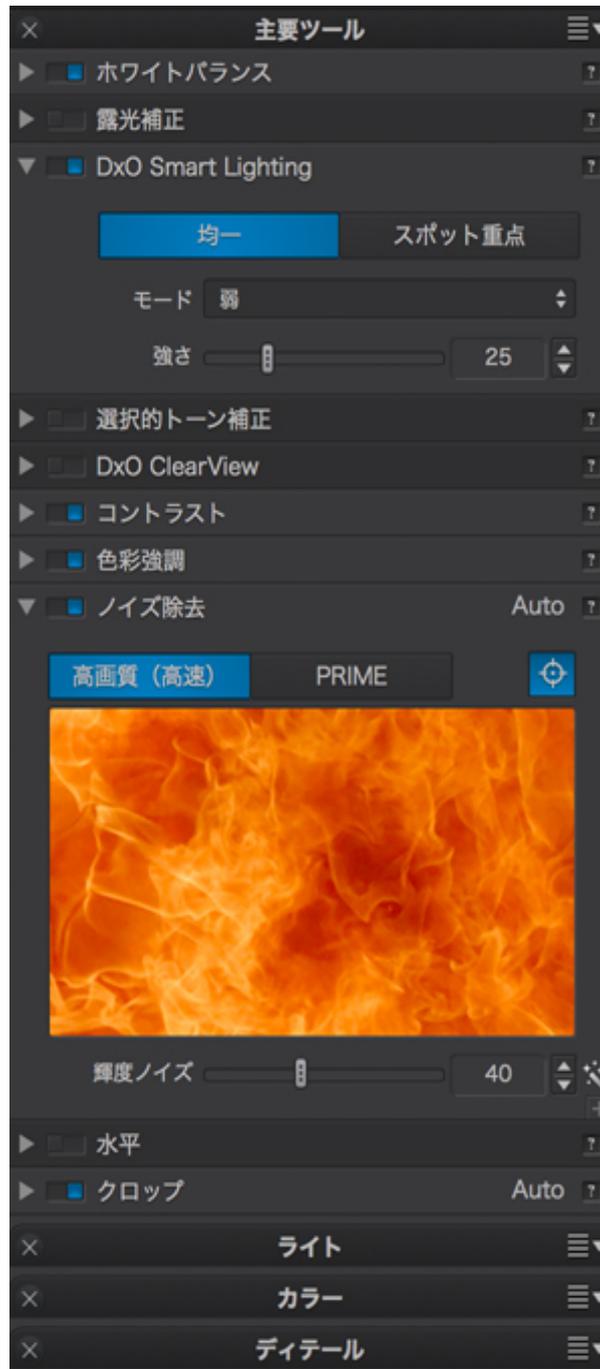
がインストールされライセンス認証されている場合、設定タブ内に、それぞれの専用パレットが表示されます。

補正パレットの中には、アドバンスの補正がオプションとして隠れています。オプション表示をクリックするか（Windows版）か、パレットの右下の+（または-）ボタンをクリックすると（Mac OS版）オプションが表示されます。

ローカルヘルプ

各補正パレットには、その場で見られるヘルプシステムが用意されています。パレットの右上にある小さいクエスチョンマークをクリックすると、各ツールの機能を紹介するヘルプテキストがパレットのツールの下に表示されます。もう一度クエスチョンマークをクリックすると非表示にできます。

主要ツールパレット



主要ツールパレットには、画像補正のための主要なツールが入っています:

- ホワイトバランス
- 露光補正
- **DxO Smart Lighting**（均一モードとスポット重点モード）
- 選択的トーン補正

- DxO ClearView (ELITE版のみ)
- コントラスト
- 色彩強調
- ノイズ除去
- 水平
- クロップ

 ツールに関する説明は、このユーザーガイドで後述します。

パレットとワークスペース

ワークスペースの基本

DxO PhotoLab

を起動して最初のワークスペースの右側には主要ツールが開き、編集時によく利用する重要なツールのみがあるパレットが表示されます。もちろんすべてのパレットを表示させることもできます。各ツールのタイトルバーをクリックするとパレットを拡張することができます。

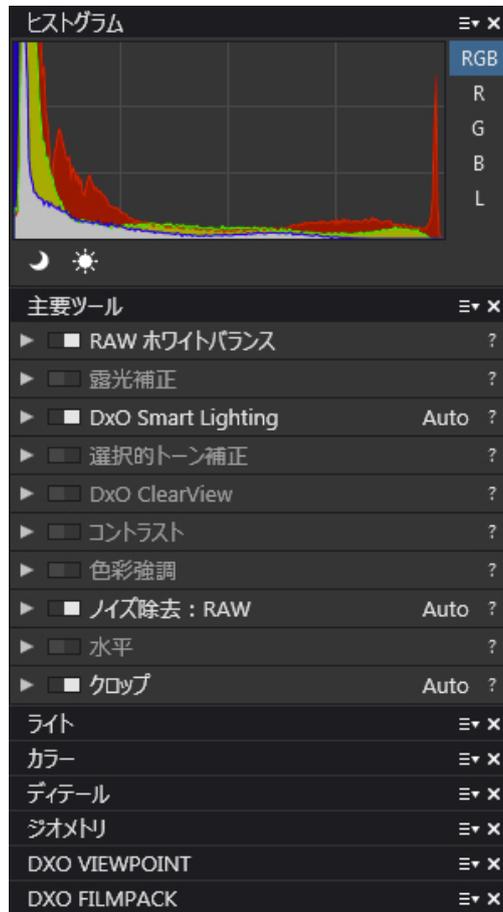
画面上部のコマンドバー、中央のパネル、処理中画像の表示などは、デフォルトのワークスペースから変更することはできません。その他であれば、独自のカスタムパレットを作成したり、パレットを非表示にしたり、好きな位置に配置して、ワークスペースを好きなように作成、保存、変更または削除することができます。

パレットの使い方と移動

補正パレットは利用できる補正項目がセットになっています。例えば主要ツールパレット内には、画像の基本的な設定に必要なホワイトバランス、露光、コントラストなどが用意されています。

 パレットのタイトルバーをクリックすると、パレットを開いたり閉じたりできます。パレットはタイトルの左にある三角形をクリックして開いたり閉じたりできます

デフォルトでは、補正パレットは画面の右側にドックされています。左側にはEXIF情報やプリセットパネル等、画像の解析関連のパレットが表示されます。これらのパレットはタイトルバーをドラッグすることで、画面内の好きな位置に移動できます。パレットを閉じるには、タイトルバーにある〔×〕をクリックします。閉じたパレットを再び表示するには、パレットメニュー (Windows)、または表示 > パレットメニュー (Mac OS X) から選択します。



各パレットのタイトルバーにあるドロップダウンメニューを使って、これらの操作をすることもできます。パレットを開く、閉じる、画面左側や右側に表示させる、パレットの並び順を変えることなどができます。

すべての必要なパレットを画面の片側に寄せることによって、画像プレビュー画面を広く取ることもできます。

i 画面プレビューを広く取るために、一時的にすべてのパレットを非表示にすることができます。Windowsでは、パレット > すべてのパレットを表示/非表示にする、またはF9キーを押す、OS Xでは、Tabキーを押します。

ワークスペースについて

初めて DxO PhotoLab を起動して設定タブを開くと、ワークスペースに以下のような補正パレットと補正サブパレットが表示されます：

- ヒストグラム：RGB チャンネルの明度分散を表します。
- 主要ツールパレットには基本的な補正ツールが入っています： ホワイトバランス、露光補正、DxO Smart Lighting、選択的トーン補正、DxO ClearView、コントラスト、色彩強調、ノイズ除去、水平、クロップです。
- それ以外のアドバンス補正パレットはデフォルトでは閉じています： ライト、カラー、ディテール、ジオメトリです。

i デフォルトの DxO - スタンダードワークスペースには、基本的な補正ツールを集めた主要ツールパレットに入っています。これらのツールは全て、それぞれのテーマ別のパレットにも入っています。よく使う補正ツールを集約したい場合、自分でワークスペースをカスタマイズすることも出来ます(Elite 版のみ)。

ユーザパレットの作成 (ELITE 版のみ)

自分が使いやすいパレットを簡単に作成できます：

Microsoft Windows

1. パレット > 新規ユーザーパレットの作成を開きます。
2. マイパレットウィンドウで、名前を入力します。

3. OKをクリックすると、新しいパレットが右側の他のパレットの下に表示されます。
4. 空のパレットに、よく使うツールをパレット内にドラッグ&ドロップします。
5. よく使うツールを登録したら、他のパレットを全部閉じて、作成したパレットだけ表示しておくことができます。

OS X

1. 表示 > パレット > 新規パレットを開きます。
2. 新規パレットウィンドウで、名前を入力します。
3. OKをクリックすると、新しいパレットが右側の他のパレットの下に表示されます。
4. 新規パレットのタイトルバー右にあるアイコンをクリックして、追加したいツールを1度に1つずつ選択します。カスタムパレットからツールを外したい場合には、同じアイコンを再び開き、チェックを外します。
5. よく使うツールを登録したら、他のパレットを全部閉じて、作成したパレットだけ表示しておくことができます。

カスタムワークスペースの作成

DxO PhotoLab では、お気に入りの作業環境をカスタムワークスペースとして保存しておくことができます。ワークスペースを保存するには：

1. 不要なパレットのタイトルバーにある [x] 印をクリックして閉じます。
2. 必要の場合はカスタムパレットを作成します。
3. 新規ワークスペースを保存します。ワークスペース > ワークスペースの保存を選択します。
4. ワークスペースの保存フローティングウィンドウで名前を入力します。
5. 保存をクリックします。

保存したカスタムワークスペースは以下から利用できます：

- ワークスペースメニュー (Windows)
- 表示 > ワークスペースメニュー (OS X)

 DxO PhotoLab を再起動すると、最後に使用していたワークスペースが開きます。

カスタムワークスペースを削除するには：

- ワークスペースメニューから、削除したいワークスペースを選択し、ワークスペースを削除を選択します。削除の確認画面が開きます。(Windows)
- 表示メニューからワークスペースを開きます。削除したいワークスペースを選択してから、ワークスペースを削除を選択します。削除の確認画面が開きます。(OS X)

 DxO - スタンダードワークスペースは削除できません。

画像の管理

- [参照ブラウザ](#)
- [バーチャルコピー](#)

参照ブラウザ

参照ブラウザはコンピュータやドライブ内のフォルダを表示したり、プロジェクトデータベース内のプロジェクトを参照できます。

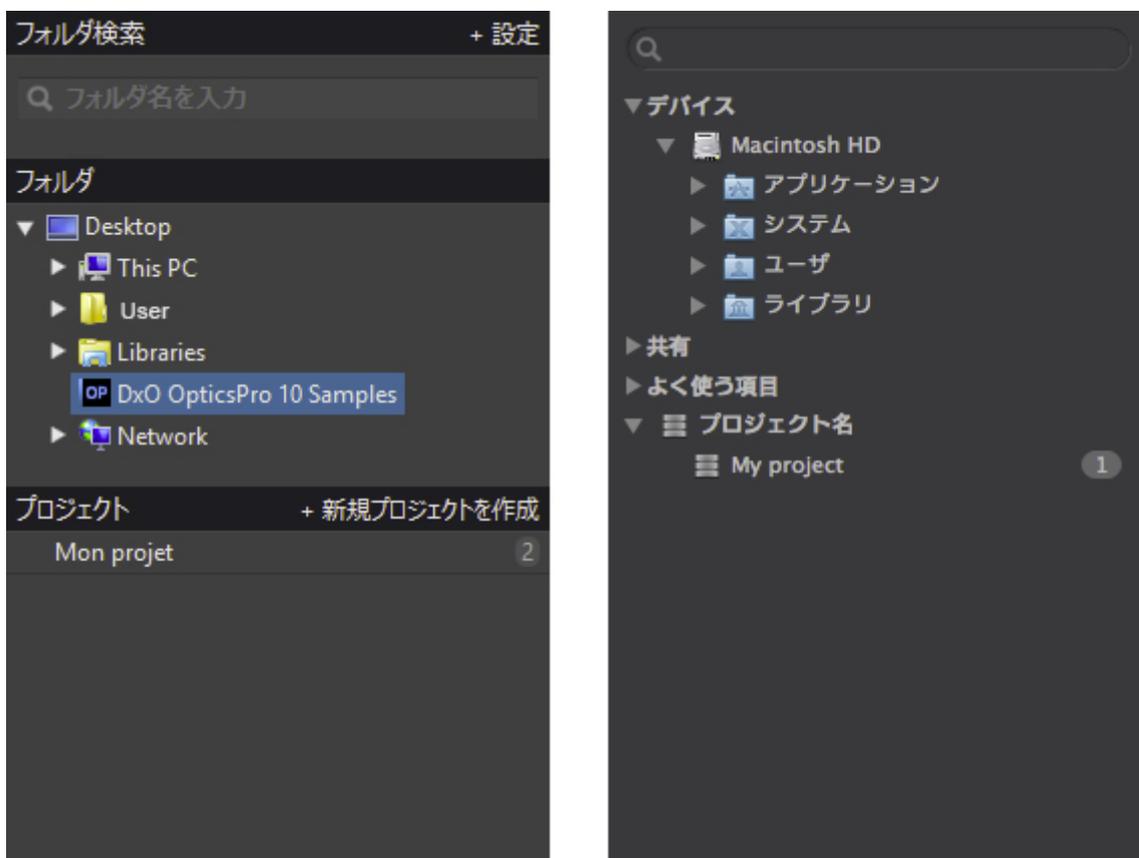
Windows 版では、4つのセクションに分かれています：

1. フォルダ検索
2. フォルダ
3. プロジェクト
4. DxO ONE カメラで撮影し、DxO Connect（DxO ONE 付属のソフトウェア）を使ってインポートされた画像のセクション

Mac OS X

版では、Finder

のサイドバーの区分（デバイス、共有、よく使う項目）に加えて、検索入力欄とプロジェクトフォルダが追加され、プロジェクトフォルダには DxO ONE で撮影され DxO Connect でインポートされた画像のセクションも含まれます。

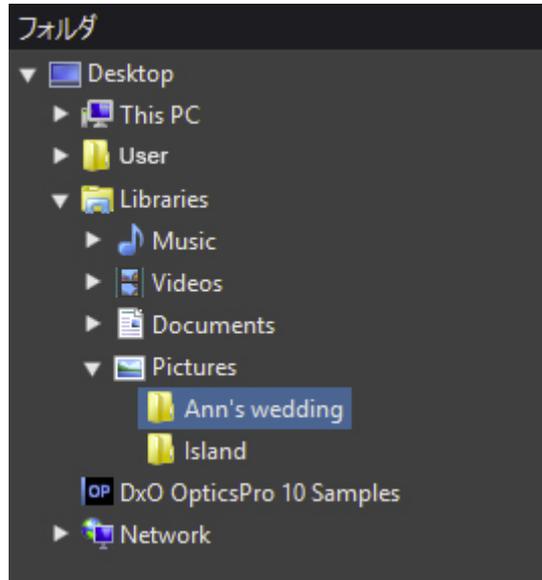


参照ブラウザ(WindowsとOS X)

フォルダの管理

コンピュータ内のフォルダを参照する（初期設定）

フォルダ内の内容を表示するには、参照ブラウザの中でフォルダを選択します。画像ブラウザ内で、フォルダ内の画像が直ぐに表示されます。コンピュータのハードディスク、接続されているハードディスク、そして接続されているサーバに保存されているフォルダの内容にもアクセスすることが可能です。



i 参照ブラウザの表示 / 非表示は、表示メニューの画像ブラウザを表示する / 隠すコマンドで選択できます。

フォルダの新規作成と名称設定

Windows

では、フォルダを新規作成するには、フォルダを追加したいフォルダ内で右クリックをし、表示されるコンテキストメニュー内で新規フォルダ作成を選択します。新規フォルダが作成され表示されます。名称を設定するには、コンテキストメニューのフォルダ名の変更オプションを選択します。Mac OS X では、Finder を通して作成します。

DxO PhotoLab

i 内で新規フォルダを作成すると、同時にハードディスク上に新規フォルダが作成されます。実際に作成されたどうかを確認するためには、Windows ではコンテキストメニューから、**Windows** エクスプローラで開くを選択するか、Mac OS X では、Finderを通してください。

フォルダの検索

参照ブラウザを使うと、ハードディスク上、接続されているディスク、接続されているサーバに保存されている全てのフォルダにアクセスできます。

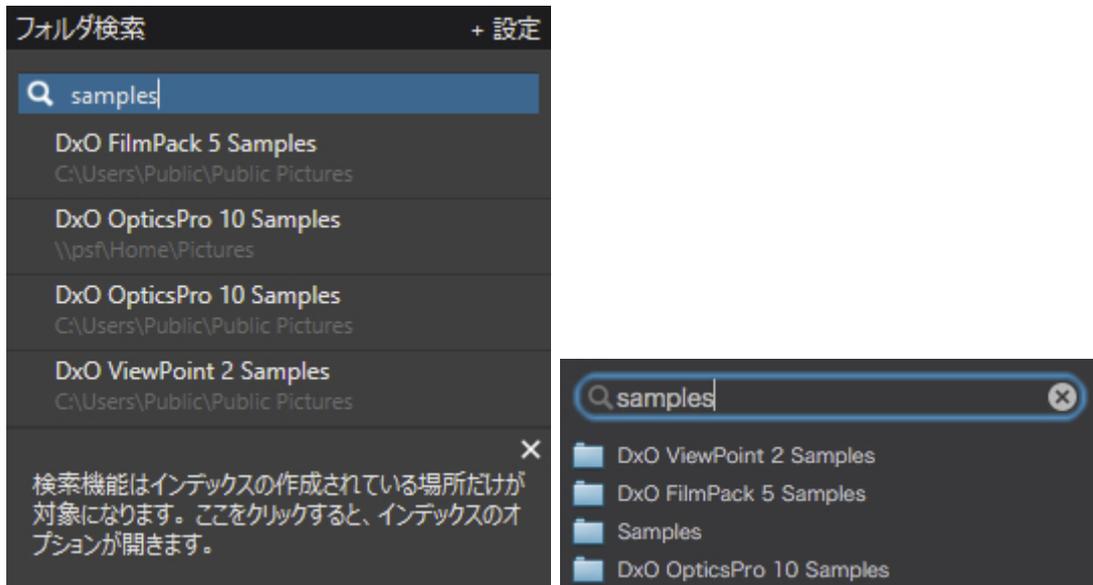
フォルダにアクセスするには、フォルダ検索

の入力欄に検索したいフォルダの名前を入力します。これに該当するフォルダが全て表示されます。フォルダ名の上でダブルクリックすると、参照ブラウザでフォルダの内容を表示できます。

Windows では、検索機能は Windows Search でインデックスを付けたフォルダと、インデックスは付いていないが DxO PhotoLab

内で既に開いたフォルダに適用します。設定

i ボタンをクリックすれば、インデックスのオプションウィンドウが開き、画像フォルダを追加することが可能です。Mac OS X では、検索機能は Spotlight でインデックスが付けられたフォルダとディスクに適用します。



フォルダ検索機能 (左: Windows版、右: Mac OS X)



画像ブラウザには、フォルダ内に入っている画像ファイルのみ表示されます。他のシステムファイルや、その他の形式のファイルは表示されません。



Ctrl+F を押すと、フォルダ検索の入力欄に、いつでもアクセスできます (Windows のみ)。

画像のコピーと移動

Windowsで、フォルダ内の1枚または複数の画像をコピーしたい場合、

画像ブラウザ内で、該当する画像のサムネイルを選択し、コピー先のフォルダにドラッグ&ドロップします。Mac OS X

の場合、同様の操作をAltキーを押したまま行います。Windows

で、フォルダ内の1枚の画像を移動したい場合、画像ブラウザ内で、該当する画像のサムネイルを選択し、移動先のフォルダにShiftキーを押したままドラッグ&ドロップします。Mac OS X の場合、移動先のフォルダにドラッグ&ドロップします。

プロジェクトでの管理

プロジェクトには様々な元画像を含めることができます。撮影日やカメラの種類、レンズ、シャッタースピード、露出度その他で管理できるだけでなく、CD-ROMやDVD、ハードディスクなど別々の保存場所にある画像を一カ所で管理することもできます。

プロジェクトはファイル >



プロジェクトを開くまたは前回の画像参照場所 (Windows)、プロジェクトを開くまたは最近使用したプロジェクト (Mac OS X) から開けます。

プロジェクトの参照

Windows

では、参照ブラウザのプロジェクトセクションで参照したいプロジェクトをクリックします。プロジェクトの内容が画像ブラウザ内でサムネイルとして表示されます。プロジェクト名横に表示されている数字は、プロジェクト内に入っている画像の数を示しています。Mac OS X

では、プロジェクトは参照ブラウザのフォルダツリーの一部として表示されます。



DxO PhotoLab を最初に起動する時、プロジェクトのリストは空です。

プロジェクトの新規作成と削除

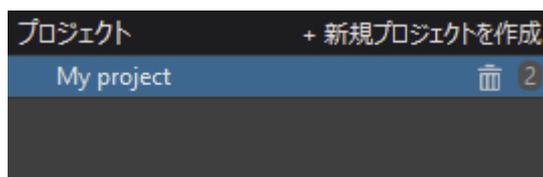
Windows

で、新規プロジェクトを作成するには、プロジェクトセクションの一番上にある+新規プロジェクト

を作成ボタンをクリックします。新規プロジェクトがリストに追加され、直接名称設定をすることができます。Mac OS X

では、参照ブラウザのフォルダツリー内のプロジェクト名をクリックします。次に参照ブラウザの下のコマンドバーの+

ボタンをクリックします。フォルダツリー内に新規プロジェクトが表示されたら、直接名称設定をすることができます。



複数の画像を選択して新規プロジェクトを作成する場合、画像ブラウザ内で画像を選択して、右クリックをして現在選択されている画像からプロジェクトを作成するコマンドを選択します。Windowsでは、参照ブラウザのプロジェクトセクションに新規作成されたプロジェクトが追加されます。追加されたら名称を設定します。Mac OS Xでは、新規作成されたプロジェクトの名称を入力するためのダイアログボックスが表示されます。

i プロジェクトはアルファベット順に並んでいますが、いつでも名称を変更することが可能です。プロジェクト名の上でダブルクリックするか、右クリックをしてコンテキストメニューからプロジェクトの名称変更を選択します。

Windows



でプロジェクトを削除するには、リストからプロジェクトを選択し、アイコンをクリックするか、プロジェクト名の上で右クリックをし、コンテキストメニューから選択されたプロジェクトの削除を選択します。操作の確認をするためのダイアログボックスが開きます。Mac OS Xでは、参照ブラウザのフォルダツリーのプロジェクト名をクリックします。次に参照ブラウザの下のコマンドバーの - ボタンをクリックします(操作の確認をするためのダイアログボックスが開きます)。

既に作成されたプロジェクトに画像を追加

すでにあるプロジェクトにさらに画像を追加する場合は、画像ブラウザで画像を選択して(Ctrl+クリックまたはShift+クリック)、または右クリックしてコンテキストメニューから現在選択されている画像をプロジェクトに追加を選択します。メニューから既存のプロジェクトを選択することもできます。全てのプロジェクトを表示(Windowsのみ)でフローティングウィンドウ内に既存のプロジェクトをすべて表示することができます。

i プロジェクトを開いてから、Windows エクスプローラ (Windows)、またはFinder (Mac OS X) から画像をドラッグ&ドロップすることもできます。

プロジェクトに画像を追加するのに、ドラッグ&ドロップを利用できます。画像ブラウザ内で追加したい画像のサムネイルを1枚または複数選択し、追加したいプロジェクトの名前にドラッグ&ドロップします。

i 現在選択されている画像からプロジェクトを作成する、現在選択されている画像をプロジェクトに追加のどちらも、選択、設定タブ内で画像メニューから開くことができます。

画像ブラウザのコマンドバーには、左から右に、選択したプロジェクト名、選択している画像のファイル名 (Windowsのみ)、選択した画像点数、プロジェクト内の画像点数が表示されています。プロジェクト内には何点でも画像を追加できます。また同じ画像を異なるプロジェクトに追加することもできます。

i 複数のプロジェクトに画像を追加しても、画像自体は複製されません。複数のプロジェクトに同じ画像を追加している時、例えば1つのプロジェクトから画像を削除しても、他のプロジェクトからは削除されません。またプロジェクトから画像を削除しても、オリジナルの元画像は保存してあるディスクから削除されません。複数のプロジェクトに追加されている画像を補正すると、その画像が追加されているすべてのプロジェクト内で変更されます。1つの画像で異なる補正設定をしたい場合には、バーチャルコピー機能を使います。

バーチャルコピー

バーチャルコピーについて

バーチャルコピーは元画像と同じ画像がコピーされ、それぞれ異なる設定ができるようになります。バーチャルコピーは同じ画像から設定を試して

みたい数だけいくつでも作成することができます。

バーチャルコピーの作成と削除

バーチャルコピーの作成:

1. 画像ブラウザ内でバーチャルコピーを作成したい画像を選択します。
2. サムネイル上で右クリックして、コンテキストメニューからバーチャルコピーを作成を選択します。画像メニュー内にも同じ機能が用意されています。またはキーボードショートカットCtrl +J(Windows), +D(OS X)を利用できます。
3. 画像ブラウザ内の元画像のサムネイルの横に、新しいサムネイルが表示されます(ソート順が「ファイル名」になっている場合、変更している場合はソート条件によって変わります)。
4. 元画像の左下隅には四角形の中に「1」と表示されます。各バーチャルコピーには作成順に「2,3,4-」と表示されます。

i バーチャルコピーは、プロジェクトに登録したり、プリセットの適用、処理、プリントなど、通常の元画像と同じように扱えます。

バーチャルコピーの削除:

1. 画像ブラウザ上で右クリックします。
2. キーボードのDeleteキーを押します。

i プロジェクトを使っている場合にはバーチャルコピーは削除できません。プロジェクトから削除できますが、オリジナル画像が含まれたフォルダを開くと表示されます。

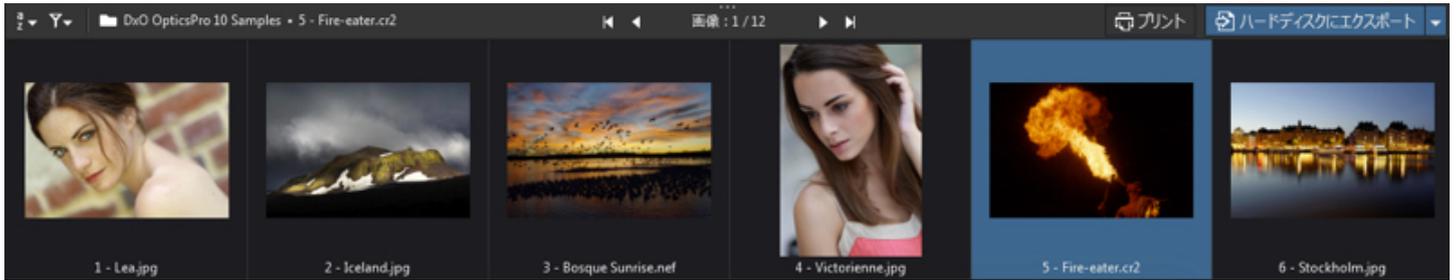
参照画像としてバーチャルコピーを使う

作成したバーチャルコピーは、元画像と比較表示することができます。また他のバーチャルコピー同士とも比較することが可能です。

1. 画面上にあるコマンドバー(設定タブと選択タブ)の、画像比較ボタン(Windows版)か、2画面並列表示ボタン(Mac版(¥))の右にある逆三角をクリックしてください。参照画像メニューが開きます。
2. 画像に関連するすべてのバーチャルコピーが表示されます。処理されている必要があるため、処理されていない画像はグレイアウトされています。
3. 選択できる中から画像を選択します。この画像は参照画像となり、並列表示の左側に表示されます。

画像の選択

画像ブラウザには、左側の参照ブラウザで選択されたフォルダやプロジェクト内の画像が表示されます。画像ブラウザで画像を1枚選択すると、その画像がメイン画面の一番大きいウィンドウにプレビューされます。



画像ブラウザ

画像ブラウザ(ドックされた状態)

画像は横並びでサムネイルとして表示されます。左右はスクロールバーやマウスホイール、トラックパッドなどを使って移動できます。画像プレビュー間のセパレートバーを上下に移動することでサイズを変更できます。

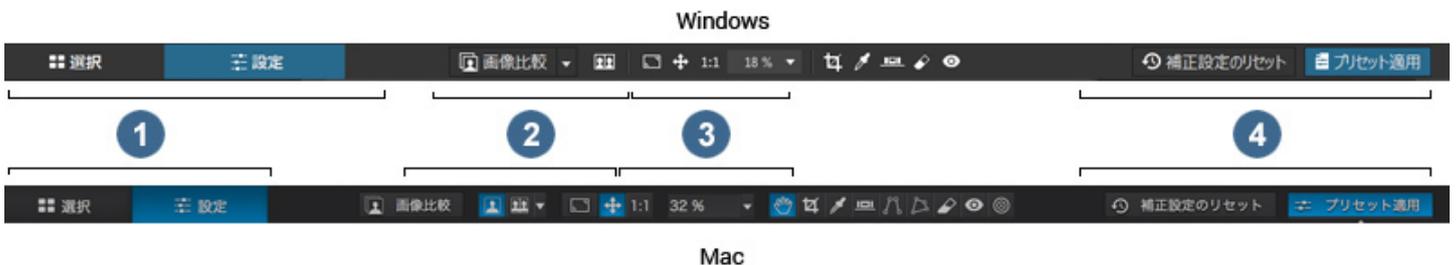
画像ブラウザを切り離す(アンドックする)

セカンドモニターを利用している場合など、画像ブラウザを切り離して利用すると便利です。

- 画像ブラウザを切り離すには、表示メニューから画像ブラウザをアンドックするを選択します(Ctrl+U)。
- 画像ブラウザを再びドックするには、表示メニューから画像ブラウザをドックするを再び選択します(Ctrl+U)。

切り離された画像ブラウザはフローティングウィンドウとして表示されるので、セカンドモニター上など、どこにでも移動することができます。画像ブラウザを移動すると、メインのプレビューエリアが広く使えます。サイズ変更やスクロールバー、ナビゲーションボタンも用意されています。コマンドバーにあるスライダを使って、サムネイルサイズを調整できます。

画像ブラウザのコマンドバー



1. 選択フォルダ名またはプロジェクト名、また選択またはマウスポインターがかかっている画像のファイル名
2. ソートとフィルタのオプション:
 - ソート:画像ブラウザ内の並び順の条件を選択できます(後述の「画像のソート」の部分参照してください。)
 - フィルタ:表示フィルタを選択するボタン(後述の「画像のフィルタ」の部分参照してください。)
3. ナビゲーションボタン:前後の画像、または最初や最後の画像に移動します。
4. 画像ブラウザ内の選択画像点数、また選択したフォルダまたはプロジェクトの画像点数
5. エクスポート処理ボタン
:デフォルトでは、このボタンは小さな進行バーを表示します。ボタンをクリックするとフローティング進行パレットが表示され、進行バーと進行中または終了したエクスポートの詳細が表示されます。
6. プリントボタン:選択された画像をプリントするための、ダイアログを開きます。
7. ハードディスクへエクスポート:ドロップダウンメニューからハードディスクや外部アプリケーション、またはFacebookアルバム、Flickrギャラリーへの書き出しが行えます。

i 画像ブラウザが切り離されている場合は、コマンドバーにサムネイルのサイズが変更できるスライダが表示されます。

画像ブラウザの情報メッセージ

画像ブラウザが空の場合、表示できる画像が無いことを知らせるメッセージが表示されます。画像ブラウザが空になる主な理由は以下の通りです：

- フィルタ条件にあった画像がフォルダ内にない。
- フォルダ内に画像がない。

画像のソート

ソート機能は、ファイルシステムや、プロジェクトと同じように機能します。ソートボタンをクリックすると表示されるダイアログボックスから選択した条件に従って、画像を並べ替えることができます。ソートボタンの並べ替え条件は以下の通りです：

Microsoft Windows

- 登録日:プロジェクトに追加された日付順
- フォーマット(**RAW/JPEG**):同じフォルダやプロジェクト内にある場合にRAWとRGBを並べ替えます。
- ファイル名:アルファベット順のファイル名
- 拡張子:.jpg,.tiff,.NEF,.CR2などアルファベット順
- サイズ:ファイルサイズ(MB)
- 作成日:撮影日,作成日,または変更日です。フォルダ内の最も新しいファイルを探したい場合などに便利です。
- 画像サイズ::ピクセル数(幅 x 高さ)
- カメラ機種:カメラ本体のメーカーとモデル
- レンズ:メーカーとモデル
- レーティング:星マークの数(このオプションは編集 > プリファレンス > 表示で選択した場合のみ表示されます)
- ISO感度:ISO設定
- バーチャルコピー連番:すべてのバーチャルコピーを元画像と一緒にグループにできます。
- 処理ステータス:4つのステータス,エラー,実行済,処理中,処理待ちがあります。(このオプションは編集 > プリファレンス > サムネイルで選択した場合のみ表示されます)

Mac OS X

- ファイル名:アルファベット順のファイル名
- 登録日:プロジェクトに追加された日付
- フォーマット(**RAW/JPEG**):同じフォルダやプロジェクト内にある場合にRAWとRGBを並べ替えます。
- 拡張子:.jpg,.tiff,.NEF,.CR2などアルファベット順
- サイズ:ファイルサイズ(MB)
- 作成日:撮影日,作成日,または変更日です。フォルダ内の最も新しいファイルを探したい場合などに便利です。
- 画像サイズ::ピクセル数(幅 x 高さ)
- カメラ機種:カメラ本体のメーカーとモデル
- レンズ:メーカーとモデル
- レーティング:星マークの数
- ISO感度:ISO設定

 表示されていない画像は、補正設定や処理用に選択できません。

画像のフィルタ

画像ブラウザに表示するサムネイルにフィルタをかけることができます。項目にチェックがかかっていない場合はその条件に該当する画像は表示されません。利用可能なフィルタボタンの上から順に：

Microsoft Windows

- 画像の種類:RAWまたはRGB(RAW以外の対応ファイル形式),DxO PhotoLabで処理された画像
- ノイズ除去:高画質またはPRIMEノイズ除去 エンジンのどちらかを使って処理する画像
- 処理タグ::処理可能タグ設定,処理タグ未設定,非処理タグ設定
- レーティング:*:0から5までの星マークの数

- ・リセット:フィルタをリセットしてデフォルト設定に戻します(すべての画像を表示します).

Mac OS X

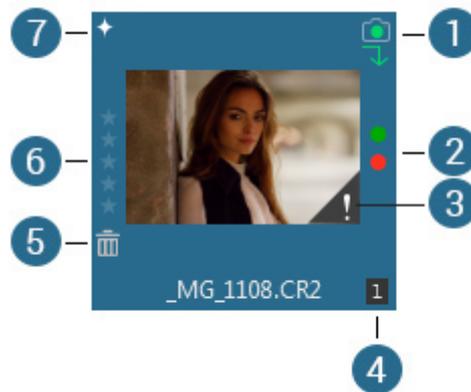
- ・画像の種類:RAWまたはRGB(RAW以外の対応ファイル形式),DxO PhotoLabで処理された画像
- ・光学モジュールのステータス:モジュールが利用可能かどうか,モジュールの曖昧性等
- ・ノイズ除去:HighまたはPRIMEノイズ除去 エンジンのどちらかを使って処理された画像
- ・処理タグ::処理可能タグ設定,処理タグ未設定,非処理タグ設定
- ・レーティング:*:0から5までの星の数
- ・リセット:フィルタをリセットしてデフォルト設定に戻します(すべての画像を表示します).

* プレファレンス>サムネイル>アイコンを表示設定ができます.

i フィルタを実行すると,ソフトウェアを再起動した後も有効です.

サムネイルアイコン

通常,画像ブラウザ内のサムネイルには,画像ファイル名,または画像エクスポート中のアイコンだけが表示されます.問題がある場合,それを知らせるアイコンが同時に表示されます.



1. DxO光学モジュールのステータスアイコン:画像に関連したDxO 光学モジュールの状況を表しています:



利用可能なDxO 光学モジュール無し



DxO 光学モジュールのダウンロードが可能



DxO 光学モジュール曖昧性あり(アイコンをクリックすると正しいDxO 光学モジュールを選択するダイアログボックスが表示されます.互いによく似たレンズの場合などです.)



DxO 光学モジュール曖昧性が解決済み

2. 処理タグ:処理タグのはデフォルトでは無効になっています。処理可能タグ(緑の)と非処理タグ設定(赤の)

処理タグ ○ ○

)があります。どちらのタグもついていない場合は、はグレーのままです。

3. 処理ステータスアイコン:以下に示すアイコンが,各画像の実際の処理ステータスを表しています:



画像の処理ステータス:

- エクスポート後に画像の補正内容が変更(Microsoft Windowsのみ)
- 処理不可(画像サイズが小さすぎたり,画像形式がサポートされていない場合,例えばサポートされていないカメラのDNG画像)



すでに処理が完了



処理時にエラー



現在処理中の画像



処理待ちの画像

4. バーチャルコピー:バーチャルコピーを作成した場合の番号(1,2,3等)が表示されます.1番は元画像です.
5. 削除アイコン:元画像をディスクから削除する,またはバーチャルコピーを画像ビューワーから削除します.
6. レーティングアイコン:画像のレーティングを 0 から 5 の星マークの数で表示します.
7. **PRIME**.エクスポートの際に PRIME ノイズ除去エンジンが実行される画像に表示されます.

 サムネイル上にマウスカーソルを移動したときに現れるアイコンの表示/非表示を [プリファレンス](#) 内で設定できます.

画像のフィルタと選択

- [画像ブラウザを使って画像をフィルタする](#)
- [全画面表示モードで画像を選択する](#)

画像ブラウザを使って画像をフィルタする

画像ブラウザに表示するサムネイルにフィルタをかけることができます。項目にチェックがかかっていない場合はその条件に該当する画像は表示されません。利用可能なフィルタボタンの上から順に:

Microsoft Windows

- 画像の種類:RAWまたはRGB(RAW以外の対応ファイル形式),DxO PhotoLabで処理された画像
- ノイズ除去:高画質またはPRIMEノイズ除去 エンジンのどちらかを使って処理する画像
- 処理タグ::処理可能タグ設定,処理タグ未設定,非処理タグ設定
- レーティング:*.0から5までの星マークの数
- リセット:フィルタをリセットしてデフォルト設定に戻します(すべての画像を表示します)。

Mac OS X

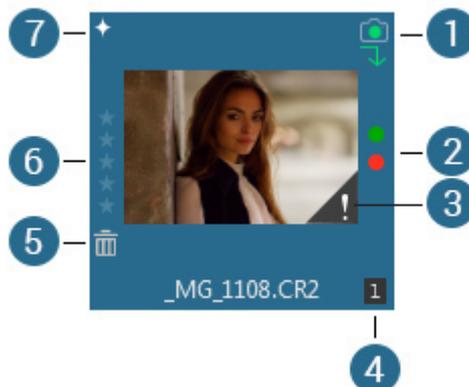
- 画像の種類 :RAWまたはRGB(RAW以外の対応ファイル形式),DxO PhotoLabで処理された画像
- 光学モジュールのステータス:モジュールが利用可能かどうか,モジュールの曖昧性等
- ノイズ除去 :HighまたはPRIMEノイズ除去 エンジンのどちらかを使って処理された画像
- 処理タグ::処理可能タグ設定,処理タグ未設定,非処理タグ設定
- レーティング:*.0から5までの星の数
- リセット:フィルタをリセットしてデフォルト設定に戻します(すべての画像を表示します)。

* プレファレンス > サムネイル > アイコンを表示設定ができます。

 フィルタを実行すると,ソフトウェアを再起動した後も有効です。

サムネイルアイコン

通常,画像ブラウザ内のサムネイルには,画像ファイル名,または画像エクスポート中のアイコンだけが表示されます。問題がある場合,それを知らせるアイコンが同時に表示されます。



1. DxO光学モジュールのステータスアイコン:画像に関連したDxO 光学モジュールの状況を表しています:



利用可能なDxO 光学モジュール無し

DxO 光学モジュールのダウンロードが可能

DxO 光学モジュール曖昧性あり(アイコンをクリックすると正しいDxO

光学モジュールを選択するダイアログボックスが表示されます。互いによく似たレンズの場合などです。)



DxO 光学モジュール曖昧性が解決済み

2. 処理タグ:処理タグのはデフォルトでは無効になっています。処理可能タグ(緑の)と非処理タグ設定(赤の)

)があります。どちらのタグもついていない場合は、はグレーのままです。



3. 処理ステータスアイコン:以下に示すアイコンが、各画像の実際の処理ステータスを表しています:



画像の処理ステータス:

- エクスポート後に画像の補正内容が変更(Microsoft Windowsのみ)
- 処理不可(画像サイズが小さすぎたり、画像形式がサポートされていない場合、例えばサポートされていないカメラのDNG画像)



すでに処理が完了



処理時にエラー



現在処理中の画像



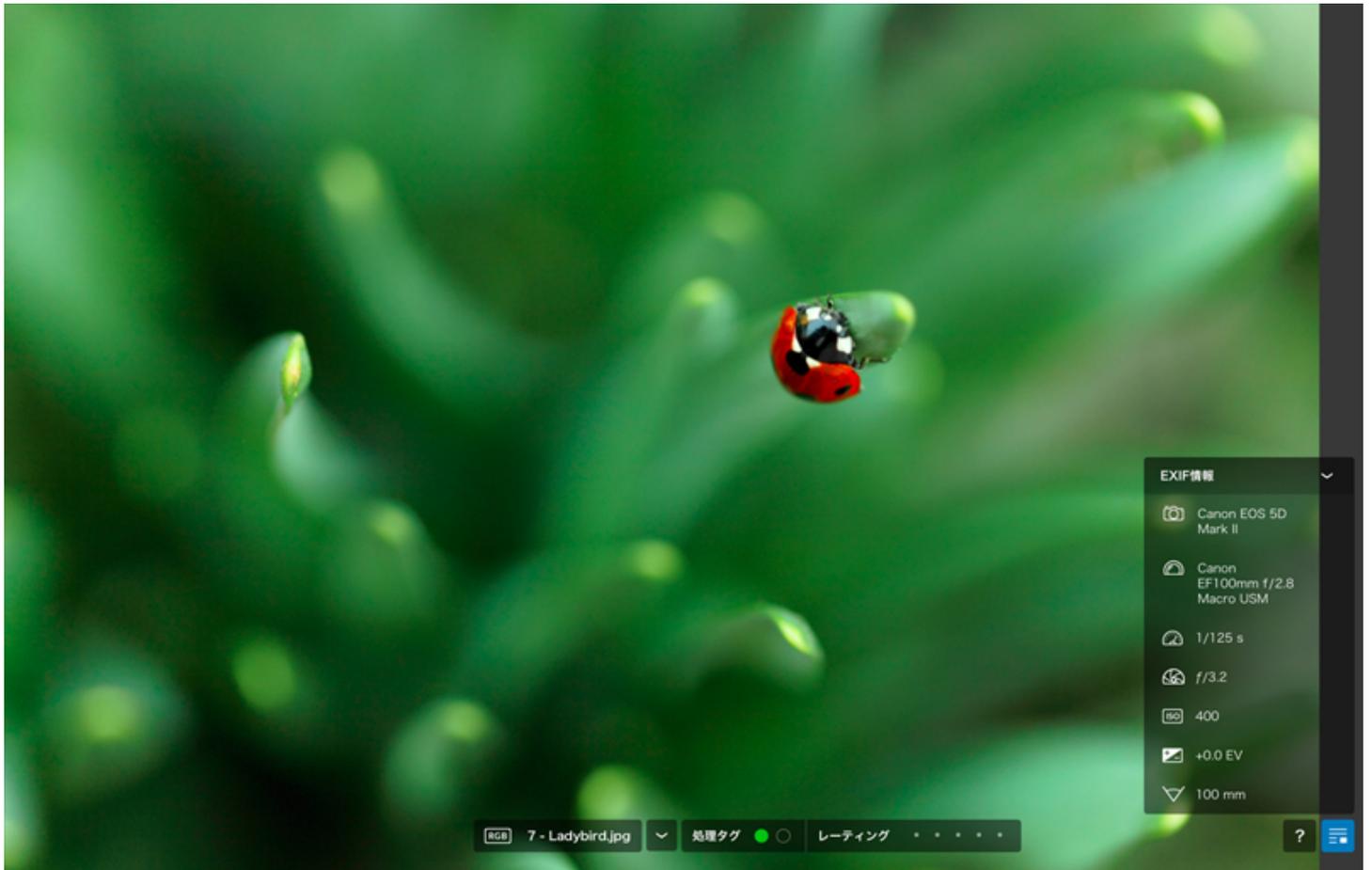
処理待ちの画像

4. バーチャルコピー:バーチャルコピーを作成した場合の番号(1,2,3等)が表示されます。1番は元画像です。
5. 削除アイコン:元画像をディスクから削除する、またはバーチャルコピーを画像ビューワーから削除します。
6. レーティングアイコン:画像のレーティングを0から5の星マークの数で表示します。
7. PRIME.エクスポートの際にPRIMEノイズ除去エンジンが実行される画像に表示されます。

サムネイル上にマウスカーソルを移動したときに現れるアイコンの表示/非表示を [プリファレンス](#) 内で設定できます。

全画面表示モードを使って画像を選択する

全画面表示モードは、画面にインターフェースの他の要素を表示せず、画像だけを表示することで、補正後の画像と参照画像(補正前の画像、バーチャルコピー等)を比較したり、レーティングや処理タグをつける操作を快適に行うことができます。



画像の全画面表示モード

全画面表示を有効にする方法:



- コマンドバーの  アイコンをクリックする。
- 表示メニュー>画像の全画面表示を選択する。
- キーボードショートカットF12キー(Microsoft Windows) ,または Cmd+Shift+F(OS X)を使う

 画像の全画面表示モードは,選択タブと設定タブの両方で利用可能です。

画像ブラウザに関して

- 画像を一枚一枚移動するには,キーボードの矢印キーの右と左を使います。
- 画像を削除するには, Deleteキーを押すか(Microsoft Windows),Cmd + Deleteキーを押します(Mac OS X)。
- 画像をプレビュー画面にズームフィットで表示するには,F3キー(Microsoft Windows),またはCmd + 0 キー(Mac OS X)を押します。
- ズーム率100%で表示するには, F4キー(Windows)を押すか, Cmd + 1キーを押します(Mac OS X)。
- ズームフィットモードと ズーム率100%モードを交代で表示するには,画像の上でダブルクリックをします。

Windows

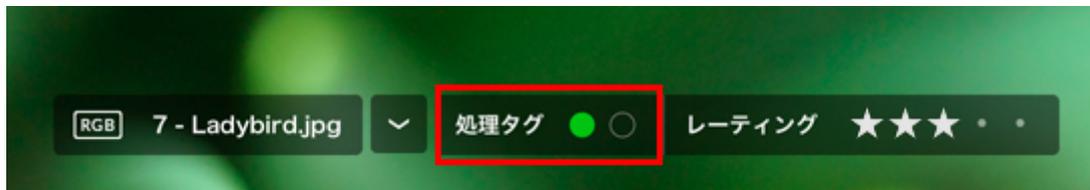
では,画像の全画面表示モード使用時に画面上で拡大ズームをすると,ナビゲータ画面にルーペが表示されます。ナビゲータ画面を表示/非表示にするには,画面右下のボタンをクリックします。画像内でズームすると,ナビゲータ画面にルーペが表示され,ルーペの四角を移動して画像内を移動することができます。

処理タグ付けとレーティング

画面中央下の矢印アイコンをクリックすると,画像形式と画像ファイル名,そして処理タグと画像レーティングが表示されているツールバーが現れます。このツールバーを隠すには同じ矢印アイコンを再度クリックします。



処理タグをつけるには、画像下に表示されている処理タグ右の印をクリックします。左は処理可能タグ設定(緑の)で、右は非処理タグ設定(赤の)ができます。一旦設定したの上で再びクリックすると設定を解除できます。



- 処理タグの設定は、7キー(処理可能タグ)と8キー(タグなし)と9キー(非処理タグ)でも行うことができます。
- 画像に1から5までのレーティングをつけるには、星マークをクリックするか(Windows)、点をクリックします(Mac OS X)。キーボードの上下の矢印キーか、1から5までの数字キーを使ってレーティング設定ができます。0キーをクリックするとレーティングをリセットできます。



i Adobe Lightroom を使っている方は、Pキー(処理可能タグ)、Uキー(取消し)、Xキー(非処理タグ)を使うことができます。

画像比較

画像の全画面表示モードでは、2つの比較方法があります:スピード比較は、2枚の画像を交互に表示し、1画面2分割プレビューでは、スライド可能な境界線がついています。また、画像比較のための参照画像を選択することも可能です。

スピード比較

補正前の画像と補正後の画像を瞬時に比較する場合、ツールバーの右側から2番目のスピード比較ボタンをクリックします。ショートカット[Ctrl+D](Windows)と[D](Mac OS X)も使えます。

1画面2分割プレビュー

1画面2分割プレビューボタンをクリックすると、画像上にスライド可能な境界線が表示されます。境界線は、左右どちら方向にも完全に移動可能です。境界線の左側が補正前の画像、右側が補正後の画像になります。

1画面2分割プレビューボタンの上にマウスを持ってくると、2つ目のボタンが表示されます。このボタンをクリックするか、境界線のハンドル上でダブルクリックすると、左右2分割を上下2分割に変更できます。この場合、境界線の上側が補正前の画像、下側が補正後の画像になります。

1画面2分割プレビューをやめるには、ツールバーの1画面2分割プレビューボタンをクリックします。

ズーム率100%表示を、スピード比較と1画面2分割プレビューのどちらでも利用できます。

参照画像との比較

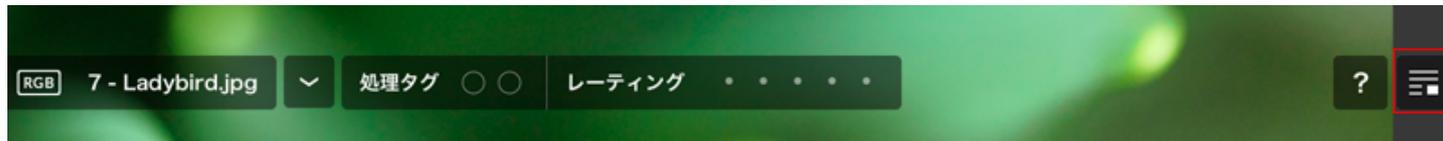
画像の全画面表示モードは、補正された画像と、例えばバーチャルコピーなどの別の補正を施した画像や補正処理をしてエクスポートした画像を比較することができます。

ツールバーの右端の矢印をクリックし、メニューから比較したい画像を選択します。

別の画像を参照している時、スピード比較や1画面2分割プレビューも可能です。この場合、参照する画像が左(上下分割の場合は上)になります。

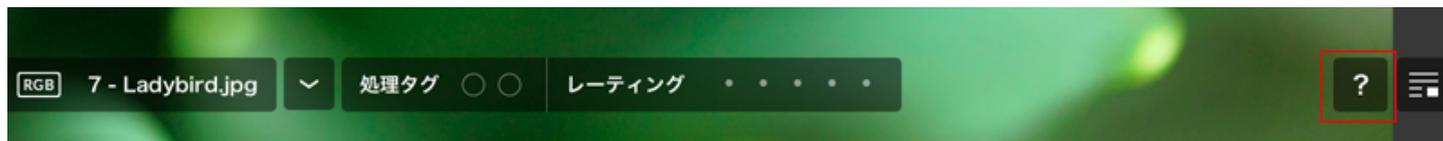
撮影時パラメータの表示

選択した画像のEXIF情報を表示するには、画面の右下のボタンをクリックするか、キーボードのIキーを押します。再度クリックすると非表示になります。



キーボードショートカットの早見表

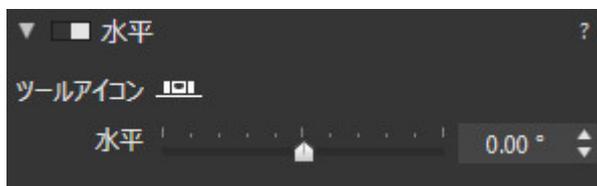
画像の全画面表示モードでのキーボードショートカットのリストは、画面右下の?マークをクリックすると表示されます。また、F1キー(Windows)とCmd + ? キー(Mac OS X)も同様に使えます。



最初の補正作業

- [水平](#)
- [クロップ](#)

水平



パース補正 / 水平パレット

水平ツールは、傾いた画像を水平に補正できます。自動モードと手動モードが利用できます。

自動モード：

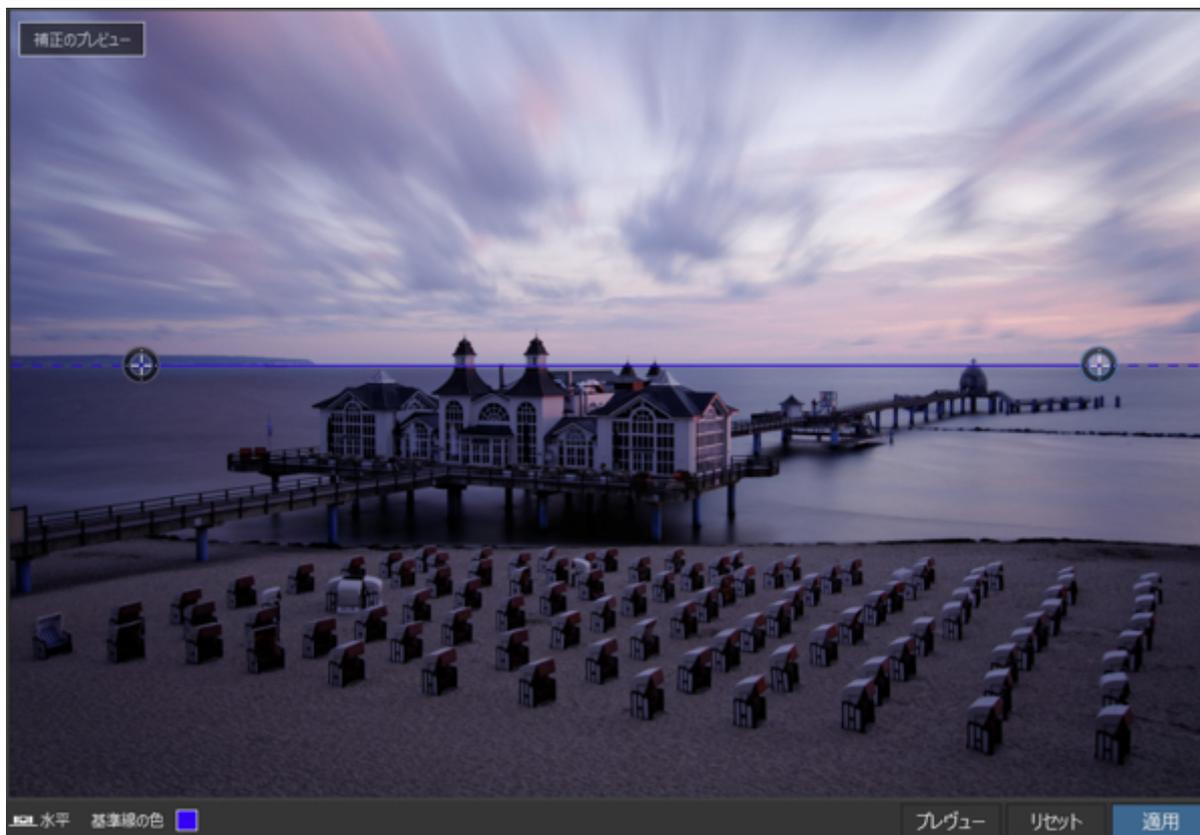
1. 水平スライダの右にあるマジックワンドアイコンをクリックします。
2. 自動パース補正をキャンセルするには、マジックワンドを再度クリックします。
3. 補正の微調整をするには、水平スライダを使います。

手動モード：

このモードでは、ユーザの判断で水平の傾きを補正することができます（このツールは、コマンドバーからでもアクセス可能）。

水平ツールの利用は簡単です。何度も試したりする必要はありません（コマンドバーからも利用できます）：

1. 水平ボタンをクリックします。
2. 画像内で、傾いた水平線上にラインが重なるようにアンカーポイントを移動します。
3. 画像内に新しくラインを引き、アンカーポイントを移動して調整することも可能です。
4. 画像を拡大ズームした場合、移動/ズームパレット内で位置を確認できます。
5. 画像の右下にあるプレビューボタンをクリックすると水平補正がなされます。
6. リセットボタンをクリックすると補正をキャンセルして元の状態に戻れます。
7. 適用ボタンをクリックすると補正が適用されます。



i プレビューをせずに直接補正を適用することも出来ます。

水平ツールは、画像を少しだけ回転（5°以下）する場合に便利です。スライダを動かすか、数値を直接入力します。

クロップ



クロップパレット

自動クロップ

パース補正 / 水平ツールで補正すると、画像の周囲の情報が失われます。クロップツールのデフォルト設定ではAuto、アスペクト比は撮影時設定に設定され、補正後の画像を、たとえオリジナルのプロポーションを変えることになっても、可能な限り多く残すように自動的にクロップします。

- ドロップダウンメニューから撮影時設定ではなく、無制約を選択してプロポーションを維持したまま、リサイズすることもできます。例えば4:3は長い辺が4、短い辺が3になります。
- ドロップダウンメニューから、1:1（スクエアフォーマット）、5:4（伝統的な5×4や10×8フォーマット）を選択することもできます。メニューバーに任意の数字を入力することもできます。

i 罫線（グリッド / 三分割線）はデフォルトでは表示に設定されています。

i クロップ作業中、移動/ズームパレットを使って画像内の移動や拡大ズームができます。

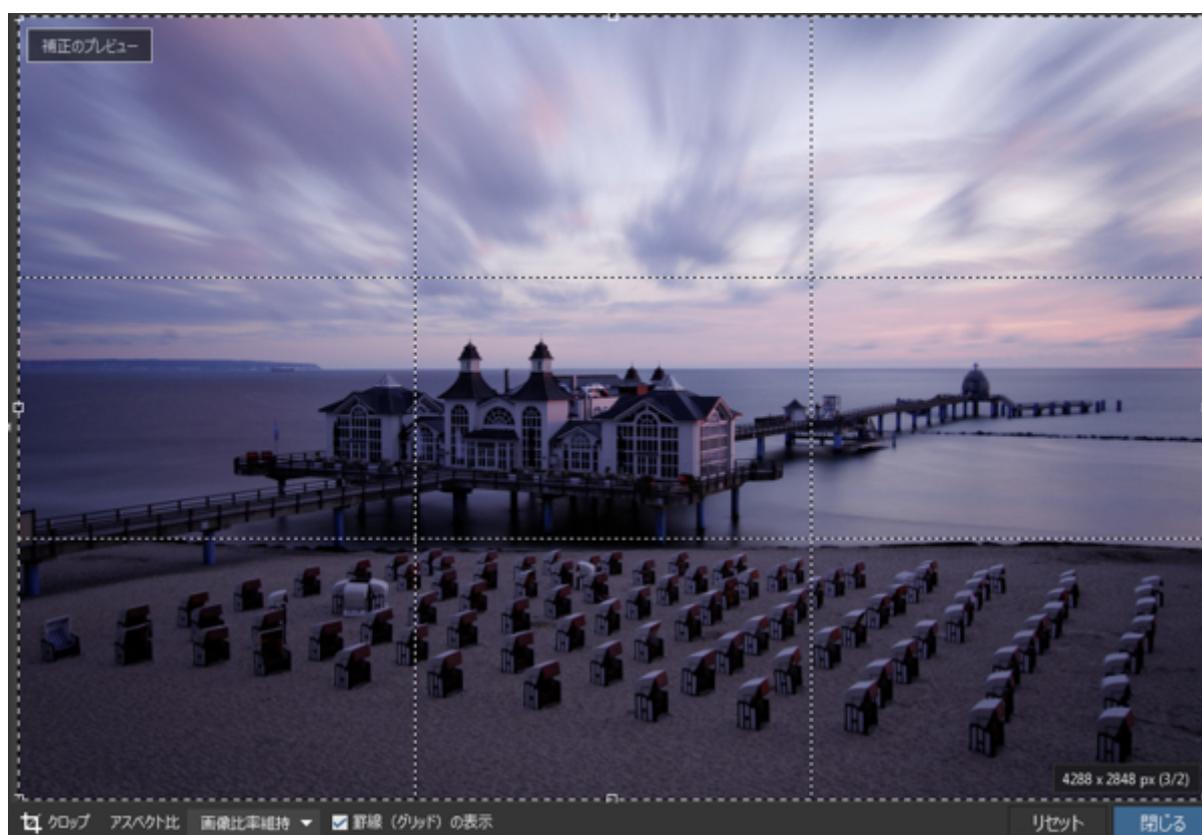
手動ク롭

- クロップツールボタンをクリックすると、画像内に点線の四角形が表示されます。この四角形の角をドラッグして、移動したり拡大することができます。もし特定のアスペクト比を選択していれば、その比率でボックスが描かれ、サイズ変更時その形が保たれます。アスペクト比が選択されていない場合は、自由に形を変更することができます。
- クロップが有効になったら画像上でマウスを左クリックしたままドラッグしてクロップボックスを描くこともできます。画像内に黒い四角形が描かれます。
- このボックスの四隅をドラッグすることで移動したり拡大することができます。ボックス内をクリックして動かすと位置を変えることができます。
- ボックスの外側をクリックすると、新しいボックスを描くことができます。

Mac OS X

- **i** では、アスペクト比メニューで無制約を選択した場合、Shiftキーを押したままにすると画像比率が維持されます。逆に、画像比率維持を選択した場合、**Shift**キーを押したままにするとクロップを無制約で実行できます。

- **i** 手動ク롭をする場合、画像右下にサイズがピクセル数で表示されます。



ク롭ツールを使っている場合は、コマンドバーが表示されます。ここではアスペクト比を設定したり、罫線の表示 / 非表示、ツールのリセット、閉じる、などが行えます。

- **i** Enterキーを押して補正を適用してツールを閉じるか、Echapキーを押してク롭設定をリセットしツールを閉じることが出来ます。

プリセットの適用

プリセットについて



ビジュアルプリセットウィンドウ

プリセットは DxO

PhotoLab

内の画像に一度にすべての補正を適用させるためのプリセットです。プリセットによく使う補正項目を保存しておくことで、簡単に補正項目を適用することができます。

DxO PhotoLab には、大きく2種類のプリセットがあります。

- フルプリセット: 設定タブの画面で設定可能なすべての補正項目を、設定されている、されていないに関わらず書き換えます。
- 部分プリセット

:一部の補正項目に対してのみ作用します。他の各補正項目について「補正を実行する」「補正しない」「何もしない」を選択することが可能です。

DxO PhotoLab

i で最初に画像を開くと、デフォルトでフルプリセット「DxO 標準」が自動的に適用されます。プリファレンスを開いて、他のプリセットをデフォルトプリセットに設定することもできます。

用意されているプリセットを使う

DxO PhotoLab

では30種類以上のプリセットがあらかじめ用意されています。汎用プリセット、ポートレートと風景、モノクロ、雰囲気、ハイダイナミックレンジ（シングルショットHDR）の7つのカテゴリに分類されています。

汎用プリセット

汎用プリセットには4つのプリセットがあります:

- **DxO**

標準プリセットは

画像ブラウザでフォルダを参照する際、全ての画像に自動的に適用されます。このプリセットには以下の補正設定がなされています(これは全体プリセットで、ここに載っていない他の補正項目は無効になっています):

- DxO Smart Lighting : 軽く

- カラーレンダリング:JPEG画像の場合は補正なし,RAW画像の場合は撮影に使われたカメラのレンダリング適用
- 彩度過多補正: 自動
- ノイズ除去: 自動
- ディストーション: 自動
- ヴィネット: 自動
- 色収差:自動(倍率色収差有効)
- DxOレンズブラー: グローバルスライダの値は0、ディテールスライダとボケ表現スライダの値は50に設定(DxO光学モジュールが利用できない場合は,デフォルト設定のアンシャープマスク適用)
- ニュートラルカラープリセットとDxO標準プリセットと比べてカラーレンダリングの彩度とコントラストが抑えてあります.
- モノクロプリセットは,画像を自動的にモノクロに変換します.
- 補正なしプリセットは,DxO PhotoLabの全ての補正項目を無効にします.RAW画像の場合,DxO PhotoLabは撮影に使われてカメラの基本的な設定によるデモザイシング(現像)を行います.

 プリファレンスでデフォルトプリセットに別のプリセットを選択できます.デフォルトプリセットを変更しても,すでに処理済みの画像には影響しません.

ポートレートと風景

ポートレートと風景のカテゴリには,8つのプリセットがあります.ポートレートプリセットの場合はコントラストが抑えられ,肌のトーンに最適になります.風景プリセットは,コントラストや彩度があがります:

- ポートレート:標準
- ポートレート:明るい
- ポートレート:キャンディーカラー
- ポートレート:ハイキー
- 風景:標準
- 風景:偏光絵はがき
- 風景:強いコントラスト
- 風景:洗いざらし

モノクロ

モノクロのカテゴリには,コントラスト表現の異なる8種類のプリセットがあります.このカテゴリにはポートレートや風景に適したプリセットもあります.またドラマチックな効果を出すプリセットもあります:

- モノクロ: 緻密
- モノクロ: くっきり
- モノクロ: ドラマチックな空
- モノクロ: ローキー
- モノクロ: 女性ポートレート
- モノクロ: 男性ポートレート
- モノクロ: 落ち着いた
- モノクロ: ベール

雰囲気

雰囲気のカテゴリには,トーンングの異なる8種類のプリセットがあります.このプリセットはカラーやモノクロ両方に適用できます:

- 霧
- ロンドンの夜
- ブルーアワー
- 薄暮
- 古いスライド
- 極地
- パープル

- オールドスクール

ハイダイナミックレンジ(シングルショットHDR)

このカテゴリには、HDR

効果をシミュレートする4種類のプリセットがあります。特別なソフトウェアや32ビットファイルを使うことなく、トーンレンジを再配分してダイナミックレンジを広げます。シングルショットプリセットは、異なる露出の複数の写真を統合する必要はなく、RAWやJPEGファイルに利用することができます。

- HDR：リアル:前述のプリセットに比べてHDRらしさを抑えた効果を適用します。ハイライトを復元し、シャドウを明るくして、トーンカーブとVibrancyは通常設定になります。
- HDR：アーティスティック:ハイライトを復元し、シャドウを明るくし、トーンカーブとVibrancyを強調する、HDR効果を提供します。
- HDR：逆光補正:逆光で撮影された画像の黒つぶれした部分を、自然な感じを維持したままリカバーします。
- HDR：モノクロ:モノクロ写真用に最適化されています。コントラストが強くなります。

スマートフォン

このカテゴリには、スマートフォンで撮影された画像に対して最適な2つのプリセットが用意されています。

- スマートフォン:低感度
- スマートフォン:高感度

DxO FilmPack デザイナーズ・プリセット

このカテゴリには DxO FilmPack

で利用できるデザイナーズ・プリセットがあります。これらのプリセットは、銀塩フィルムのレンダリングとグラフィック効果(フィルタ、調色処理、ヴィネット、テクスチャ、光漏れ)の組み合わせでできおり、写真にアーティスティックな作風を吹き込みます。16種類のモノクロと23種類のカラーのプリセットがありますが、DxO FilmPackのエディション (ESSENTIAL / ELITE 版) によって利用できる数が変わります。

 デザイナーズ・プリセットはDxO FilmPack 4 または DxO FilmPack 5で利用できます。ソフトウェアのライセンス認証が完了すると自動的に表示されます(ライセンス認証コードが必要)。

DxO ONE 撮影モード

これらのプリセットは、DxO ONE の撮影モードのレンダリングに対応し、DxO PhotoLab で処理する全ての画像に適用できます：

- DxO ONE：自動
- DxO ONE：ポートレート
- DxO ONE：風景
- DxO ONE：夜景
- DxO ONE：スポーツ

プリセットの適用

あらかじめ用意されているプリセットを適用する

画像にプリセットを適用するには、コマンドバーにあるプリセット(適用)ボタンをクリックします。ビジュアルプリセットウィンドウが表示され、画像に適用できるすべてのプリセットが表示され、適用された結果をプレビューすることが出来ます。

 画像ブラウザ内のサムネイル上で右クリックして、コンテキストメニューからプリセットを適用を選択することもできます。またはプリセットエディタ内のリストから選択することもできます。

 デフォルトで設定されているプリセットを再適用するには、コマンドバーのプリセット適用ボタンの左にある補正設定のリセットボタンをクリックします。

プリセットを組み合わせる

1つ以上のプリセットを適用することができます。両方のプリセットに異なる値が設定されている場合は、後から適用したプリセットが適用されず。例えば:

- 最初に適用したプリセットの値が「補正しない」で、2番目に適用したプリセットの値が「補正する」の場合は、補正は実行されず。
- 最初のプリセットが「補正する」で値が「-2」、2番目も「補正する」で値が「+1」の場合は、2番目の設定内容「+1」が適用されます。

部分的な補正のみを行う部分プリセットを作成することができます。これはフルプリセットの上から適用することができ、この設定箇所のみ部分プリセットの内容に変更されます。

現在の設定からフルプリセットを作成する

現在の設定からプリセットを作成するには:

- 画像に補正設定を適用します。
- 補正設定が完了したら、画像ブラウザのサムネイル上で右クリックして、コンテキストメニューから現在の設定からプリセットを作成を選択します。
- フローティングウィンドウにプリセット名を入力して保存をクリックします。
- コンテキストメニューとプリセットリスト内に、新しいプリセットが表示されます。

i この方法で作成されたプリセットは、すべての設定が含まれるフルプリセットになります。

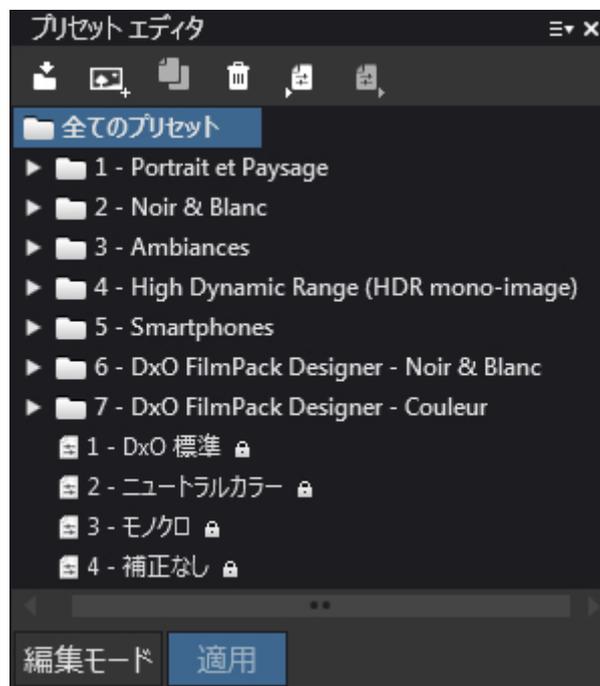
プリセットエディタパレット

プリセットエディタパレットを使えば、各ツールの設定をしてプリセットを作成することができます。

プリセットエディタは設定タブ内のパレットの一つです。このパレットで、ゼロからプリセットを作る、または、既存のプリセットを編集してカスタムプリセットを作成したり、管理することができます。

プリセットエディタコマンド

Microsoft Windows



プリセットエディタパレットは、以下のコマンドが並んでいます:

- 新規プリセット(現在の設定使用):プレビュー表示されている画像に設定された補正からプリセットを作成します。
- プリセット新規作成
:何の設定もされていない空のプリセットを作成します。そのためこのプリセットは何らかの設定をする必要があります。作成時にフォルダを選

択しておく、そのフォルダ内にプリセットが作成されます。

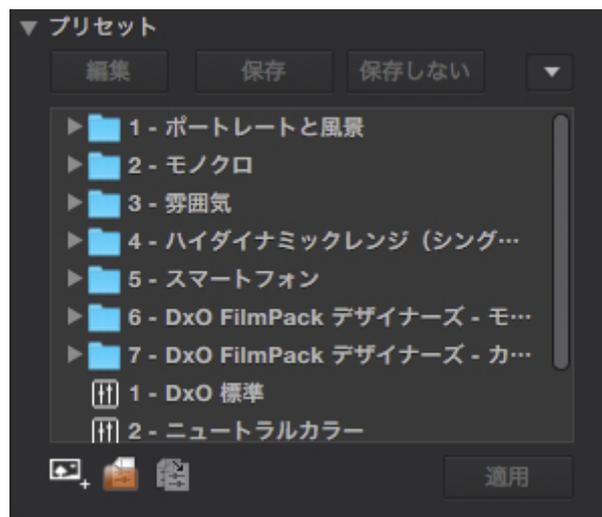
-  プリセットの複製
:既存のプリセットのコピーを作成することができます。既存のプリセットを編集して新しいプリセットを作成したい場合に便利です。
-  削除:選択したプリセットやフォルダを削除します。
-  インポート:DxO PhotoLabの前のバージョンや他のコンピュータ上で作成したプリセットを取り込むアイコンです。
-  エクスポート:プリセットを他のコンピュータに移動するために書き出すことができます。
- 編集モード:プリセットの変更を可能にします。
- 適用:プリセットを選択されている画像に適用します。
- 保存:プリセットへの変更を保存します。(編集モードでのみ有効)
- キャンセル:プリセットへの変更をキャンセルします。(編集モードでのみ有効)
- 新規プリセット(補正未設定):(ELITE
版のコンテキストメニューからのみ)補正設定のされていないプリセットを新規作成します。プリセットは、予め選択した場所に保存されます。

 DxO PhotoLab があらかじめ用意しているプリセットはロックされており、編集や削除ができません。

プリセットはいくつでも作成でき、カスタムフォルダに保存したり、他のバージョンの DxO PhotoLab 用に書き出したり、共有することができます。

 プリセットエディタ内でプリセットを選択し、編集モードボタンをクリックすれば再編集や変更が可能です。関連するパレットが再びハイライトされます。

Mac OS X



-  + プリセット新規作成:何の設定もされていない空のプリセットを作成します。
-  プリセットフォルダ新規作成:フォルダ:同じようなプリセットをグループ化するフォルダを作成することができます。
-  選択されたプリセットの複製:既存のプリセットのコピーを作成することができます。
- 新規プリセット(補正未設定):(ELITE
版のコンテキストメニューからのみ)補正設定のされていないプリセットを新規作成します。プリセットは、予め選択した場所に保存されます。

補正パレットの右上にあるプルダウンメニューから、以下のコマンドを選択できます(プリセットエディタ内で、プリセットの上で右クリックしても同様):新規プリセット(現在の設定使用)、新規プリセット(補正未設定)、新規プリセットフォルダ、プリセットのコピー、名称変更、削除、適用、編集モード、保存、コピー、キャンセル、インポート(同時に複数のプリセットのインポートも可能)、選択されたプリセットのエクスポート

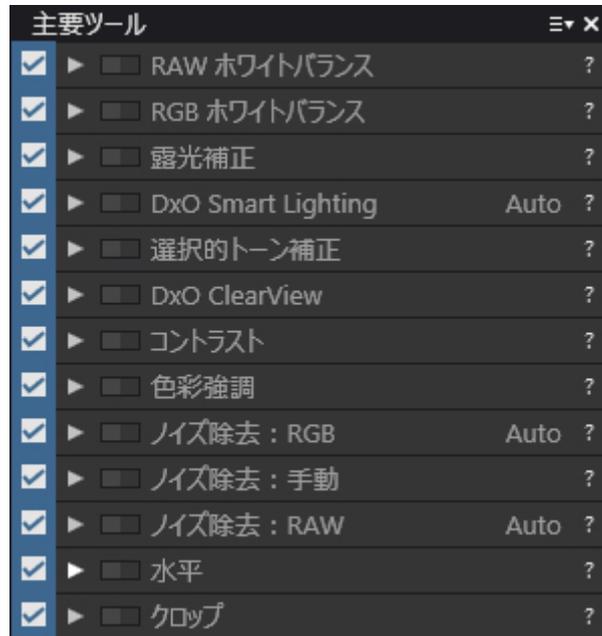
既存のプリセットを編集してプリセットを作成する

Microsoft Windows と Mac OS X

既存のプリセットを変更して新規プリセットを作成するには:

1. 変更したいプリセットをクリックします。

2. プリセットエディタパレットの左上にある編集ボタンをクリックします。関連するパレットツールが編集モードに変わります(パレットの左側に青い帯が表示されます)。
3. 補正を行いたくないパレットのチェックを外します。または補正設定を変更します。非表示になっているパレットも拡張して設定を行うことができます。
4. 設定が完了したら、プリセットエディタパレットの保存ボタンをクリックします。
5. 編集モードを終了するには、もう一度編集モードボタンをクリックします。



編集モードのツールパレット

i プリセットのパラメータの変更をキャンセルする場合は、編集 > 取り消しを選択するか、キーボードショートカットCtrl/Cmd + Zを押します。

ロックされたDxO

i プリセットから変更したい場合は、プリセットエディタのコマンドバーにあるコピーボタンをクリックし、コピーしたプリセットの名前を変更します。

プリセットフォルダ (ELITE版のみ)

一覧にあるフォルダは、ダブルクリック、またはフォルダの左にある三角形をクリックすると開いて内容を表示することができます。名前をクリックするとファイル名を変更できます。フォルダ名によってリスト内で並べ替えられます。できるだけわかりやすい名前を付けて、適切なプリセットが見つけられるようにしておくことをお勧めします。

基本的な補正の適用

ヒストグラム

- [ヒストグラムについて](#)

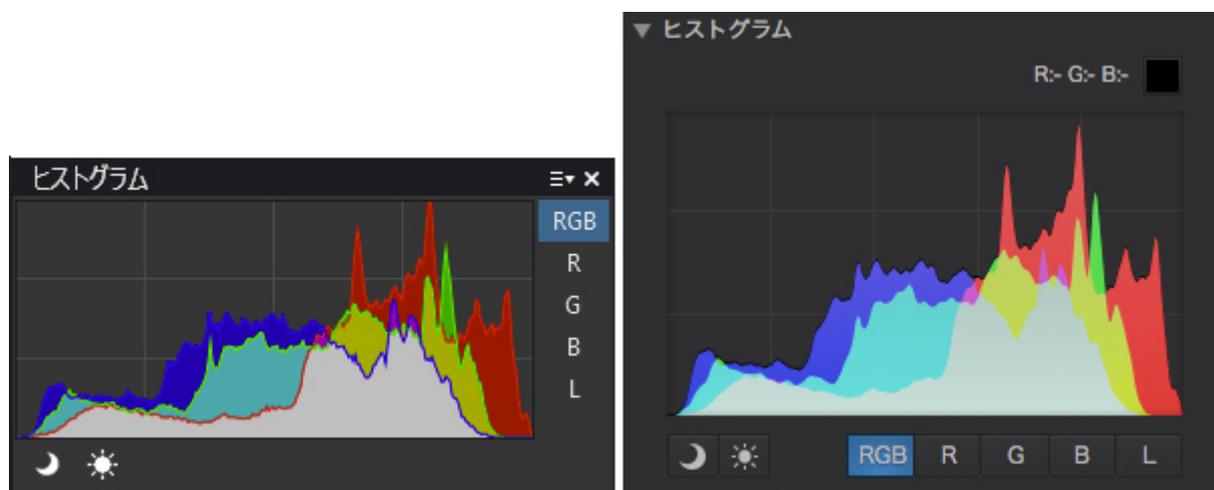
トーン補正

- [露光補正](#)
- [コントラスト](#)
- [DxO Smart Lighting](#)
- [選択的トーン補正](#)
- [DxO ClearView \(ELITE版のみ\)](#)

カラー

- [ホワイトバランス](#)

ヒストグラムについて



ヒストグラムには、各カラーの明度ごとのピクセル数が表示されます。
RGBチャンネルと明度チャンネルは個別にも表示できます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムチャートは、輝度の各レベルにどの程度のピクセルが存在するかを表しています。チャートの山が高いほど、その値のピクセルが多く存在することを意味します。チャートの山が左によっている場合は、その画像はローキーな画像です。逆に右側によっている場合は、明るいハイキーな画像と言えます。バランスのとれた最適露光された画像ではヒストグラムの幅いっぱい値が連続しています。

RGBとLチャンネル

DxO PhotoLab

のヒストグラムツールは、各カラーチャンネルの明度値を計算し、同じチャート上に重ね合わせて表示していますが、チャンネルごとに表示することもできます。チャートの右側にあるボタンをクリックします：

- RGB:すべてのチャンネルを同時に表示します。
- R,G,B:各チャンネルごとに表示します。
- L:輝度チャンネルを表示します。

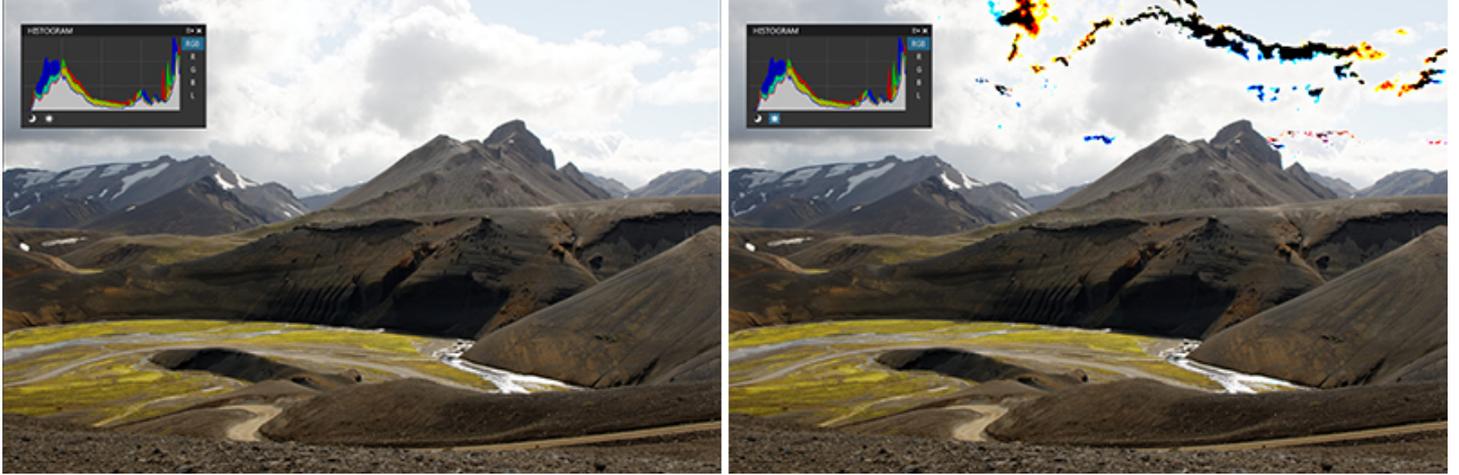
画像上にマウスポインタがある場合は、ヒストグラムはそのポインタの位置のRGB

値を表示します。値は0から255の間で、選択されている色がパッチに表示されます。色かぶりをしている場合などに、どの色が強く出ているのかを見ることができて便利です。

クリッピング

輝度レベルがヒストグラムの一番左(ブラックポイント),または一番右(ホワイトポイント)を超えていると,黒潰れや白とびを起こします.この状態,またはこれに近い状態のピクセルはクリッピングと呼ばれています.画像内にとても暗いエリアがあって,その画像の明度を下げると,暗いエリアがクリップされる可能性があります.逆の場合も同様で,暗いエリアを明るく調整しようとすると,ハイライト部分がクリップされディテールが失われます.ヒストグラムチャートの下に2つのツールが用意されています.

-  シャドウのクリッピング:このアイコンをクリックすると,暗いエリアに情報が残っていない領域を色で表示します.
-  ハイライトのクリッピング:このアイコンをクリックすると,明るいエリアに情報が残っていない領域を色で表示します.



右側の画像ではクリップされたハイライト部分が見えるように表示されています.

3色すべてのカラーチャンネルが飽和して白とびを起こす場所は,画像上で黒く塗りつぶされます.1色でもカラー情報が残っている場合は別の色で表示されます.そのエリア上でマウスを動かすことで,ヒストグラムで各カラーチャンネルの明るさが数値で表示させることが[貼り付け](#)できます.

トーン補正

露光補正

露光補正について



左側の画像では,特に空の部分などハイライトの多くが白とびをおこしています.
露光補正パレット内の「中央重点平均」を選択して得られた画像です.

露光補正は,画像の露光レベルに合わせて実行されます.つまり画像内の各ピクセルごとの明るさを増減します.写真では現実世界のコントラストの一部しか再現できないため,多くの画像は露光オーバー,または露光アンダーの領域を持ってしまう.両方を持っている画像もあります.

デジタル写真では,カメラセンサーは特定レベル以上の光を「飽和」と受け取り,白いピクセルで表現してしまいます.空や反射物によく発生するような白とびを回避しようとすると,コントラストに注意する必要があります.露光補正とハイライトリカバリーは,これらを考慮して補正が実行されます.露光補正はRAW画像の方がより大きな補正を実行する可能性を持っています.一方JPEG

画像では、カメラの露光補正、ホワイトバランスなど、どのような理由であっても、ハイライト情報はすでに失われています。

RAWファイルの補正



露光補正のハイライトのリカバリーには、3つの補正モード(ハイライトの優先度 - 弱く、普通、強く)が用意されています。

露光補正のドロップダウンメニューには5つの自動補正モードと、手動調整用のカスタムがあります：

- ハイライトの優先度は、弱く、普通、強く
のハイライトリカバリーを実行します。この3つのレベルを選択する場合は、ヒストグラムでハイライトクリッピングを表示させながら行うと便利です。ハイライトクリッピングボタンをクリックすると、ハイライトの白とび領域を色で表示します。
- 中央重点平均: 画像の中心部の露光に合わせて平均させます。
- カスタム: (露光補正を選択した時点のデフォルト設定) : 手動調整をする場合は、露光スライダを使います。-4 ~ +4 Ev(1 Ev=1f-stop)間で調整することもできます。スライダを右に動かすと明るくなり、左に動かすと暗くなります。

i 多くの撮影状況に合わせて手動で調整するより、自動の露光補正オプションを利用した方が、補正作業をスピードアップできます。一般的に普通のコントラストで撮影された画像であれば弱くの設定で十分です。

JPEGまたはTIFFファイルの補正

JPEGとTIFF画像は、カスタムモードで露光スライダを使って補正できます。補正範囲は、-4 EVから+4 EVです。

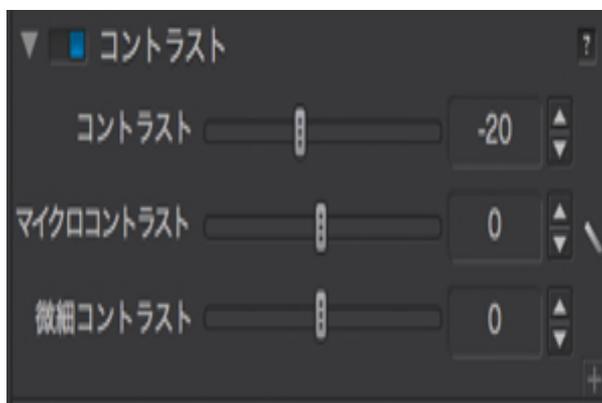
i できればヒストグラムでハイライトのクリッピングボタン(ヒストグラムの右下)を利用して変化を確認しながら、少しずつ調整することをお勧めします。ハイライトクリッピングを表示しながら使うと、露光を上げすぎた場合にクリップゾーンが表示されたり、クリップゾーンが残っていて十分明るさが落としていないなどがわかります。

コントラスト

コントラストサブパレットには、コントラストスライダとマイクロコントラストスライダがあります。

DxO FilmPack

i 5 (Elite版) がインストールされライセンス認証されている場合、微細コントラストスライダの他にアドバンス機能としての、ハイライト、中間トーン、シャドウスライダが追加表示されます。



コントラストパレット

- コントラスト: このツールは、画像全体のグローバルコントラストを調整します。DxO PhotoLab は伝統的なS字カーブを使ってコントラスト調整を行います。シャドウ部とハイライト部分を抑えて、中間トーン部を拡張します。-100 ~ +100

までのスライダで調整することができます。

i グローバルコントラスト補正は、トーンカーブ補正と相反するので注意してください。

- マイクロコントラスト:これは「ローカルコントラスト」とも呼ばれ、これを改善することで、輪郭のアーティファクトを発生させることなく、シャープネス補正と似たような効果が得られます。このツールは画像のディテールを強調し、風景写真や建築写真、商品写真などに効果を発揮します。

マイクロコントラストには2つの適用方法があります:

- 手動で適用する場合、スライダを右に動かすとコントラストが上がり、左に動かすとコントラストが下がります。
- 自動で適用する場合は、スライダの右にあるマジックワンドアイコンをクリックします。



自動モードでは、画像内に顔があるかないかを検知し、顔がある場合には適用されません。同様にデジタルノイズが多い場合、ノイズを強調しすぎないためにも適用されません。JPEG画像の場合、マイクロコントラストの自動補正によるスライダの値の上限は(5)に設定されています。自動補正をリセットするには、マジックワンドアイコンを再度クリックします。

i ローカルコントラストがかかりすぎるのを避けるために、ディテールパレットのアンシャープマスク補正と一緒にマイクロコントラストを設定するのは避けてください。

- 微細コントラスト (DxO FilmPack 5 ELITE 版がインストールされている場合) : 微細コントラストスライダは、中間サイズのディテールを強調したり和らげたりします。マイクロコントラストと比べて、より細かい補正が出来るためポートレートに最適です。
- アドバンス設定 (DxO FilmPack 5 ELITE 版がインストールされている場合) : オプションセクションには、微細コントラストスライダと選択的に適用可能な3つの微細コントラスト専用スライダがあります。
 - ハイライト
 - 中間トーン
 - シャドウ

スライダ値は、-100 ~ +100 までで、デフォルトは 0 に設定されています。

DxO Smart Lighting

DxO Smart Lightingについて



逆光の画像はDxO Smart Lighting

の効果がやすいケースです。強いコントラストを持つ画像も、まるでフラッシュを使ったようにシャドウ部分を明るくする高いレベルの補正を実行します。

一般的な画像補正は、画像全体に適用されます。明るさやコントラストを調整しようとする、画像全体が明るくなったり、暗くなったり、コントラストを弱くなったりします。DxO Smart

Lightingは、画像全体ではなく、部分的な明るさとコントラストを補正します。必要な場所のみコントラストを強調したり弱くしたりします。

DxO Smart Lighting

の均一モード

は、画像内で明るくする部分と暗くする部分を判断して自動的に適用されます。必要と判断された部分のコントラストも変更されます。これは以下のような場合です：

- 逆光で撮影した画像
- カメラのセンサーの能力を超えてしまっている場合など、特にとても暗いエリアなど、非常に強いコントラストを持った画像
- フラッシュが届かない、コントラストが弱い、露光が足りないなどの画像

これに対してスポット重点モードは、検知した顔の部分 Smart

Lighting

の適用に反映させることで、顔の露光補正を優先して行います。これは部分的な補正をするということではなく、露光補正の優先度を顔の部分にすることによって、画像の他の部分と比較しても自然でバランスの取れた補正を行うことができます。

DxO Smart Lighting : 均一モード



DxO Smart Lighting の均一モードには3つのレベルがあり、様々な画像に利用できます。

他のツールと同様に、DxO Smart Lighting

の均一モードは自動で適用されます。画像の内容を解析し、補正は画像全体に均一に適用されます。補正の調整には2つのツールがあり、一緒でも別々でも使うことができます：

- 1つめのドロップダウンメニューでは、補正の強さを、弱(デフォルト)、ふつう、強、カスタムの各レベルから選択できます。
- 強さスライダは、選択した自動補正モードの強さに設定されています。弱で25(デフォルト設定)、普通で50、強で75が設定されています。スライダを動かして手動で調整することもできます。手動で調整するとドロップダウンメニューはカスタムになります。

DxO Smart Lighting: スポット重点モード



DxO Smart Lightingのスポット重点モードには3つのレベルに加えて、強さスライダが利用できます。

DxO Smart Lighting

のスポット重点

モードは、画像内で検知された顔を優先しながら画像の他の部分を大きく変更することなく露光の最適化を行います。この機能は、以下の場合に非常に有効です：

- 逆光の顔の補正
- 明るかったり暗かったりする背景と比べて明るすぎたり暗すぎたりする顔の補正(例えば、背景が暗く顔が明るかったり、背景が明るく顔が明るい場合など)

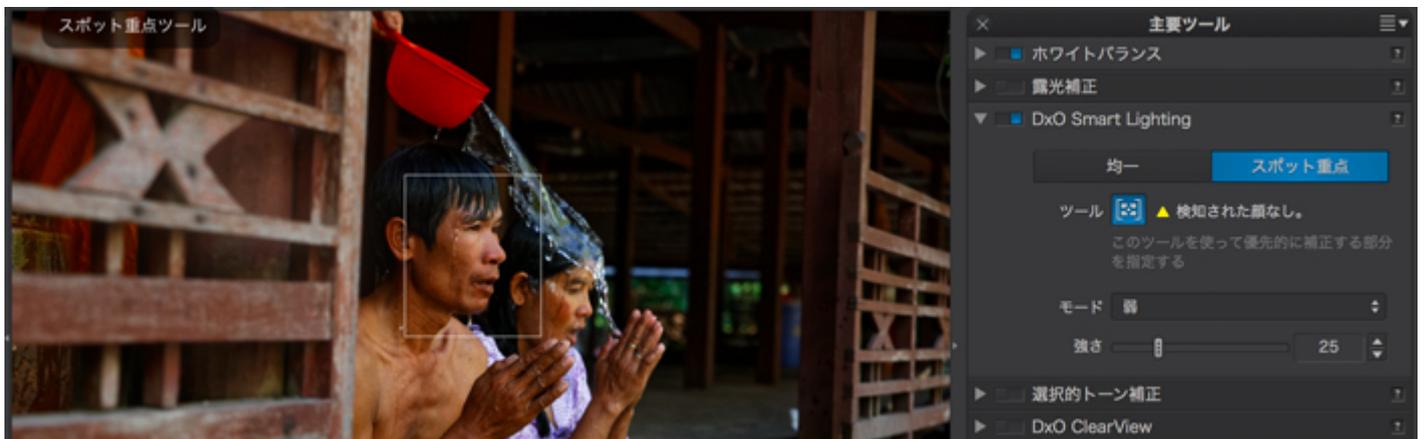
スポット重点ボタンをクリックすると、画像内の顔の部分を考慮してSmart Lighting

の弱モードがデフォルトで適用されます。検知された顔の数は、サブパレット内のスポット重点ツールアイコンの右側に表示されます。

検知された部分を表示するには、 アイコンをクリックします。

画像内にある顔に対して四角い枠が描かれています。四角の枠にマウスマウスカーソルを持っていくと、枠が編集可能になり(枠の辺が点線になり、四隅にハンドルが表示)、枠の移動、サイズ変更、削除(右上の×印をクリック)をすることができます。

検知されなかった顔に対しては、マウスマウスカーソルを使って新しく四角い枠を追加することができます。追加された部分を含んだ解析が再度なされ新しい補正結果が画像に適用されます。



スポット重点を選択しても顔が検知されなかった場合、DxO Smart Lighting

サブパレットに、検知された顔なし、というメッセージが表示されます。これは顔が正面を向いてなかったり、一部隠れている場合です。この場合、四

角い枠を手動で追加すると、新しい解析が行われ新しい補正結果が適用されます。

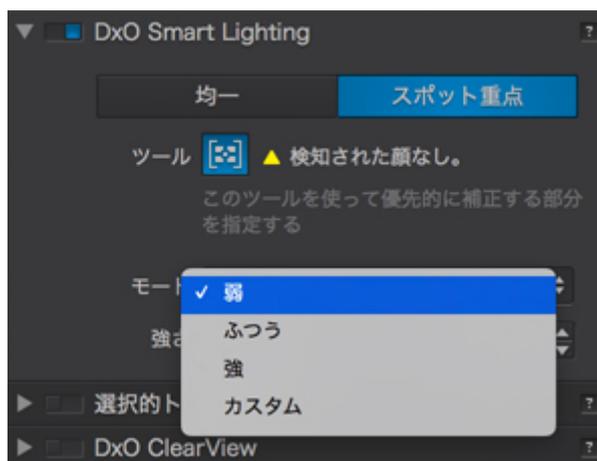
プレビュー画像の下のツールバーでは、四角の枠の表示/

非表示を選択することができます。また、補正をリセットしたり、ツールを閉じたりできます(サブパレット内のアイコンをクリックしても同様に閉じることができます)。



補正の強さは、予め設定されたモード(弱,ふつう,強)から選ぶことができます。また、強さ

スライダを使って手動で調整することも可能です。どの場合も、検知された顔を考慮して補正計算が行われます。



DxO Smart Lighting のどの設定を使ったらよいか?

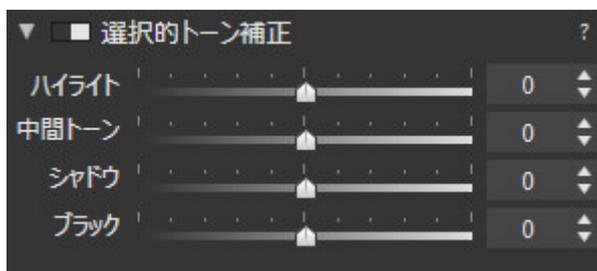
DxO Smart Lighting

は中でも特に複雑な補正を実行します。この補正は画像全体と部分のディテールの両方、そして明暗両方のエリアに影響し、そして画像の明るさとコントラストに大きく影響します。この複雑な補正を実行しようとする、高度なテクニックが必要です。DxO Smart Lighting は難しい画像であっても、すばやく補正ができます。

まず始めに、ほとんどの画像の場合、DxO Smart Lighting

では、明るい画像は少ししか変わりませんが、暗い画像には強く効果がかかります。露光補正とは異なり、ハイライト部分への効果は少しになります。次に、できるだけ3つの自動補正モードを使って微調整してください。ほとんどの画像に対応できるように設計されています。より細かい補正をしたい場合、選択的トーン補正パレットがトーンカーブパレットを使います。

選択的トーン補正



選択的トーン補正パレット。

選択的トーン補正パレットは、画像の階調ごとに明るさを調整する、非常に直感的で正確な方法です:

- ハイライト:画像内の明るい部分の情報とディテールをリカバリーします。(空の明るい雲や室内の窓を通して見る外など)
- 中間トーン:中間トーン、つまりヒストグラムの中央値のレベルを調整します。
- シャドウ:画像内のシャドウや暗い部分を明るくします。

- ブラック

:ヒストグラムの左端に位置する黒い部分を調整します。スライダを左に動かすと、シャドウ部分を真っ黒にします。右に動かすと暗い部分を明るく持ち上げます(ヒストグラムの左端が右に移動し、真っ黒の部分は画像がない状態になります)。

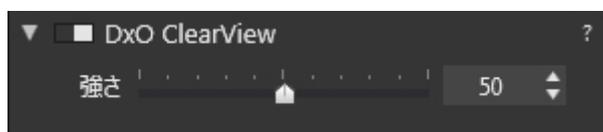


選択的トーン補正ツールは、画像のコントラストを劇的に変更します。極端に設定せず、クリッピングを避けるためにヒストグラムを見ながら調整します。

DxO ClearView (ELITE版のみ)



高い気温、湿度、大気汚染等で白いもやが発生する場合がありますが、風景写真ではディテールが失われたりコントラストが落ちたりと問題が生じます。



DxO ClearViewは、この白いもやを自動的に除去します.RawとJPEG画像、どちらにも有効です。

強さスライダはデフォルトでは50、に設定されており、0 から 100.の範囲で補正の度合いを調整できます。

i デフォルトの値(50)に戻るには、スライダの上でダブルクリックをしてください。

カラー

ホワイトバランス

光源の種類を問わず、一般的に人の目には光は白く見えますが、日中の光には強い青が含まれ、シャドウ部や空が青かぶりします。白熱電灯では黄色かぶり、また蛍光灯によって複雑な緑かぶりを起こします。ホワイトバランスを調整することでこのような好ましくない色を修正することができます。



ホワイトバランスパレット

ホワイトバランスの補正設定は画像ファイルの形式によって異なります：

- R
- A
- W
- フ

IF
F
F
や
J
P
E
G
)
ホ
:
ワ
イ
ト
バ
ラ
ン
ス
は
カ
メ
ラ
内
処
理
や
他
の
ソ
フ
ト
ウ
ア
で
す
で
に
決
定
さ
れ
て
い
ま
す
編
集
は
制
限
さ
れ
エ

色
温
度
の
ス
ラ
イ
ダ
と
カ
ラ
ピ
カ
し
か
使
え
ま
せ
ん



画像ブラウザ内で、RAWファイル、JPEG

ファイルのどちらを選択したかによって、ホワイトバランスパレットは自動的にファイル形式にあわせて最適化されます。

あらかじめ用意された設定を使う(RAWファイルのみ)

多くの場面で利用できるドロップダウンメニューに用意されたプリセットの利用が可能です。太陽光、曇天、日陰、タングステン、蛍光灯など12種類が用意されています。

デフォルトでは撮影時設定が選択されています。これは、撮影時にカメラで設定されたホワイトバランスを指します。色温度と色相のスライダを操作すると手動/カスタムが自動的に選択されます。(色温度と色相は後で説明します。)

あらかじめ用意された設定には以下のものがあります：

- 太
陽
光
(
色
温
度
5
2
0
0
K
,
色
相
0
:
)
日

中の晴れた空の日の光
曇天 (色温度 6000K , 色相 0) 曇た空のやや冷たく青みがかた光を補正します
タ

ン
グ
ス
テ
ン
(
色
温
度
2
8
5
0
K
,
色
相
0
)
工
事
現
場
や
集
会
所
な
ど
で
使
わ
れ
て
い
る
こ
の
タ
イ
プ
の
照
明
の
強
い
オ
レ
ン

。 ジかぶりを補正します。

・ 蛍光灯（色温度4000K，相0）：蛍光灯の強い暖色を補正します。

・ フラッシュ（色温度6

色 : 100K (相0)

ツユの軽く青味がかった光を補正します。

• 水中 (色温度1500K (相150) : 水中)

撮影の写真の強く青 / 緑がかた光を補正します
。
・
日陰 (色温度 7000 K , 相 0)
: 日陰撮影の強くかた冷たい
っ

色を補正します。

- 手動 / カスタム ホワイトバランス カラーピッカーを選択すると有効になります。

ホワイトバランスを、50,000 まで延長することで、水中撮影の強く青/緑がかった画像の補正をする水中設定を可能にします。

 カメラ設定のホワイトバランスは、DxO PhotoLab が唯一利用する設定です。

カラーピッカーを使う (RAW またはRGB ファイル)

ホワイトバランスカラーピッカーアイコンをクリックして、元画像上の色の影響を受けていないニュートラルグレーであるべき箇所、または

比較的明るいグレーの部分をクリックして選択します。自分の好みの色になるまで作業を繰り返してください。

ホワイトバランスカラーピッカーツールアイコンを使い終わったら、画像の下にあるツールバーの右にある閉じるボタンをクリックしてください。



ホワイトバランス半径スライダ

i 高いISO値で撮影した画像ではノイズによるエラーを避けるため、半径スライダを10に設定してください。

ホワイトバランスカラーピッカーツール使用後は、画像の下にあるツールバーの右にある閉じるボタンをクリックしてください。

RAWファイルのホワイトバランス補正

あらかじめ用意された設定を使ったり、ホワイトバランスカラーピッカーツールのどちらを使っても、色温度と色相スライダを使って調整することが可能です。色温度スライダは 2,000°K から 50,000°K の間で設定することができます。また、-200 から 200 の幅の色相スライダと組み合わせて使うと色かぶりを取り除くことができます。

i いずれの場合でも、ドロップダウンメニューから撮影時設定を選択すると、画像のEXIFデータから提供される設定に安全に戻すことができます。

RGBファイル(TIFFまたはJPEG)のホワイトバランス補正

TIFFやJPEGファイルを画像ブラウザ内で選択した場合は、RAW

ホワイトバランスパレットは自動的に、色温度スライダとカラーピッカーがあるシンプルなRGBホワイトバランスパレットになります。TIFFやJPEGファイルでは、カメラ内の処理や他の編集ツールによってホワイトバランスがすでに決定されているため、ホワイトバランスを設定できません。この場合、画面上のピクセルは入力値に比例しません。そのため、1つの階調を変更することによって他の階調をバランスを崩す可能性があります。例えば、中間調のグレーを補正することで、暗いグレーに若干の色かぶりを起こすことがあります。このためRAW

ファイルに比べてシンプルな補正となります。カラーピッカーまたは、色温度スライダを動かすことで冷たい感じ(青系)か暖かい感じ(黄色系)に調整することが可能です。

i スライダ上でダブルクリックすると補正をデフォルトの状態に戻すことができます。完璧なホワイトバランスを実現するのは難しいですが、撮影時のシーンをよく思い出して、当時の雰囲気合った補正をするようにしてください。

この情報は役に立ちましたか？

トーンと色の調整

トーン補正

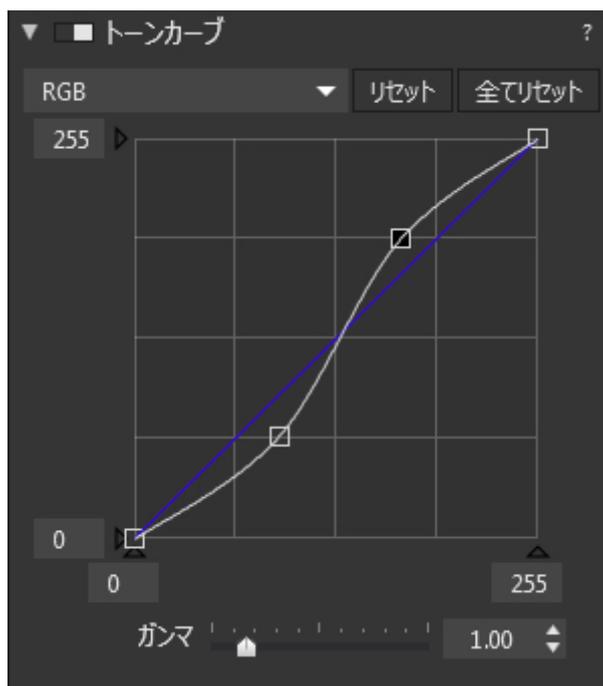
- [トーンカーブ](#)

カラー

- [色彩強調](#)
- [色相 / 彩度 / 明度](#)

トーン補正

トーンカーブ



トーンカーブはチャンネルごとや全体で調整できます。

トーンカーブについて

トーンカーブは非常に強力な標準的なツールです。使い始める前に練習をして、カーブがどのように働くのかを確認することをお勧めします。トーンカーブでの効果は、主要ツールパレット内の DxO Smart Lighting、選択的トーン補正、HSLパレットでも同じような結果を出せます。

トーンカーブは、入力色調値(受け取る光)と、出力色調値(画像内にある光)の関係を示しています。シンプルな例としては、オリジナルではトーンカーブは45°

の直線になっています。このトーンカーブはナチュラルで、ハイライト、中間調、シャドウ部分全ての入力色調値が出力色調値と同じ値になっています。入力色調値(シャドウ0～ハイライト255)はX軸に、出力色調値(同様に0～255)はY軸に表されています。

トーンカーブは特定のカラーや領域にあわせて、微妙に変化させることができ、また最適な形が異なります。その形から「S字カーブ」と呼ばれる曲線になる場合が多くあります。このカーブではシャドウ部分を圧縮し、中間調を拡張します。これによってコントラストをあげ、力のある画像にします。繰り返しになりますが、トーンカーブは難しいツールのため、練習することをお勧めします。

トーンカーブを調整する

ガンマスライダを使って、X

軸の中央で傾斜値を調整することで、カーブの中央のみ(ガンマ)の傾きのみを変更できます。デフォルト値は1で、0.05から6.00まで値を変更できます。

- 値が上がると、コントラストが上がり、シャドウ部分のディテールが現れます。
- 値が下がると、コントラストが下がり、ハイライト部分のディテールが現れます。

カーブはポイントを動かして変更することができます(よく利用される方法としては、ひとつのポイントを明るいシャドウ部分に配置し、もうひとつをハイライト部分に配置しますが、もっと多く配置することもできます)。カーブ上でクリックする

とポイントを選択できます(アクティブなポイントは黒,非アクティブなポイントは中抜きの白で表示されています).アクティブなポイントをドラッグしてカーブを動かすことができます.

i アクティブポイントは右クリック,または Delete キーで削除できます.

XまたはY軸のブラック/ホワイトポイントも,当該ポイントをマウスでドラッグ&ドロップするか,入力ボックスに任意の値を入力して設定できます.

トーンカーブパレットの上のドロップダウンメニューから,RGB

全チャンネルに対して同時に,または個別に適用することができます.2つのリセットボタンで,チャンネルごと,または全チャンネルのトーンカーブを元の45度のまっすぐなカーブにリセットすることができます.

カラー

色彩強調



色彩強調パレット

色彩強調パレットには,自然な彩度と彩度の2つの異なるカラー調整スライダが用意されています.

自然な彩度

すべての色を強化する彩度スライダーに比べて,画像内に存在する色を考慮して微妙に機能します。「スマート」彩度調整とも言えます.スライダ値は-100~+100で,デフォルトは0に設定されています.スライダを右に動かすと,画像全体の彩度が鮮やかになりますが,以下のような動きをします:

- 肌は赤くならないように保護されます.
- 空のトーンを鮮やかに,暗い部分はそのままにすることで色の深みを出します.
- グレートーンは色転びがないように保護されます.

スライダがマイナスにある場合は,画像全体の彩度を下げますが,以下のような動きをします:

- 彩度は0(モノクロ)になりません(HSLコントロールでは,彩度ゼロはモノクロになります).
- 赤を抑える傾向にあります.これは顔が赤く写ってしまった場合に,より自然な肌色に補正する場合に利用できます.

彩度

彩度スライダは非常にわかりやすく機能します.スライダを右に動かすと,画像全体の彩度を上げます.左に動かすと彩度が下がります.-100まで下げると画像はモノクロになります.デフォルトは0に設定されています.

i カラーレンダリング補正の彩度の値を高く上げる場合は,この機能を組み合わせて強く使用しないようにしてください.

色相 / 彩度 / 明度



色相,彩度および明度は,色の調整を行う場合によく利用されていて効果的な方法です.各カラーで色相(H),彩度(S)および明度(L)の3つのパラメータがあり,各チャンネルごとに6色を調整することが可能です.

- 加法混色:RGB(レッド,グリーン,ブルー)
- 減法混色:YMC(イエロー,マゼンタ,シアン)

- **色相(H):**

色相スライダで選択したチャンネルの色相を調整します.例えば,イエローチャンネルを選択してからスライダを左に動かすと,画像内のイエローがマゼンタに変わります.スライダを右に動かすと,イエローはグリーンに変わります.色相スライダの設定範囲は -180° ~ $+180^{\circ}$ です.色相は伝統的に円で全カラーを説明するため,このような単位になっています.

- **彩度(S):**

彩度スライダでは,選択した色を強調します.例えば,イエローチャンネルを選択してからスライダを左に動かすと,イエローから色がなくなり,グレーになります.スライダを右に動かすと,イエローが強くなりオレンジに近い色になります.彩度スライダの設定範囲は -100 ~ $+100$ です.

- **明度(L):**

明度スライダの効果は,ヒストグラムを見ると理解が簡単です.スライダを左に動かすと,ホワイトレベルが左に移動します.スケールの下半分の階調幅が圧縮されます.スライダを右に動かすと,ブラックポイントが右に移動します.スケールの上半分の階調幅が圧縮されます.イエローチャンネルを選択してからスライダを左に動かすと,イエローが濃く暗くなり,右に動かすと明るく薄くなります.

- **リセット:** リセットボタンは,すべてのHSL補正をリセットしてスライダの値を0にします.



もし複数の色を同時に補正したい場合には,特定の補正を簡単に再現できる様に,各カラーを補正した値を書き留めておくことをお勧めします.各カラー調整はほんの少しの調整の違いでも大きな影響がでます.

ノイズ除去とシャープネス調整

- [ノイズ除去](#)
- [アンシャープマスク](#)

ノイズ除去：高画質（高速） / PRIME / SuperRAW

デジタル写真におけるノイズ



すべてのデジタルカメラは一定量のノイズを発生します。ピクセルに明暗が出るコントラストノイズと、ピクセルにグレーではなく色がついてしまうカラーノイズがあります。ノイズはハイライト部分よりシャドウ部分(光量が低い箇所)に多く見られます。高いISOに設定すると情報をより取り込むため、同時にノイズも目立つようになります。



ノイズ除去パレット(Windows)

ノイズ除去パレットには、2つの異なる除去アルゴリズムを持つ品質ボタンが表示されます。

- 高画質：ノイズをすばやく効果的に取り除きます。多くの写真ではこのエンジンで良い結果が得られます。
- PRIME(

ELITE版のみ)は、徹底した画像解析によりディテールとノイズを区別し、ディテールと彩度を保持し、1ランク上のノイズ除去を実現します。高いISO感度で撮影された画像ほど、処理品質の違いがわかります。撮影したカメラの種類によって異なりますが、一般的にISO 1600以上になるとその違いが明確になってきます。

i ISO感度が高くなるにつれて、ソフトウェアによる補正処理能力の差ははっきりとします。一般的に、ISO 1600から顕著になりますが、この値は画像を撮影したカメラの性能にもよります。

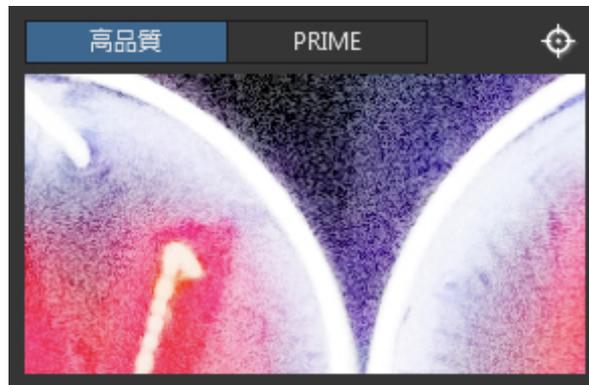
PRIME エンジンは、ISO

感度が低くても、暗いエリアにノイズが発生している画像などにも効果的に利用できます。シャドウ部分のノイズ除去を行うと、これまでの除去エンジンではカラー彩度に影響が出る場合があります。PRIME エンジンを使うと、この点で大きな違いを見ることができます。

処理プレビュー

ノイズ除去ツールの高画質(高速)モードは、画像のズーム率(ズームフィット、拡大ズーム等)にかかわらず、プレビュー画面上で補正結果を直ぐに確認することができますが、DxO

PRIMEの場合は、補正のために複雑な計算が必要になるため、プレビュー画面では目視確認ができません。PRIMEの補正結果は、ノイズ除去パレット内の長方形のルーベの中で部分的に確認可能です。ルーベの表示は、大体260 x 150ピクセルに相当します。



PRIME

i が選択されている場合、斜線の入った目のアイコンがノイズ除去パレットのタイトルの横に表示されます。これはルーベの枠の中でだけ補正結果をプレビュー可能であることを意味します。

画像内の特定のエリアをプレビュー用に選択するには、パレットの右上にある照準アイコンをクリックします。クリックすると、プレビュー画面内に点線の四角形が表示されます。この四角形をプレビューしたい位置まで移動します。PRIME エンジンが選択したエリアのプレビューを終了するまで、拡大ウィンドウに丸い小さい矢印アイコンが表示されます。

⚠ 画像全体にPRIMEエンジンを実行するためには、エクスポートする必要があります。

輝度ノイズスライダは、画像内のザラザラ感を和らげます。特に高周波ノイズが、より細かいディテールに発生している場合です。

オプション設定

ノイズ除去パレットの右下隅にある「+」をクリックすると、以下のオプションが開きます：

- ・カラーノイズ:特に目障りなカラーノイズ(肌色の上の黄色い点や、グレーの上に現れる青い点など)を低減します。
- ・低周波(RAWのみ):肌のレンダリングなどに影響を与える、ピクセルクラスタの様な低周波ノイズを低減します。

アンシャープマスク

アンシャープマスクについて

アンシャープマスクは画像をシャープにする手法です。このツールは、オリジナルからぼけたコピーを作成し、ぼけたコピーからオリジナルを引くことでディテールが強化された画像が生成します。



アンシャープマスクパレット

アンシャープマスクパレットには4つのスライダが用意されています:

- 強さ:画像全体にかかるシャープネスの強さ
- 半径:画像中のディテールエッジの補正エリアの細さを変更します。
- しきい値
:補正が適応される範囲を決定します.画像内にあるノイズのようなとても小さいディテールにシャープネスがかかるのを避けることができます。
- エッジオフセット:画像周縁部の効果を強める機能です。

i アンシャープマスクパレットの補正は,75%以上のズームレベルで利用できます.正しい結果を確認するためには100%で表示して作業したほうがよいでしょう。

アンシャープマスクを使う

アンシャープマスクはデフォルトではオフになっています.JPEGファイルの場合はカメラ内であらかじめ処理されているため必要ありません.また,DxO光学モジュールが用意されているRAW画像も必要ありません.この機能は通常シャープネスのかかっていないJPEGファイル,またはDxO光学モジュールが無いRAWファイルに利用します.後述のようにアンシャープマスクの設定を微調整してプリセットを作成しておくとも良いでしょう。

3つのスライダを使って調整しますが,強さを100,半径を0.5,しきい値を4ぐらいに設定してから調整を開始すると良いでしょう.一般的なしきい値は4~10の間です.半径は画像中のディテール周辺の補正エリアの細かさを変更します.値を高く設定しすぎると,にじみが発生する場合があります.最後に強さスライダを200以内に設定します。

i 強さスライダをマイナス(-100~0)にすると,シャープな画像をソフトにすることができます.これはポートレートなどに便利な機能です。

部分調整とディテール補正

部分調整のツール

- [部分調整とは](#)
- [部分調整へのアクセス](#)
 - [リングメニュー](#)
- [部分調整のマスク](#)
 - [部分調整のマスクのインターフェース](#)
 - [ブラシ](#)
 - [段階フィルタ](#)
 - [コントロールポイント](#)
 - [自動マスク](#)
 - [消しゴム](#)

ディテール補正

- [修正ツール](#)
- [赤目修正](#)

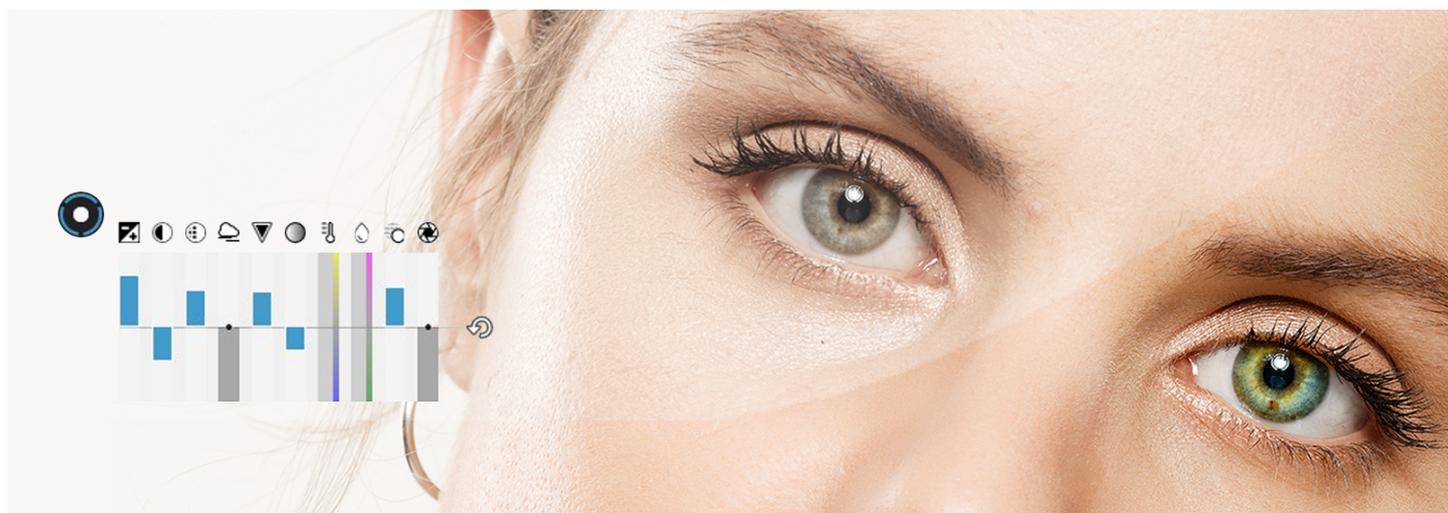
部分調整

正確なレタッチ作業が必要な場合や、ワンランク上の画像を再現したい場合、DxO PhotoLabの部分調整を使うと、画像を部分的に直接補正することで高度な画像処理を行うことができます。

例えば、空の存在感を強調したり、逆光の被写体を引き出したり、細かな色合いやシャープネスを強調したい場合など、様々な目的で使用できます。

DxO PhotoLab

では、幅広い部分調整マスク、ブラシ、グラデーションフィルター、コントロールポイント、同じ画像の中で異なるオプションと組み合わせ可能な自動マスクなどを使うことができます。



部分調整へのアクセス

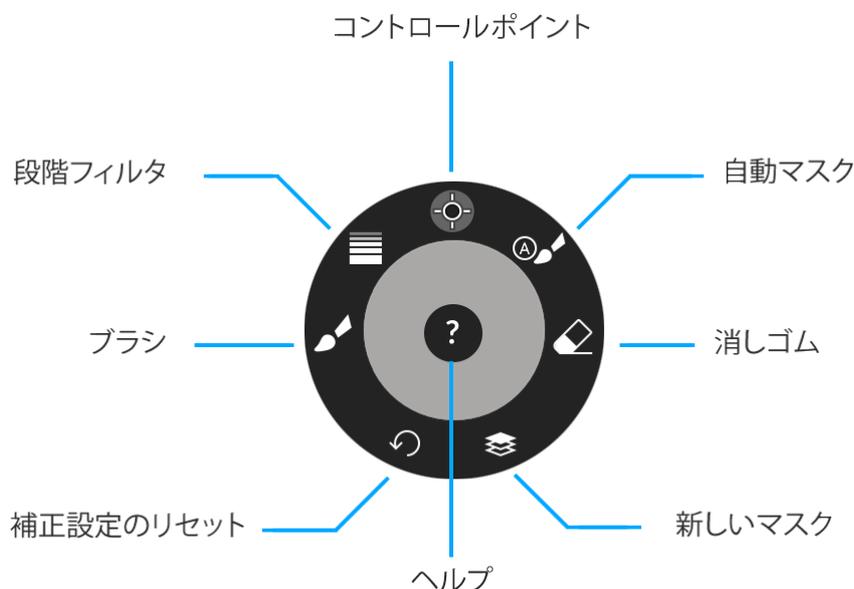
〔設定〕タブの右側の補正パレットにある様々なツールを使って画像の全体的な補正を行った後、画面上部のツールバーにある〔部分調整〕ボタンをクリックすると、部分調整モード画面に移ることができます。次に、画像の上で右クリックをすると、リングメニューが表示されます。



リングメニュー

名前の通り、リングメニューは円形を選択パレットです。部分調整の複数のマスクを次の方法で表示します（左から時計回り）。

- ブラシ：画像を塗ることで、調整を適用します。
- 段階フィルタ：光学グラデーションフィルタ効果をシミュレーションします。
- コントロールポイント：クリックしたポイントと色彩や明度が類似したピクセルに補正を適用します。
- 自動マスク：エッジ部を自動検出し、ブラシで補正を適用します。



リングメニューでは、次の機能も使用できます

- 消しゴム：部分調整マスクを消したり、修正できます。
- リセットボタン：リングメニューの下側にあるボタンで、ワンクリックですべての部分調整をキャンセルできます。
- 新しいマスクボタン：部分調整の新しいマスクを作成できます。

ヘルプボタン（リングメニューの中央）：ツールが有効になると、画像の右下に情報パレットを表示します。

注：

リングメニューでは、選択したマスクは青色で表示されます。複数のマスクを同時に有効にすることはできません。

どのタイミングでも、画像上のどこかを右クリックするとリングメニューが表示されます。リングメニューをマウスでドラッグして移動することはできません。ただし、画像の上の好きな場所で右クリックすると、その場所にリングメニューを表示できます。

マスクツールを使いながらリングメニューを呼び出す場合、キーボードの[Esc]

キーを押すとアクティブなマスクに戻ることができます。このキーをもう一度押すと、部分調整の作業を終了します。

部分調整のマスク

部分調整のマスクとは、画像の特定の領域や要素に行った補正やレタッチのことで、プリセットによる補正、〔設定〕タブの補正ツールを使って自動または手動で行った全体的な補正に関係なく、レタッチを追加して使用できます。

ブラシ、段階フィルタ、コントロールポイント、自動マスクを使用する場合、レタッチする画像の一部にマスクを作成することになります。このマスクに、イコライザーで使用できる様々な補正を適用することができます。レタッチするゾーンは、青色のマスクで表示されます（コントロールポイントは除く）。これにより、画像の補正する部分を簡単に認識できます。

部分調整のマスクのインターフェース

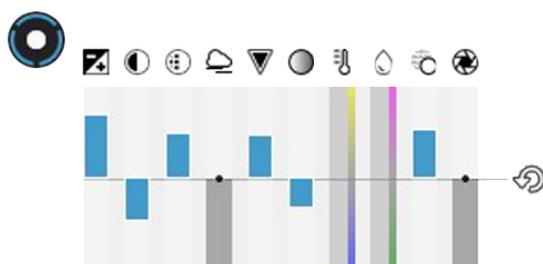
インターフェースは非常にシンプルです。全体補正ツールのようなパレットがないため、画像、特に補正する部分に集中することができます。この機能は、画面上部のツールバーの〔部分調整〕ボタンをクリックすると有効にできます。前節で説明されているリングメニューを使ってマスクを選択します。

インターフェースの共通項目

マスクを選択した後、共通インターフェースは次のように表示されます。

- マスクは、円形と選択したツールの絵文字で表示されます。実行中のマスクの円形は黒色（縁は青色）で表示され、アクティブではないマスクはグレーで表示されます。
- 画面右下のヘルプのフロートウィンドウには、可能なアクションの一覧とキーボードのショートカットが表示されます。このウィンドウはデフォルトで表示されますが、左上の〔x〕ボタンをクリックして閉じることができます（このウィンドウを再度呼び出すには、画像の上で右クリックし、リングメニュー中央の〔?〕をクリックします）。
- イコライザーでは、垂直スライダーの操作によりマスク上で直接実行される補正ツールを使用できます。

イコライザー



部分調整に関連した補正設定は、イコライザーにグループ化された垂直スライダーで表示されます。補正には以下が含まれます（左から右に）。

- 露光：マスクの明度を調整します。明るくするにはスライダーを上を動かす、暗くするには下を動かします。
- コントラスト：マスクのコントラストを調整します。コントラストを強めるにはスライダーを上を動かす、和らげるには下を動かします。
- マイクロコントラスト
：細かなディテール（テクスチャ等）のコントラストを部分的に強めたり和らげたりできます。マスクでカバーされた要素を強調したい場合は、スライダーを上を動かす、細かなディテールを和らげたい場合は、スライダーを下を動かします。
- ClearView: 部分的なコントラストを強調し、白いもやを部分的に削除します。
- 自然な彩度：選択的に彩度を調整します。彩度が飽和した色には影響せず、他の部分の彩度を上げることができます。
- 彩度：色の強度を増加/減少します
- 色温度* (RAW
ファイルのみ)：部分的にホワイトバランスを調整できます。色温度を上げるにはスライダーを上を、下げるには下を動かします。
- 色相* (RAW
ファイルのみ)：色温度の調整後に、シャドウ部で色かぶりが発生した場合に補正できます。マゼンタで補正する場合にはスライダーを上を動かす、グリーンで補正する場合は下を動かします。
- シャープネス：補正マスクのシャープネスを調整します。補正結果を画面上で確認するには、最低でもズーム率 75% で表示してください。
- ブラー
：ブラー効果を適用します。ブラー効果を強めるにはスライダーを上を動かす、弱めるには下を動かします（ボケ表現スライダーは、0 から下には移動できません）。

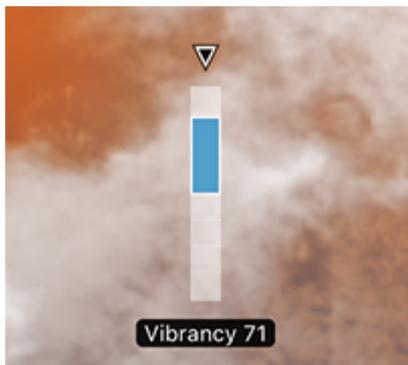
*注：色温度と色相のスライダーは、青色のボタンで表示され（他の要素は黒色で表示）、全体的なホワイトバランスを考慮します。四角の上にマウスポインターを動かすことで、値を確認できます（色温度は「K」、色相は「-200 から +200」の範囲で表示）。

特定の補正を行う場合、補正中のスライダのみが表示され、イコライザーは一時的に表示されなくなります。選択した設定を調整するには：

- スライダの上をクリックして、マウスを縦方向に動かします（強める場合は上、弱める場合は下）。設定レベルは青色のバーで表示され、マウスを動かすとフローティングパッドに数値が示されます。
- より正確な補正を行うには（Windows
バージョンのみ）、スライダをクリックして、マウスを横方向に移動します。これにより、補正に対応するデジタル値の変更をスローダウン

することができます。

水平線は設定の中央値を意味します。イコライザーの補正全体をリセットするには、右側の丸い矢印をクリックします。特定の設定をリセットするには、スライダ上でダブルクリックします。



また、補正確認にイコライザーが邪魔になる場合、キーボードの[E]キーを一回押すと非表示にすることができます。同じキーを再び押すと再表示できます。

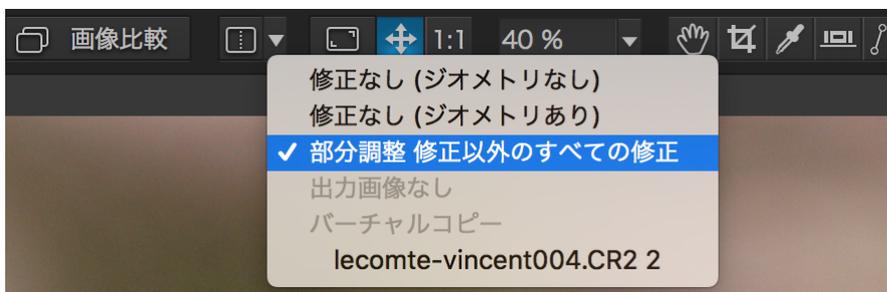
部分調整あり / なしの画像を比較する (MacOSのみ)

DxO PhotoLab

の参照画像ツールを使うと、部分調整あり / なしの画像を比較できます。この機能を使うと、画像上で部分調整の影響を評価したり、必要な場合は補正を元に戻したり、作業を続けたりできます。

部分調整あり / なしの画像を比較するには：

- - 部分調整がアクティブである必要があります。
- - [表示]メニューで[参照画像]に進み、コンテキストメニューで[部分調整以外のすべての修正]にチェックマークを付けます。
- - 上部のツールバーの[部分調整なし / ありの画像を交互に表示]から、[比較する]ボタンをクリックして離します。



比較を終了するには、参照画像に戻り、[部分調整以外のすべての修正]のチェックマークを外します。

注：[部分調整以外のすべての修正]オプションは、MacOSバージョンでのみご利用いただけます。

ブラシ

ブラシの使い方

ブラシはマスクの一種で、マウスで色を塗るだけで画像の一部をレタッチできます。あらゆる種類のポインティングデバイス（タッチ画面、トラックパッド等）を使うことができます。

このツールを使うと、例えば、逆光の被写体を明るくしたり、花の色を強調したり、モデルの目のシャープネスを高めたりできます。ブラシは、全体に塗ったり（一続きのシルエットを明るくする）、部分部分に塗る（モデルの目を一つずつ際立たせる）こともでき、その適用の可能性には限りがありません。また、一つの画像に複数のブラシマスクを作成することもできます。

ブラシを有効にする

ブラシを有効にするには、上部ツールバーから[部分調整]ボタンをクリックします。次に、画像の上で右クリックをしてリング

メニューを表示し、ブラシを選択します。

ブラシの使い方



ブラシは、ブラシのアイコンのついた青色の円で表示されます。レタッチしたい画像部分をクリックすると、アクティブな円とイコライザーが表示されます。この段階では、塗り続けて後で設定を調整することも、まず設定を調整して後で画像を塗ることも可能です。もちろん、イコライザーで利用できる複数の設定を組み合わせることもできます。例えば、ある被写体を明るくしながら、その被写体のシャープネスやマイクロコントラストを強調することもできます。

- ブラシサイズは、[Ctrl] (Windows) / [Cmd] (macOS) キーとマウスホイールを組み合わせることで調整できます。サイズを大きくするには前方向に、小さくするには後ろ方向にホイールを動かします。
- ぼかし (ブラシの縁のぼかし) を設定するには、[Shift] キーとマウスホイールを組み合わせます。はっきりした輪郭にするには前方向に、よりぼやけた輪郭にするには後ろ方向に回します。〔サイズ〕と〔ぼかし〕スライダは、画像の下のツールバーからも使うことができます。

Windows:



Mac:



塗る際には、レタッチ作業を進めやすくするためにブラシを動かした場所に青色のマスクが描かれます。精度を上げたり、エッジに沿って塗る場合は、画像をズームインして作業してください。ブラシで塗らない時は、画像の下のツールバーから〔選択したマスクを表示〕のチェックマークボタンを使って、青色のマスク表示を有効/無効にできます (macOS のみ)。

マスクの作成と管理

異なる対象をレタッチしたり、飛び飛びに塗るために、必要な数だけマスクを作成できます。また、レタッチの範囲を重ねることもできます。

新しいブラシマスクを作成する

には、実行中のマスクの円の中をクリックして選択を解除します。次に、+マークのついた青色の円を希望の場所に動かしてクリックします。これで新しいアクティブなマスクが作成され、ブラシでマスクの範囲を塗ったり、調整を行ったりできます。

マスクを削除したい場合、マスクをアクティブにして、キーボードの[Return]キー (macOS) または[Delete]キー (Windows) を押してください。

消しゴムを使う。輪郭からはみ出した場合や、失敗を修正したい場合、[Alt]キー (Windows) または[Option]キー (Mac)

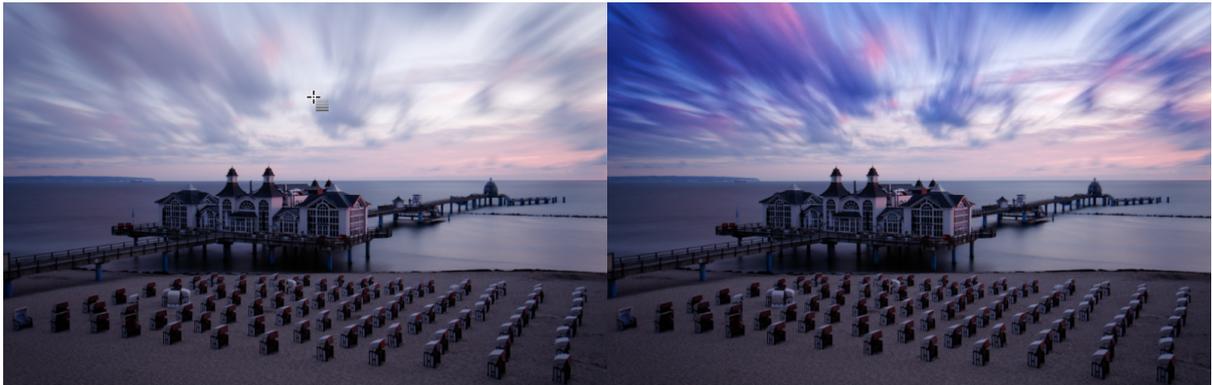
)を押して消しゴムを有効にし、アクティブなマスク上で消しゴムを動かしてください。消しゴムで消す場所を確認するには、青色のマスクを参考にしてください。消しゴムのサイズとぼかしは調整することもできます。ブラシモードに戻るには、[Alt/Option]キーを離してください。

注：消しゴム機能についての詳細は、後述の消しゴムのセクションを参照してください。

段階フィルタ

段階フィルタの使い方

段階フィルタは、レンズの前面に装着する光学段階フィルタの効果をシミュレーションします。特に、風景画像の露光のバランスをとったり、空の明るさと地面の明るさの間の大きなコントラストを低減したりします。



段階フィルタを有効にする

段階フィルタを有効にするには、上部のツールバーから〔部分調整〕ボタンをクリックします。次に、画像を右クリックしてリングメニューを表示し、段階フィルタのアイコンをクリックします。

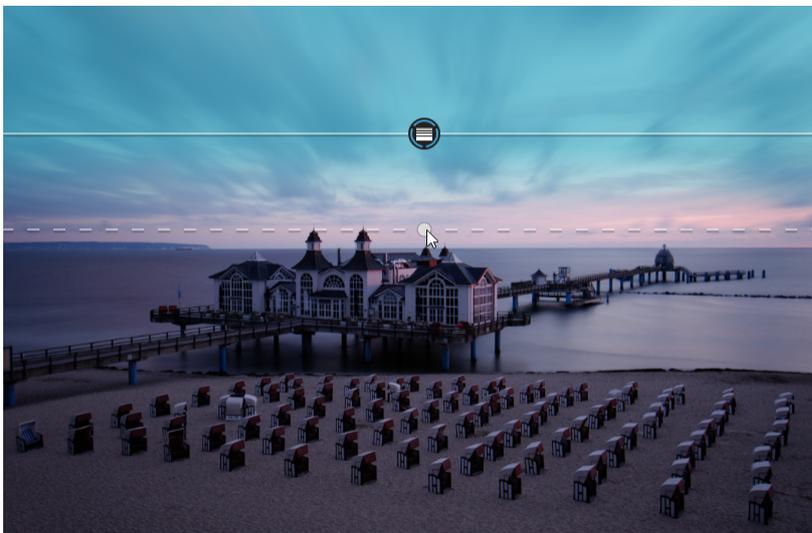
段階フィルタを適用する



段階フィルタが有効になると、マウスポインターの形が〔+〕(MacOs) / 水平階層のアイコン (Windows) に変わります。マウスポインターを画像の上部に置き、マウスを下に向けて動かします。

段階フィルタは次の要素で構成されています：

- マスクの円を通る実線。この実線は、段階フィルタの出発点に対応しています。
- 点線のセンターライン。マスクの中心を示す点があります。
- 透明な青色のぼかしマスク。効果がどのように適用され、どのように分布するかを示します。



イコライザーのスライダーを使って補正します。同じ場所に、それぞれ調整度合いの違う複数の段階フィルタを重ねたり、単に同じ段階フィルタ内で複数の補正を組み合わせることもできます。



段階フィルタを管理する

段階フィルタは画像上のどこにでも移動できます。点線上の円をマウスで抑えながら傾けることもできます。効果の最大適用領域を広げたり、狭めたりするために、点線は二方向に移動できます。効果が增大する領域を調整するために、実線も同様に二方向に移動できます。

注)

- 段階フィルタは、どの方向にでもかけることができます（上から、下から、横から、斜め）。もちろん、一つの画像に複数の段階フィルタを作成することもできます。
- 段階フィルタのマスクを移動したり、変更した場合、補正はリアルタイムで表示されます。

段階フィルタを削除したい場合、マスクの円形をクリックして段階フィルタを有効にして、キーボードの[Return]キー（MacOS）または[Delete]キー（Windows）を押してください。

画像の一部を段階フィルタの補正から保護する

ある画像に段階フィルタを適用する場合、例えば、空を暗くしたり強調したりしたい場合、その効果を地面の上の他の要素（建物、レリーフ、彫像など）には適用したくない場合もあります。その場合、対象外にしたい要素から段階フィルタ効果を低減するために、消しゴムを使うことができます。消しゴムを使い終わったら、画像の上で右クリックし、リングメニューから段階フィルタをクリックすると、アクティブな段階フィルタに戻ることができます。

コントロールポイント

コントロールポイントは、非常に特長的な機能を持った部分調整ツールです。ユーザーが画像の上をクリックしてコントロールポイントを設定すると、コントロールポイントのピクセルの明度、コントラスト、色調を考慮し、ユーザーが定義した範囲内で、同じ特徴を持ったピクセルにその補正を適用します。

簡単な例をあげてみましょう。コントロールポイントを、別の背景の前にある赤いマグカップの上に置き、マグカップを囲むように範囲を調整した場合、赤いマグカップの上だけに補正が適用され、背景にはみ出ることはありません。画像の中によく似た赤色の別の被写体があった場合でも、その被写体がユーザーの定義する範囲に入っていなければ、補正が適用されることはありません。ただし、ユーザーが赤い被写体を範囲内に入れた場合、赤い被写体には赤いマグカップと同じ補正が適用されます。この被写体に別のコントロールポイントを適用した場合、1つ目のコントロールポイントとは別に補正が行われます。



コントロールポイントの使い方

コントロールポイントを使うと、ツールのアクション範囲で定義した領域に選択的補正を行うことができます。その場合、アクション範囲の外側にあり、コントロールポイントがカバーするピクセルと異なる特徴のピクセル部分に影響を与えることはありません



コントロールポイントを有効にする



その他の部分調整と同じく、まず、上部のツールバーから〔部分調整〕ボタンをクリックします。次に、画像の上で右クリックして、リングメニューを表示します。次に〔コントロールポイント〕のアイコンをクリックします。

部分調整を使って作業中の場合、画像の上で右クリックしてリングメニューを表示し、〔コントロールポイント〕を選択します。コントロールポイントは、必要な数だけ適用することができます。コントロールポイントは、部分調整の他のマスクが適用されている画像内でも使うことができます。

コントロールポイント使う

マスクを有効にした後、マウスのカーソルを画像の上で動かすと、カーソルが〔+〕になります。画像の補正したい領域や被写体の上でクリックします。コントロールポイントは中心部に〔+〕マークのついた円で表示され、周りにはより半径の長い円が表示されます。ここでも、青色の縁のある円はコントロールポイントがアクティブであることを示しています。

画像の複数の場所に同じ補正を適用するために、コントロールポイント同士を結びつけることができます。そのためには、アクティブな

コントロールポイントを使い、画像上で好きな回数クリックしてください。二次コントロールポイントはシンプルな十字線とアクション範囲の円で表されます。それぞれのコントロールポイントは別々に設定できます。イコライザーで必要な調整を行ってください。調整は

コントロールポイント全体、つまり、一次コントロールポイントとすべての二次コントロールポイントに適用されます。

ただし、異なる調整を適用するには、そのたびに新しいコントロールポイントを作成する必要があります。

外側の円をマウスで掴んでコントロールポイントのアクション範囲を調整し、イコライザーで必要な調整を行ってください。

コントロールポイントを管理する

中央の円形をマウスで動かし、コントロールポイントを自由に移動することができます。

自動マスク

自動マスクを使うと、明るさ、コントラストや色の違いで定義されたエッジをはみ出ることなく、画像の正確な領域内で補正対象を塗ったり、補正を適用したりできます。

使い方はブラシの使い方によく似ています。ただし、エッジの自動検出はブラシとは異なる機能です。補正はエッジ内部だけに適用されるため、はみ出しても問題ありません

自動マスクの使い方

具体的な使用ケースとしては、例えば、背景の中で際立っている車の色を変える場合が考えられます。自動マスクは、明確な被写体や要素の上で特に威力を発揮します。空の調子を変えるには、コントロールポイントか段階フィルタを使います。



自動マスクを有効にする

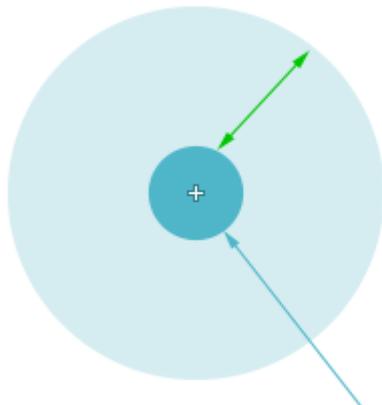
上部のツールバーから〔部分調整〕ボタンをクリックした後、画像の上で右クリックします。次に、リングメニューから〔自動マスク〕をクリックします。画像に他の部分調整マスクが使われている場合でも、自動マスクを使うことができます。

自動マスクを使う

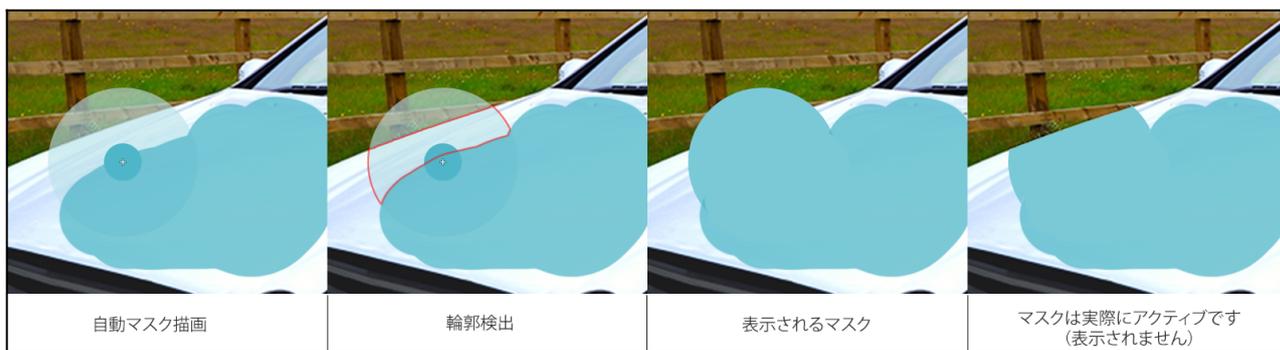


有効にすると、自動マスクはブラシのように見えます（中央に〔+〕マークのある青色の円）。画像をクリックすると、青色の「A」というラベルがついたブラシを含む、マスクの円が貼り付けられます。青色の縁は、アクティブなマスクであることを示します。次に、補正する領域や要素に色を塗ります（塗る前/後にイコライザーの設定を行うことができます）。連続してクリックして、ブラシストロークを適用することもできます。ある要素からはみ出した場合でも、補正はエッジ内部に制限されます。要素からはみ出した場合、特にレタッチする要素の一部が画像の他の要素と混じり合っている場合、[Alt] (PC) + クリック、または [Option] (Mac) + クリック ショートカットキーを使って、消しゴムを有効にしてください。

円外の領域に対して輪郭の自動検知が働きます



円内の領域は選択され



質感のある要素の場合、完全にカバーすることはできません。その場合、ブラシをかけてください。
ブラシのサイズは、[Ctrl](PC) または [Cmd](Mac) キーとマウスホイールとを組み合わせで調整できます。
アクティブなマスクを表示するには、画像の下のツールバーから[選択したマスクオーバーレイを表示]にチェックマークを付けてください。

注：ただし、自動マスクのブラシにぼかし機能は含まれません。

自動マスクを管理する

自動マスクを削除するには、円の上でクリックして自動マスクを有効にし、[Return]キーを押してください。
別の自動マスクを作成する必要がある場合、円の上でクリックしてアクティブなマスクの選択を解除し、画像の中の希望の場所をクリックしてください。

注：ブラシと同じように、自動マスクを画像の中で移動することはできません。

消しゴム

消しゴムは、部分調整機能の中でも欠かすことができないツールです。ブラシや自動マスクではみ出した場合に失敗をやり直したり、きめ細かな部分調整をすることができます。選択したマスクの種類によっては、補正を追加したり低減したりできます。

注：他の部分調整ツールと消しゴムを一緒に使うケースについては、関連セクションを参照してください

消しゴムを有効にする

消しゴムを有効にするには、2つの方法があります：

- リングメニューから消しゴムを選択します。
- ブラシと自動マスクを使う時に、[Alt] (PC) または [Option] (Mac) キーを押します（関連セクションを参照してください）。
一つ目の方法では、マウスポインターが消しゴムの形になります。サイズは、[Ctrl] (PC) または [Cmd] (Mac) キーとマウスホイールを組み合わせることで調整できます。また、[Shift] キーとマウスホイールを組み合わせることで、ぼかしを調整できます。また、画像の下のツールバーからスライダーを使うこともできます。

消しゴムの使い方



円の上をクリックして、マスクを選択します。どこを消しゴムで消すかよく確認するために、画像の下のツールバーで〔選択したマスクオーバーレイを表示〕にチェックマークを付け、青色のマスク表示を有効にします。

補正または作業をしたい部分調整の上で消しゴムを動かします。間違えて補正を消してしまった場合、[Alt] (Windows) または [Option] (MacOS)

) キーを押しながらクリックすると、一時的に〔ブラシストロークを追加する〕に移り、補正を回復することができます。こうすることで調整を回復でき、変更したい場合は、イコライザーから調整を変更することができます。

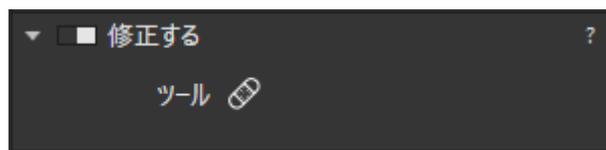
別のマスクで消しゴムを使うには、アクティブなマスクを非アクティブにし（円の中をクリック）、別のマスクをアクティブにします（円の中をクリックすると青色の縁が表示）。

注意：消しゴムは、ブラシと自動マスク機能で作業中、いつでも使うことができます。[Alt] (Windows) または [Option] (MacOS) キーを押してください。

ディテール補正

修正ツール

修正ツールは、画像上のダストシャドウや汚れを、また不要なものを任意の太さの点または線で塗りつぶすことができるツールです、ツールの幅は調整できます。



修正ツールパレット

上方のコマンドバーまたはダスト除去サブパレットの修正ツールのアイコンをクリックしたら、画像をズームして除去する部分を探すだけです（ズーム / 移動パレット内、またはスペースキーを押し続けるとマウスカーソルがハンドツールになります。またはCtrl/Cmd +マウスホイールを使います）。画像下にあるスライダーでダストペンの幅も調整可能です(100ピクセルまで)。後はダスト上でクリックするか、マウスボタンを押しながら線を引くだけです。補正結果は、画像のズームサイズに関わらず確認することが出来ます。

i ズーム率によって多少補正結果のプレビューに違いが出ることがあります。100%のズーム率なら画像処理結果を正確に確認することが出来ます。

補正を取り消す場合、画像下のツールバーにあるマスクを表示オプションが選択されていることを確認してください。次に修正ツールで塗りつぶされた部分をクリックしてキーボードのDelete

キーを押します。シアン色の部分が選択された部分で、それ以外はピンク色になります。全ての修正ツール補正を取り消すには、プレビュー画像下のリセットボタンをクリックします。



複数の写真に同じダストがある場合は、1枚の画像で補正を行ってから、その設定をプリセットとして保存して他の画像にバッチ処理することができます。また、補正のコピーペーストを使うことも可能です。

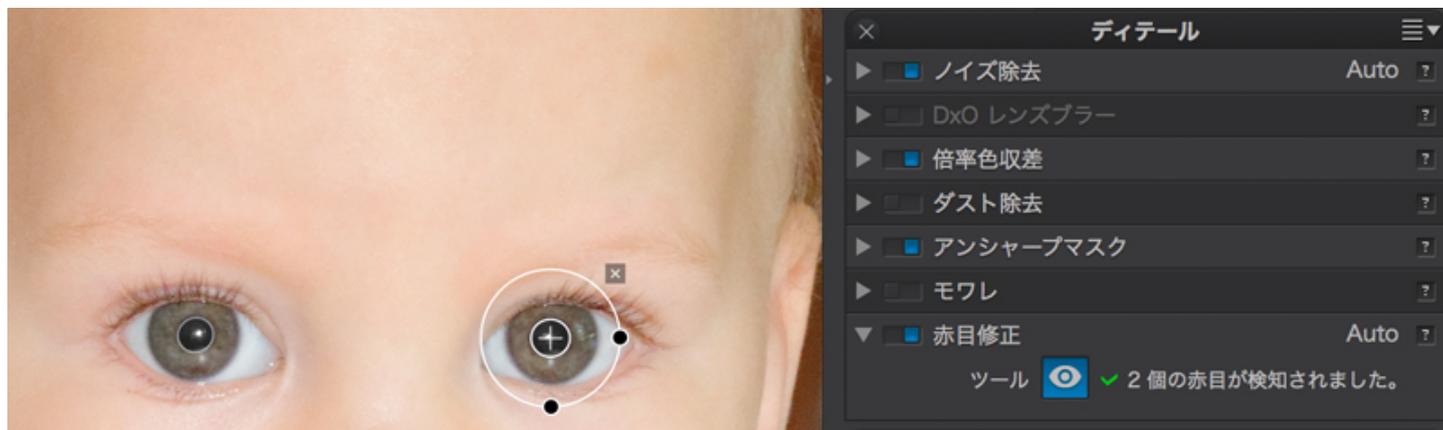
赤目修正

赤目修正は全自動で適用することができますが、顔と目が検知されない場合は、手動モードで補正が可能です。この機能は、RAWとDNGだけでなくJPEGとTIFF画像でも使うことができます。



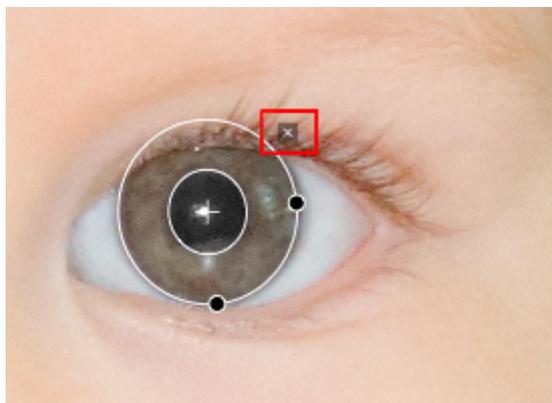
赤目修正パレット

自動処理を適用するには、画面上部のコマンドバーの右端のアイコンか、(ディテールパレットの)赤目修正サブパレットをクリックして有効にします。画像内で検知された赤目の上には楕円が描かれています。また、サブパレット内には検知された赤目の数が表示されています。



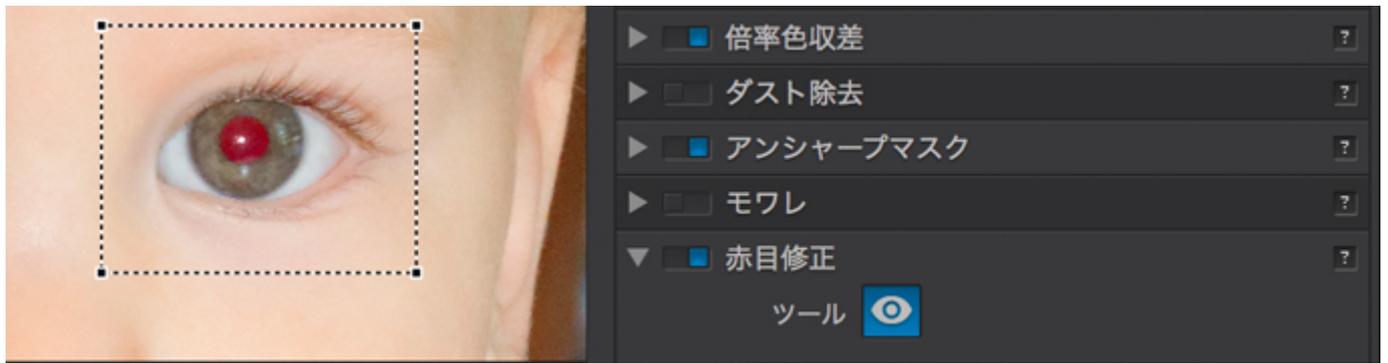
楕円の上にマウスポインタを持ってくると楕円が編集可能になり、以下の操作をすることが可能になります：

- 楕円の移動。
- 2つのハンドルを使って水平と垂直方向のサイズの変更。
- 2つのハンドルのどちらかを使って回転。
- 楕円の外の右上に表示される×印をクリックして削除。

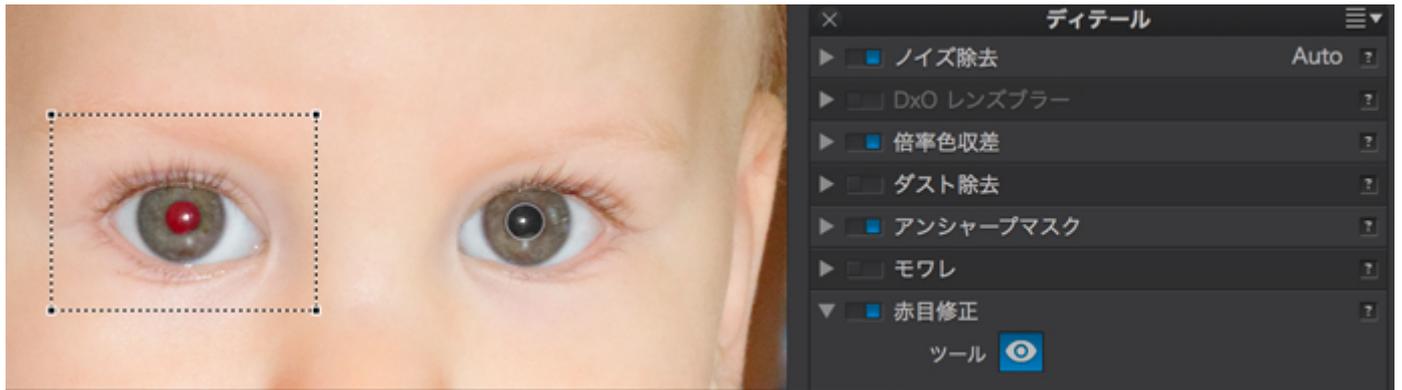


赤目が検知されなかった場合、その旨を伝えるメッセージがサブパレット内に表示され(顔の向きが正面でなかったり、小さすぎる場合)、手動で補正することができます：

- コマンドバーのアイコンか、サブパレットをクリックして赤目修正ツールを有効にします。
- マウスを使って、赤目の上に四角い枠を描きます。



- 補正は即自動的に適用され、四角い枠が楕円に変わります。
- 楕円（位置、サイズ、方向）を調整します。
- 全ての赤目を同様に補正します。



プレビュー画像の下のツールバーには、瞳を検知した部分を常に表示チェックボックスがあり、画像内で楕円の表示 / 非表示を選択できます。また、補正のリセットボタンとツールを閉じるボタンがあります。



光学補正とジオメトリ補正

- [レンズシャープネス](#)
- [倍率色収差](#)
- [モワレ\(ELITE 版のみ\)](#)
- [焦点距離と撮影距離](#)
- [クロップ](#)
- [ディストーション](#)
- [DxO ViewPoint](#)

レンズシャープネス



レンズシャープネスについて

この補正機能は DxO PhotoLab

の強力な機能の一つです。レンズブラーとはレンズのポイントがずれることにより小さいぼけが発生する光学的な問題点(一般的に「レンズぼけ」等と呼ばれています)です。焦点があっていないぼけや、被写界深度の不足、手ぶれなどは補正することができません。DxO 光学モジュールが持っているカメラとレンズの情報により、画像領域内すべてのポイントにおけるぼけ量を把握しています。

EXIF に含まれている撮影情報(絞り、焦点距離など)を元に、DxO 光学モジュールによって提供される情報によってDxO PhotoLab

はピクセルごとに補正を実行します。この補正は、画像全体に均一にはかかりません。これは、一般的にレンズは中央部分がシャープに写るため、画像の周縁部のより強い補正をかけることになります。

適正な DxO

- ① 光学モジュールがインストールされていない場合、このパレットは表示されません。もし利用できるモジュールが無い場合は、アンシャープマスクパレットとエッジオフセットスライダを手動で調整します。

- **グローバルスライダ** : グローバルスライダは、デフォルトの値が0 に設定されており、-3 から+3 までの間で調整できます。-3 から0 までのマイナスの設定でも、補正は微細なレベルで行われ、非常にオリジナル画像より画像がぼやけることはありません。(補正後の画像は、オリジナル画像と同じぐらいのシャープネスになります)。0 に設定すると、オリジナル画像と比較して若干シャープネスが上がります。全体のシャープネスを抑えたい場合(ポートレートなど)は、グローバルスライダを左に動かします。値を大きくする場合はスライダを右に動かします。レンズシャープネス補正は大変高度で、ハイライト部やISO 設定が高い画像でも効果があります。

- ① JPEG画像の場合は、カメラ内でシャープネスがすでに適用されているため、シャープネスを強くしないことが大切です。JPEG で撮影して、後で写真を編集をする場合には、画像にシャープネスがかかりすぎない様、例えば撮影時のモードをニュートラルモードにしておくとい良いでしょう。

- **ディテールスライダ** :
ディテールスライダはデフォルトでは50に設定されています。これは画像内の細部のコントラストを上げる効果的な機能です。風景写真の細部のディテールを表現する場合に有効な手段となりますが、逆にポートレートの場合は、肌の荒れが強調されてしまいます。

- ① レンズシャープネスによるディテールの表現強調は、アンシャープマスクとは異なり、輪郭強調による白いエッジが発生しません。

- **ボケ表現スライダ** :

ボケ表現スライダは、シャープネスをかけた際に画像がぼけている箇所に発生するアーティファクトを取り除くスライダです。アーティファクトを取り除こうとするとシャープネスの合っている箇所のシャープネスが若干失われます。

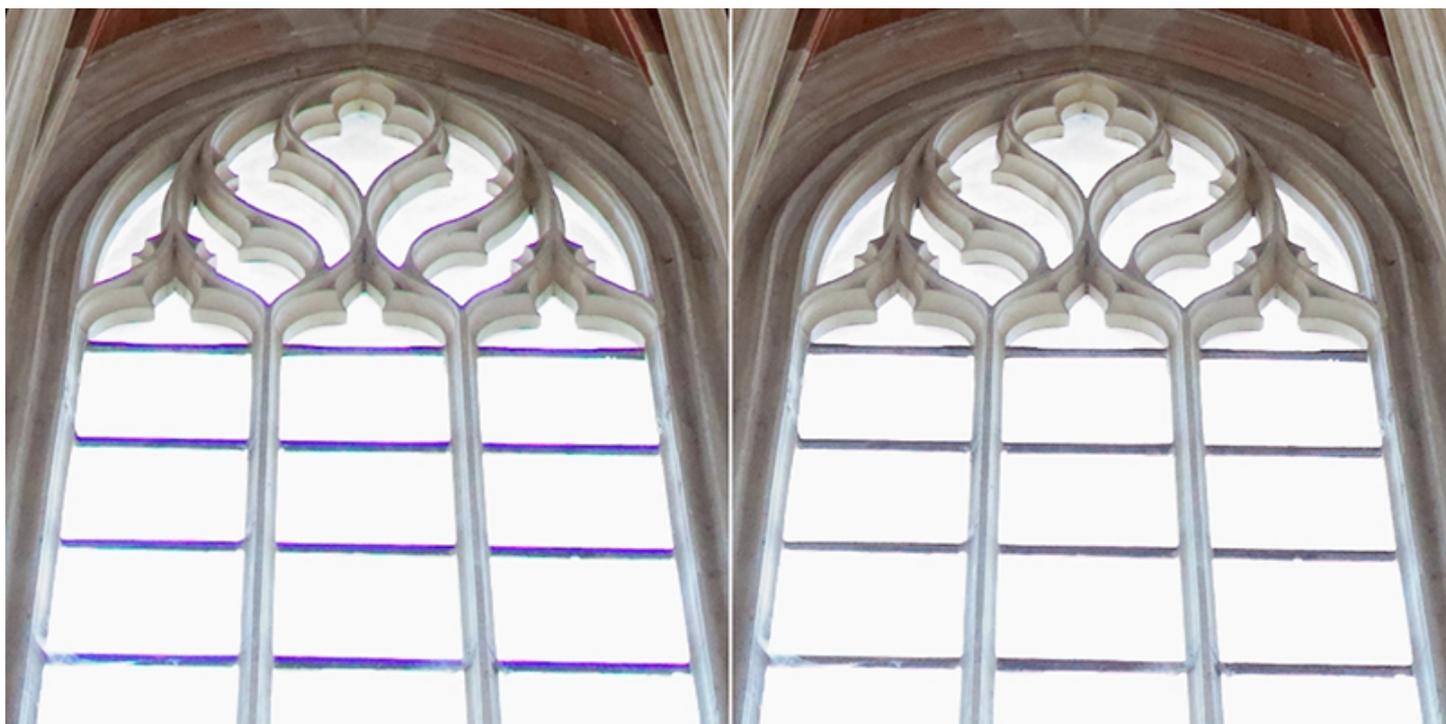
レンズシャープネスとアンシャープマスク

アンシャープマスク(USM)処理を使う前に、レンズシャープネスによる補正を実行してみることをお勧めします。もちろん、適正なDxO光学モジュールがインストールされていない場合は、シャープネス処理はすべてアンシャープマスクで行う必要があります。

倍率色収差

色収差について

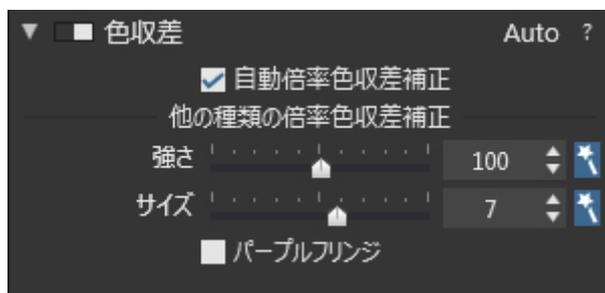
色収差は、異なる色がわずかに違う場所で焦点があうために発生します。色収差は、コントラストの高い撮影オブジェクトの境目に目に見える形で出てきます。グリーン、マゼンタフリッジ(横色収差)、パープルフリッジ、またはグリーンフリッジ(縦色収差)などがあります。「パープルフリッジ」は、色収差と同様ですが特定の現象で、紫色のゴーストがコントラストの高い撮影オブジェクトの境目に発生します。



背景から光が射している場合によく発生する色収差とパープルフリッジの例。

色収差補正

自動倍率色収差補正(エッジの周りのマゼンタやグリーンのフリッジ)は、DxO光学モジュールによって自動的に補正されます。この場合は、手動補正の必要はありません。



色収差パレット

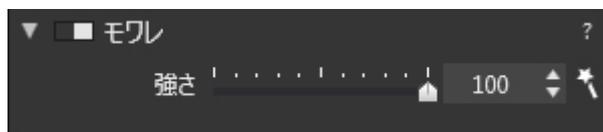
縦色収差やその他の色収差はパレット内の2つのスライダを使って補正できます。

- 強さスライダ:設定範囲:0~200%
- サイズスライダ:抑制の対象となる色収差のサイズを0~12の範囲で設定します。DxO PhotoLabが何を色収差と判断して補正を行い、何を実際の画像の内容として判断するのかを指定します。

パープルフリッジ補正には、有効/無効を切り替えるためのチェックボックスのみが用意されています。

モワレ(ELITE 版のみ)

モワレは、非常に細かいディテールと、カメラセンサーが干渉して発生するカラーアーティファクト、またはパターンです。ローパスフィルタがないカメラなどで発生しやすくなります。これらのカメラでは、フィルタが強くなるこれまでのデジタルカメラより鮮明に撮影されるため、その分モワレが発生するリスクが高くなります。モワレはタイルや網目、羽、毛皮、髪の毛、布地などのディテールによく発生します。



モワレパレット

モワレの強さスライダーで、これらのアーティファクトを取り除くことができます。設定範囲は0～100で、デフォルト値は100になっています。マジックワンドをクリックするとデフォルト値にリセットできます。

i このツールは、ズーム率75%以上でないと補正効果を目視で確認できません。

焦点距離と撮影距離

レンズの焦点距離と撮影距離の情報は、写真内のEXIF情報に記録されています。しかしこのEXIF情報が正確に記録されていない場合があります。例えば、17mmと18mmなどの異なる焦点距離が同じ値(18mm)でEXIF情報内に記録される場合があります。この場合最適な歪み補正を実行するために情報が不足します。同様に、撮影距離も正確にEXIF情報内に記録されていない場合は、補正が不正確になる可能性があります。どちらの場合も、ジオメトリパレット内に表示される焦点距離と撮影距離の二つのパレットに正しい値を入力して調整することが可能です。

- 焦点距離: スライダーで調整できます。
- 撮影距離: ドロップダウンメニューから選択した上でスライダーで微調整することができます。

i 焦点距離と撮影距離スライダーは、Mac版では常時表示されますが、Windows版では必要な場合だけ自動的に表示されます。

クロップ



クロップパレット

自動クロップ

パース補正/水平ツールで補正すると、画像の周囲の情報が失われます。クロップツールのデフォルト設定ではAuto、アスペクト比は撮影時設定に設定され、補正後の画像を、たとえオリジナルのプロポーションを変えることになっても、可能な限り多く残すように自動的にクロップします。

- ドロップダウンメニューから撮影時設定ではなく、無制約を選択してプロポーションを維持したまま、リサイズすることもできます。例えば4:3は長い辺が4、短い辺が3になります。
- ドロップダウンメニューから、1:1(スクエアフォーマット)、5:4(伝統的な5×4や10×8フォーマット)を選択することもできます。メニューバーに任意の数字を入力することもできます。

i 罫線(グリッド/三分割線)はデフォルトでは表示に設定されています。

i クロップ作業中、移動/ズームパレットを使って画像内の移動や拡大ズームができます

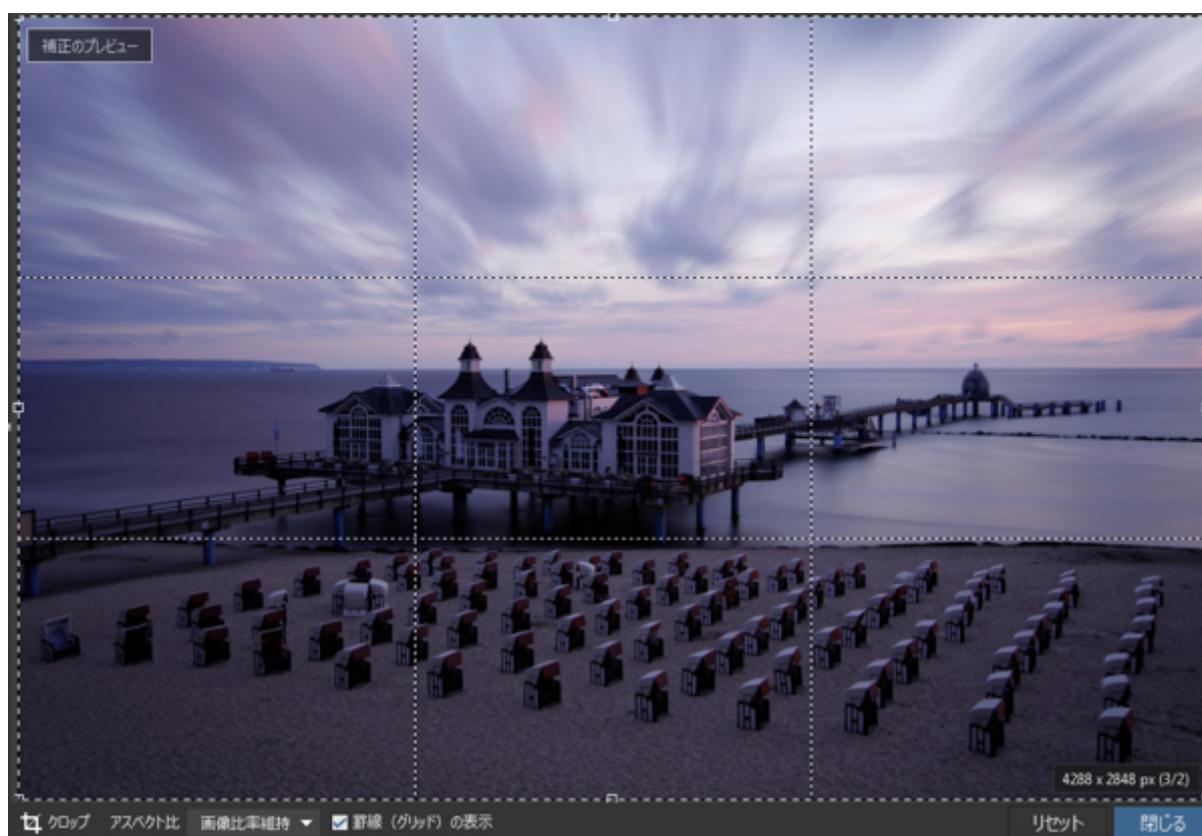
手動ク롭

- クロップツールボタンをクリックすると、画像内に点線の四角形が表示されます。この四角形の角をドラッグして、移動したり拡大することができます。もし特定のアスペクト比を選択していれば、その比率でボックスが描かれ、サイズ変更時にもその形が保たれます。アスペクト比が選択されていない場合は、自由に形を変更することができます。
- クロップが有効になったら画像上でマウスを左クリックしたままドラッグしてクロップボックスを描くこともできます。画像内に黒い四角形が描かれます。
- このボックスの四隅をドラッグすることで移動したり拡大することができます。ボックス内をクリックして動かすと位置を変えることができます。
- ボックスの外側をクリックすると、新しいボックスを描くことができます。

Mac OS X

- ① では、アスペクト比メニューで無制約を選択した場合、Shiftキーを押したままにすると画像比率が維持されます。逆に、画像比率維持を選択した場合、Shiftキーを押したままにするとクロップを無制約で実行できます。

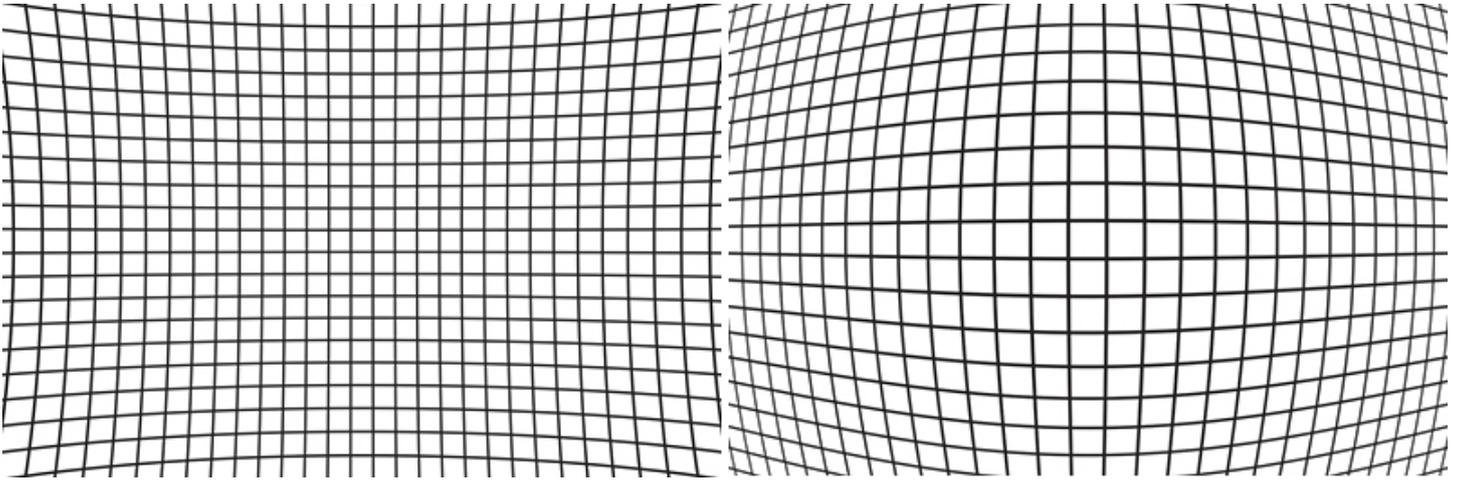
- ① 手動ク롭をする場合、画像右下にサイズがピクセル数で表示されます。



ク롭ツールを使っている場合は、コマンドバーが表示されます。ここではアスペクト比を設定したり、罫線の表示/非表示、ツールのリセット、閉じる、などが行えます。

- ① Enterキーを押して補正を適用してツールを閉じるか、Echapキーを押してク롭設定をリセットしツールを閉じることが出来ます。

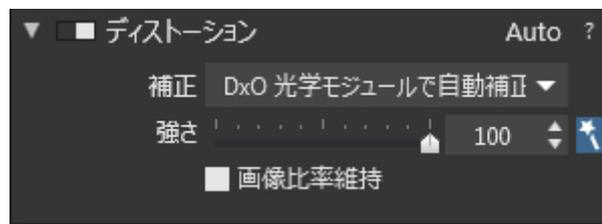
ディストーション



よくある歪みパターン:たる型(左)とピンクッション(右)

ディストーションについて

光学的な形の歪みは、ピンクッション歪み、たる型歪み、もしくは一部のレンズではそれら両方の組み合わせで発生します。どの場合も、DxO Labsによるレンズの分析測定データに基づいて補正することができます。直線を撮影すれば画像内でも直線として表示させることが可能です。



ディストーションパレット

ディストーションウィンドウには、ディストーション補正の強さを0から100%の間で調整するための強さスライダが1つあるだけです。デフォルト設定は100%で、エッジ付近の大切なディテールのクロッピングを防ぐためや、わざと効果を狙うなどの特別な理由がない限り、デフォルトのままにしておくことをお勧めします。

補正のドロップダウンメニューでは、DxO光学モジュールによる自動補正と、手動補正(カスタム)を選択できます。DxO光学モジュールが存在しない場合、手動補正のみ利用できます。

自動補正

画像に適したDxO光学モジュールがコンピュータ内にある場合には、DxO PhotoLabは自動的に補正を実行します。

手動補正

コンピュータ内に用意されていない場合、その他の理由で必要なDxO

光学モジュールが利用できない場合は、カスタムを補正ドロップダウンメニューから選択します。次に、たる型、ピンクッション、魚眼レンズからディストーションのタイプを選択します。

i 魚眼レンズ補正ツールを使う場合は、画像比率維持を外すと、より大きな画角にすることができます。

魚眼レンズを広角レンズに変更する

お使いのカメラと魚眼レンズの組み合わせがDxO

光学モジュールで対応している場合には、ウルトラワイドアングルスタイルに自動変換することができます。ディストーションタイプのドロップダウンメニュー内の魚眼レンズオプションにある強さスライダを使って手動で変更することもできます。

i 手動で補正する場合は、表示 > 罫線の表示を選択するか、またはCtrl +

画像比率維持

通常,ディストーション補正を実行すると,画像のアスペクト比(幅と高さの比率)が変更されます。出版物などで利用する場合アスペクト比は重要な要素となるため,画像のエッジを切り落としてオリジナルの比率から変更しないようにします。利用できる画像を広く取るために,パレットの一番下にある画像比率維持のチェックを外してみることもできます。

DxO ViewPoint

DxO ViewPointパレットについて

 このパレットはDxO ViewPointがライセンス認証されている場合に利用できます。

DxO ViewPoint は DxO PhotoLab

の前のバージョンのパーズ補正とボリューム歪像に更に改善が加えられ,より簡単なインターフェースになっています。さらにDxO ViewPoint 3からは,パーズ補正と水平補正が自動で可能になり,ミニチュア効果も追加されました。



DxO ViewPoint/パレット

パーズ補正

建築写真では,撮影に際してフォトグラファーが建物を下から見上げたり,上から見下ろしたりしなければならないことがあります。どちらの場合も,建物の正面の四角が画像の端に行くにしたがってすぼまってしまいます。DxO ViewPoint は以下の様な補正が出来ます。

-  **自動 (DxO ViewPoint 3)**:水平と垂直方向の自動パーズ補正と自動水平補正
-  垂直または水平方向の平行ラインの補正
-  長方形を強制する補正(長方形の4つの辺を独立して選択し一度に補正)
-  8ポイント補正(4辺を完全に独立して選択)
- 補正モードには2つのボタンがあり,100%を選択すると設定通りの補正が適用され,自然な補正(DxO ViewPoint 2のみ)を選択すると,補正適用は75%に抑えられ自然な感じに仕上がります。強さスライダを使って更に調整することも出来ます。

100%と自然な補正ボタンは DxO ViewPoint

 3にはありません。これはインターフェースをより簡素化するためです。補正の強さは,強さスライダを使って自分の好みに調整することができます。

 8ポイント補正は,DxO ViewPoint 2または3のライセンス認証をしている場合か, DxO ViewPoint 2または3のデモ版(31日間有効)を試用している場合のみ表示されます。

パーズ補正を自動モードで行った場合,手動補正に切り替えても自動補正の内容は保存され,さらに補正を微調整したり補正し直したりできます。

ボリューム歪像補正

画像の周縁部に位置する被写体の歪みは、屋内写真、イベント写真、結婚写真などでよく発生するジオメトリ的欠陥です。これはボリューム歪像と呼ばれ、広角レンズまたは広角ズームレンズを使って静物や人物を撮影したり、集合写真を撮る場合によく発生します。画像の端に位置する被写体が引き伸ばされてしまいます。

DxO ViewPointパレットには、これを、水平/垂直方向、または対角線方向に補正するツールが用意されています。

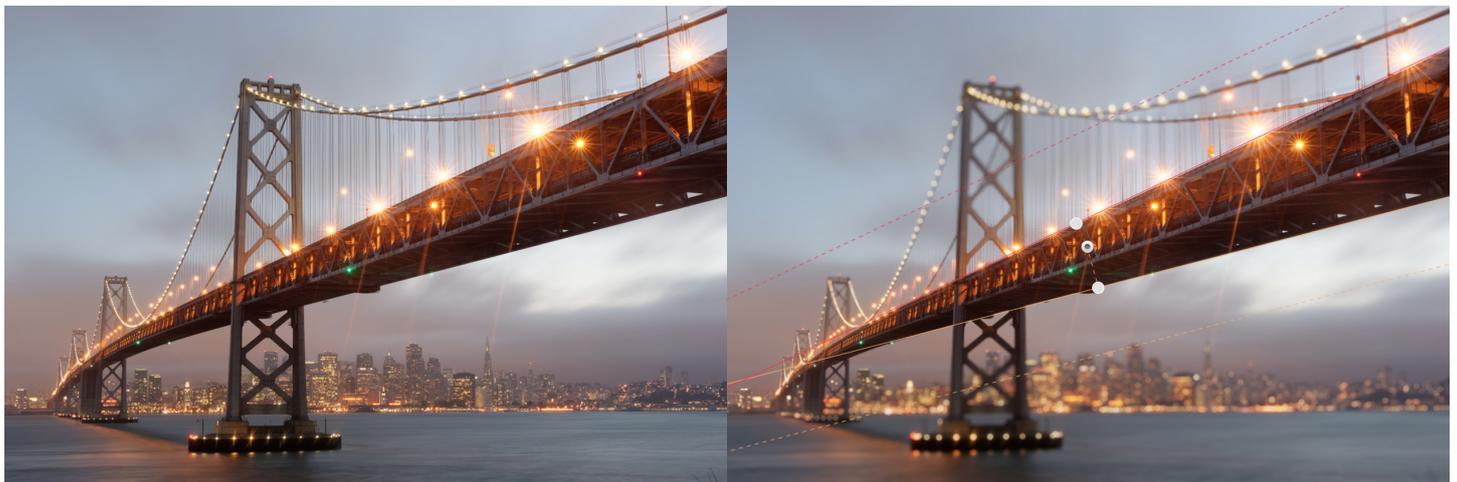
i バージョン別に利用できるツールが変わります。より詳しいことは DxO ViewPoint のユーザーガイドを参照してください。

ミニチュア効果 (DxO ViewPoint 3)

ミニチュア効果は、画像内のピントの位置をずらして、まるでミニチュアやジオラマの写真の撮ったような印象を風景写真に与えることができます。この効果は、俯瞰で撮った都市写真でより効果的です。ミニチュア効果ツールには、ほかす部分の位置やその強さに大きな柔軟性があります。

ミニチュア効果を有効にすると、画像に2段階のブラーが表示れます(4本の補助線が重なって表示)。実線は画像内でピントの合った部分の境界線になり、点線はピントが合う部分と合わない部分の画像内の上下の境界線になります。ミニチュア効果は、画像内のどの部分にも設定することが可能で、360°回転させることもできます。

ブラーの形と強さは調整することができます。また2段階のブラーの位置の対称性とブラーの強さの対称性(2段階のブラーに異なるブラーを発生することは可能)は無効にすることもできます。



DxO PhotoLab内でDxO ViewPointを使う場合の相違点

DxO ViewPointをプラグインを使う場合、補正ツールと機能は、多少変わるところがあります。

- ジオメトリ補正後の変形して画像情報のない部分がグレーで表示されます。
- 補正結果のプレビューは、画像をクリックするか、[Ctrl]キー(Windows)または[Cmd]キー(Mac)を押し続けることで可能です。
- 拡大ズームをした後、スペースキーを押し続けることでマウスポインターをハンドツールに変え、画像の移動が出来ます。
- パース補正と水平補正ツールを使う際、部分プレビューのルーペが使いません。
- ミニチュア効果ツールでは、DxO ViewPoint
3.の様に、ブラーの強さを画像内でインタラクティブに調整することができません。ミニチュア効果サブパレットの(ブラー)スライダを使えば調整可能です。
- 画面上部のコマンドバーに、ミニチュア効果用のアイコンがあります。

レンダリング調整

トーン補正

- [ヴィネット](#)

カラー

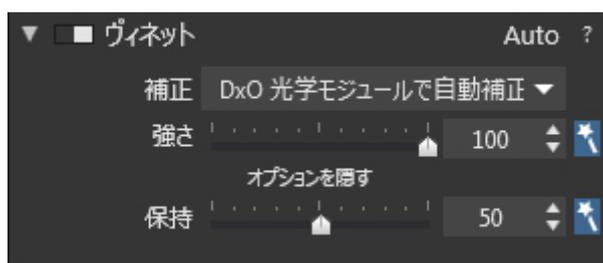
- [カラーレンダリング\(DxO FilmPackプラグインが無い場合\)](#)
- [スタイルー調色処理\(DxO FilmPackプラグインが無い場合\)](#)

DxO FilmPack

- [DxO FilmPack パレットについて](#)

トーン補正

ヴィネット



DxO光学モジュールが使用可能な場合は、2つのスライダが表示されます。

ヴィネットは、画像の角が中央部と比べて暗くなってしまう光学上の欠点です。ヴィネットの補正はDxO光学モジュールが利用できるかどうかで方法が異なります。

DxO光学モジュールが利用できる場合

この場合は、補正ドロップダウンメニューに**DxO光学モジュールで自動補正**と表示され、補正は自動で実行されます。自動補正をさらに調整することもでき、モジュールが利用できない場合は補正ドロップダウンメニューで手動補正に切り替えることもできます。

ヴィネット補正は基本的に2つのステップで調整が可能です：

1. 最初に、DxO光学モジュールが、レンズデータ、焦点距離、露出設定などから画像内の全ピクセルでヴィネットの度合いを検証します。強さスライダ(0～100%)を使って、画像内でどのくらいヴィネットを取り除けばよいのかを決定します。
2. 続いて明るい部分におけるクリッピングや、シャドウ部分におけるノイズ増加を防ぐためのフィルタが適用されます。このフィルタで各ピクセルの輝度によって、かける事のできる値を制限します。このフィルタの効果は、画像の内容によって異なります。オプション表示ボタンをクリックすると、フィルタの強さを調整できる保持スライダ(0～100%)が表示されます。
 - この値を0%に設定すると、ヴィネット補正は制限無くかかります。
 - 80%に設定すると、大きい範囲のハイライトとシャドウが補正されません。

この2つの設定を調整する場合は、強さ

スライダを100%に設定してから、保持スライダを動かした方が良いでしょう。このツールで補正できるのは、レンズまたはセンサーによって発生するヴィネットのみです。レンズフードなど機材の構造によって発生するヴィネットは補正できません。この場合はクロップツールなどを使って問題箇所をトリミングしてしまう方法もあります。

 マジックワンドをクリックすることで、すべてのスライダをデフォルト(自動)設定にリセットできます。

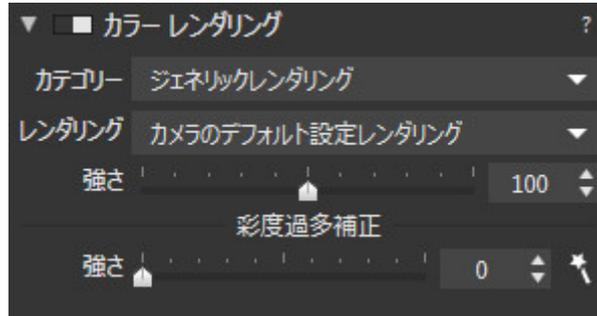
DxO光学モジュールが利用できない場合

利用できるDxO光学モジュールがない場合は、目で画像の隅を確認しながら強さスライダを使って手動調整をすることが可能です。中央部強調スライダを使うと、画像の中心部からどこまで補正を適用するかを選ぶことができます。

カラー

カラーレンダリング(DxO FilmPack がインストールされていない場合,ELITE版のみ)

すべてのカメラ、処理ソフトウェア、そして伝統的な写真のフィルムでは、それぞれ異なる解釈でカラーレンダリングを行います(この解釈がメーカーの評価になります)。カラーレンダリングパレットでは、他のカメラやフィルムで撮影したような色を再現することができます。または、同時に複数のカメラを利用して撮影した画像の調子を揃えたい場合に利用します。特定のカメラの特徴を出さずに、ニュートラルな仕上がりに揃えてクライアントに提出したいという場合もあります。



カラーレンダリングパレット

JPEGまたはTIFF画像

他の補正と同様に、TIFFやJPEG画像へのカラーレンダリング補正は、RAW

ファイルへの補正に比べて限界があります。すでに処理済みの場合撮影時の情報を取り戻すことはできません。これらのファイル形式の場合は、フィルムのみ利用できます。

フィルムカテゴリは、カテゴリとレンダリングの2つのドロップダウンメニューがあります。強さスライダは、オリジナル画像と他のカラースペースに変換した画像のブレンド率を調整可能です。デフォルト設定は100で、0にすると元画像、100以上にすると補正が強調された効果になります。

RAW画像

RAW

画像はすべての光の情報が含まれているため、様々なカラースペースにも変更することができます。カラーレンダリング補正が効果的にかかります。カテゴリとレンダリングの2つのドロップダウンメニューから様々な設定が行えます。

- ジェネリックレンダリング：カメラ本体はカメラのデフォルトレンダリングが適用されます。JPEGファイルの場合は工場出荷時の設定でレンダリングされます。2つ目のドロップダウンメニューから4種類の「ニュートラルカラー」から選択できます。これらはコントラストなど、トーンカーブが若干異なります。ニュートラルカラー:ニュートラルな色調は、他のカラーレンダリングへ切り替える場合の基本となる設定です。

DxO

 PhotoLab

では、いくつかのカメラメーカーのフォトスタイルは考慮しませんが、標準のオリジナルレンダリングに可能な限り近づけるようにします。

- カメラ本体：カメラ本体が選択されていると、2つめのドロップダウンメニュー内に、DxO Labsが実際に計測してテストした様々なメーカーやモデルのカメラリストが表示されます。
- カラーポジフィルム：DxO FilmPackプラグインがない場合は、DxO PhotoLabはカラーポジフィルムの「ジェネリックポジフィルム」のみ選択できます。

DxO

FilmPackがインストールされていない場合は、よく利用されるいくつかのカラーポジフィルム(Kodachrome、Fuji、Velvia等)のみがフィルムレンダリングとして使用できます。DxO



FilmPackがインストールされていると、さらに60種類を超えるフィルムレンダリングから選択できるようになります(詳しくは、DxO

 Academyを参照してください:<http://www.dxo.com/intl/photography/tutorials>。

• ICCプロファイル : ICC

プロファイルを選択すると、ダイアログボックスが開いて利用したいカラープロファイルを選択できるようファイルシステムが開きます。ICCプロファイルは、ビジュアルデバイス(カメラ、モニタ、スキャナー等)の設定プロファイルで、.JPEGやTIFF画像では、強さスライダを使ってオリジナル画像と他のカラープロファイルを設定した画像のブレンドをすることができます。0に設定するとオリジナル画像が表示され、100にするとカラープロファイルが適用された画像のみが表示されます。100以上に設定することもできます。

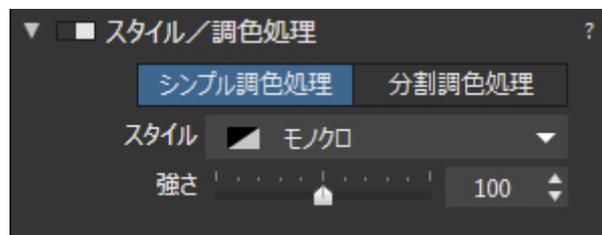
• 彩度過多補正 :

特定のカラーが飽和して、ディテールが失われたり不自然な色になってしまうことを防ぐためのツールです。飽和は特定のカラーチャンネルの明るさが最低(0)や最大(255)に近い場合に発生します。この処理は自動的に実行されます。強さスライダで調整することもできます。マジックワンドアイコンをクリックすると、オリジナルの自動設定に戻すことができます。

強さスライダは特定のカラーレンダリングに適用した場合のみ利用できます。RAW

 画像では、カラーレンダリングが適用されている場合は常に適用されます(デフォルトではカメラ本体のカラーレンダリングが選択されています)。JPEG画像では、カメラボディですでに処理済みのため、DxO PhotoLabはカラーレンダリングを適用しません。

スタイルー調色処理(DxO FilmPackプラグインが無い場合)



スタイルー調色処理パレットには、画像全体のコントラストや彩度を調整してクラシックスタイルを再現するプリセットが用意されています。

- モノクロ : カラー画像をモノクロに変換します。
- 風景 : 緑色が強調されます。
- ポートレート : スキントーンをきれいに見せます。
- セピア

強さスライダで調整することができます。デフォルトの値は100で、0にするとオリジナル画像になります。

 スタイルー調色パレットのコンテンツはDxO FilmPackがインストールされているかどうかで変わります。

DxO FilmPack

DxO FilmPack パレットについて

 DxO Film Packプラグインが利用できる場合はこのパレットが表示されます。

DxO PhotoLab内でシームレスにフィルム効果やDxO Film Packで提供される機能を利用することができます。



DxO FilmPackパレット

この機能には5つのパレットがあります：

- **カラーレンダリング**：このパレットは、カラーパレット内にあるカラーレンダリングパレットと同じものです。カメラ本体やICCプロファイル、ポジ、ネガ、カラー、白黒などの様々なフィルムから選択することができます。
- **スタイル - 調色処理**：このパレットも、カラーパレット内にある同名のパレットと同じものです。調色処理を適用できます。
- **コントラスト**：画像のコントラストとマイクロコントラストを補正。
- **フィルタ**：レンズフィルタを再現するものです。
- **DxO FilmPack粒状感**：白黒やカラーの最大60種類以上のフィルムが持つ粒状感を再現できます。サイズも設定できます。
- **モノクロ写真用のチャンネルミキサー**(DxO FilmPackのELITE版でのみ利用可能)：カラー画像からモノクロ画像に変換する際に6つのカラーチャンネル(RGB：赤、緑、青 / CMY：シアン、マゼン、黄)のバランスを自分の好みに合わせて調整できます。
- **クリエイティブヴィネット**(DxO FilmPackのELITE版でのみ利用可能)：画像の周縁部分の光量調整が可能で、画像の中央に視線を集めたい場合に利用される手法です
- **ブラー**(DxO FilmPackのELITE版でのみ利用可能)：ヴィネットを使えば、被写体の周りにブラー効果をつけることができます。ソフトフォーカスを使えば、画像全体に光の拡散効果を適用できます。
- **フレーム**(DxO FilmPackのELITE版でのみ利用可能)：画像の周辺部分にフレームを付けます。
- **テクスチャ**：(DxO FilmPackのELITE版でのみ利用可能)：傷やしわくちやの紙などのテクスチャを付けます。
- **光漏れ**：(DxO FilmPackのELITE版でのみ利用可能)：フィルム現像の際にフィルム上に光が漏れる現象を再現します。

i バージョンまたはエディションの違いにより、利用できる補正ツールが変わります。詳しいことはDxO FilmPackのユーザーガイドを参照してください。

DxO ONEの画像を処理する

DxO ONEの画像ファイルはDxO PhotoLab(v10.5以降)でサポートされています。また、専用のツールもいくつか用意されており、DxO Super RAWによるSuper RAW形式ファイルのノイズ除去や撮影モードの変更が可能で、デジタルズームで撮影した画像を元の画面の大きさに戻すこともできます。

DxO

ONEで撮影された画像は、デジタル一眼レフカメラで撮影されたRAW

画像と同様に補正することが可能です。設定タブの補正ツールは全て例外なく使用可能で、画像のエクスポート、プリント、他のアプリケーションへの転送なども可能です。

画像の管理(選択タブ)

DxO PhotoLabの開くをクリックすると、DxO Connectアプリケーションを通してDxO ONEの画像に直接アクセスすることが可能です。

Windows版

ソースブラウザの外部選択セクションで、自動的にセッションが作成されます。セッションには、オペレーティングシステムの日付と時間がつきます。

i Windows版では、DxO ONEのセッションは名称変更も削除もできません。

OS X版

ソースブラウザに自動的に新しいプロジェクトが作成されます。作成されるプロジェクト名には、セッションの日付と時間がつきます。DxO Connectの設定で定義されたインポートフォルダ内の画像に、ソースブラウザを通してアクセスすることが可能です。

i Mac版では、DxO ONEのプロジェクトは他のどのプロジェクトと同様、名称変更や削除することができます。

画像の処理

DxO ONEは、DNG(RAW)、DxO(Super

RAW)、JPEG形式の画像ファイルを作成することができ、設定タブの全ての補正ツールを使うことができます。デフォルトのプリセット、DxO PRIMEのノイズ除去、DxO ONE専用の機能があります。

i 設定タブと補正ツールに関しては、ユーザーガイドを参照してください。

i DxO ONEはビデオファイルを作成することができますが、これはDxO PhotoLabではサポートされていません。ビデオの使い方に関しては、DxO ONEのユーザーガイドを参照してください。

EXIFパレット内の情報

EXIFパレットには、撮影日と時間、そして露出パラメータ以外に、DxO ONE専用の情報が表示されます：

- カメラとレンズの機種
- 画像形式:RGB (.JPEG),RAW (.DNG),Super RAW(.DXO)
- 露光モード

デフォルトの撮影モードと光学モジュール

DxO PhotoLabは、画像を開くと同時にDxO ONE専用のプリセットとDxO

ONEで撮影時に選択された撮影モードの設定を適用します。もちろん、設定タブの補正ツールを使って手動で補正をしないことも可能です。

i RAWとSuper RAW
画像ファイルに対して撮影モードの適用をキャンセルすることも可能です(ユーザーガイドのプリファレンスのセクションを参照)。

DxO ONEには、アプリケーションに予めインストールされたDxO光学モジュールがあります。1つはJPEG画像用で、もう1つはRAWとSuper RAW用です。光学モジュールは、ディストーション、ヴィネット、色収差を補正し、レンズブラーの最適化を行います。

ノイズ除去

DxO PhotoLabは,DxO ONEで撮影された画像のノイズ除去を画像形式に応じて実行します:

- JPEG:高品質(高速処理)
- RAW(.DNG):高品質(高速処理)またはDxO PRIME
- Super RAW(.DXO):高品質(高速処理)または Super RAW

 それぞれのノイズ除去モードでの画像ファイルのサポートに関しては,(補正パレット:ディテール)セクションを参照してください。

Super RAWモードの場合,超高画質な画像を実現するために,4枚連続で撮影された画像を重ねて解析と計算がなされます。

 Super RAWモードは,接尾辞 .DXO のついた画像ファイルにデフォルトで適用されますが,このオプションをDxO PhotoLabのプリファレンスで無効にすることも可能です(メニューとプリファレンスのセクションを参照)。

高画質モードのノイズ除去(高速処理)は,Super RAWの画像ファイルにも使用できますが,4枚の内の最初の画像にしか補正されません。

画像のクロップ

DxO ONEにはデジタルズーム機能があり,画像をクロップして,その部分だけを画像ファイルにします.DxO PhotoLab

のクロップツールを使えば,元の画像全体を表示することが可能で,デジタルズームでクロップした枠が画面上に表示されます.もちろん,デジタルズームのクロップ枠を後から変更することも可能です。

撮影モード

DxO ONEには,5つの撮影モードがあります:

- DxO ONE - 自動
- DxO ONE - ポートレート
- DxO ONE - 風景
- DxO ONE - 夜間撮影
- DxO ONE - スポーツ

DxO PhotoLabはデフォルトで,DxO ONEで選択された撮影シーンを適用します。

DxO

ONE

の撮影モードは,プリセット適用ウィンドウ,または画像ブラウザのサムネイル上で右クリックをして開くコンテキストメニューを通して,他のカメラで撮影した画像にも適用することが可能です。

 RAWファイルやSuper RAWファイルに適用した撮影モードをキャンセルすることも可能です(ユーザーガイドのプリファレンスのセクション参照)。

画像のエクスポート

画像のエクスポートについて

DxO PhotoLab には、選択タブと設定タブで利用できるエクスポート機能があります。機能には5種類あります：

- ハードディスクにエクスポート：画像をハードディスクにエクスポートします。
- 別のアプリケーションにエクスポート：外部アプリケーションの中で画像を開きます（RAW 画像を含む）。
- **Facebook** にエクスポート：Facebook のアカウントに画像をエクスポートします。
- **Flickr** にエクスポート：Flickr のギャラリーに画像をエクスポートします。
- **Lightroom** にエクスポート：画像を Lightroom にエクスポートします。

Mac 版の DxO PhotoLab では、OS で定義された共有の拡張を自動的に利用できます。ただし、この機能をアクティブにする必要があります。



エクスポートは、DxO PhotoLab

のワークフローの最終工程です。エクスポートすることで、画像に設定した全ての補正が適用されエクスポートされます。

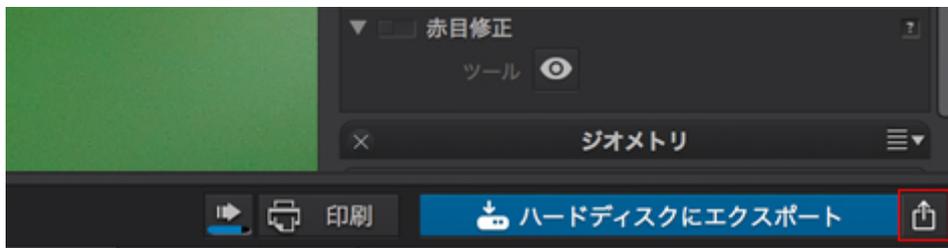
インターフェイス



ファイルエクスポートメニュー (Microsoft Windows)

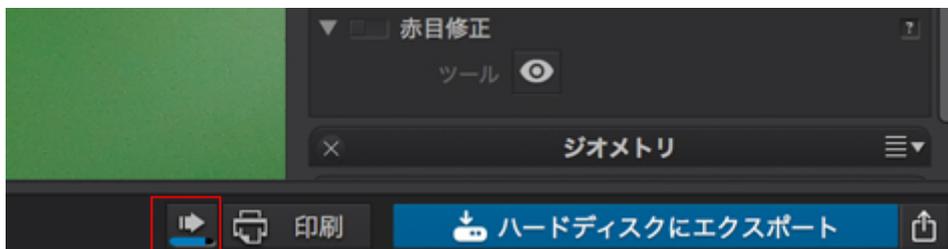
画像ブラウザ内のコマンドバーに、エクスポート関連の3つのボタンがあります:

- ドロップダウンメニューからハードディスク、アプリケーション、Flickrのそれぞれにエクスポートを選択できます。
- ...にエクスポート: ドロップダウンメニューからエクスポートのモードを選択できます(ハードディスク、アプリケーション、Facebook、Flickr、また Mac OS Xの場合、共有エクステンション)。



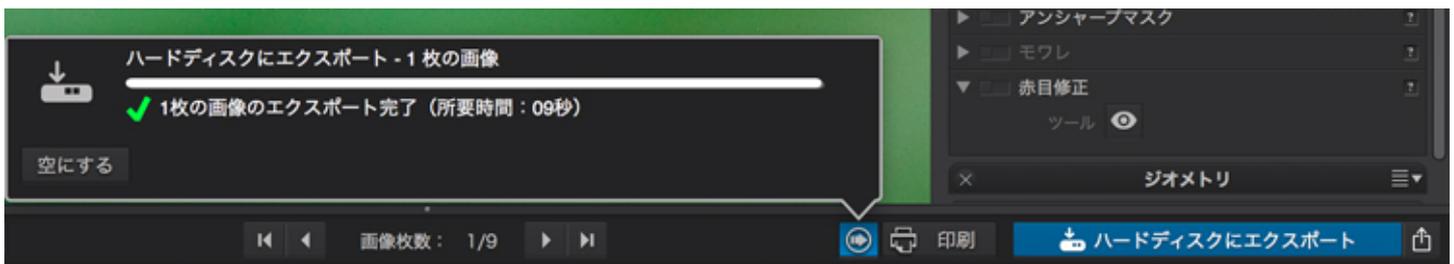
- エクスポート中のプログレスバー

:エクスポートオプションのいずれかを選択すると、処理ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、フローティングパレットが表示され、エクスポート中のプログレスバーが表示されます。



- ① エクスポートをキャンセルするには、処理ボタンをクリックして、フローティング処理パネル内で、処理をキャンセルしたいプログレスバーの横にある×印をクリックします。

フローティング処理パレットには、処理中のすべての記録が表示されます。パレットの左下にある、空にするボタンをクリックすると、リストを消去することができます。



- ① DxO PhotoLabを起動した後、何も処理していないか、空にするボタンをクリックした後はプログレスバーが何も表示されていません。

エクスポートする画像を確認するルーペ (Mac OS X):

画像のエクスポートが完了したら、パレットの進捗バーの右側に小さなルーペ(虫眼鏡)のアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、

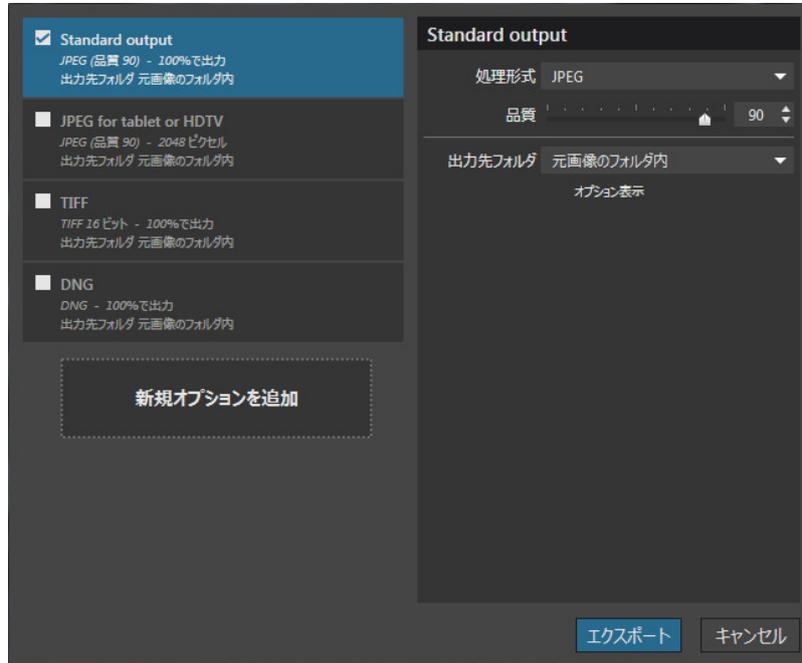
システムのダイアログボックス内でエクスポートされた画像の場所を開きます。画像を開いて結果を確認することができます。



ハードディスクへのエクスポート

ハードディスクへのエクスポートについて

画像をエクスポートすると、設定タブ内で設定した補正を適用しながら新しい画像ファイルを作成（処理）し、指定したハードドライブ上のフォルダに補正した画像を書き出します。ハードディスクにエクスポートボタンをクリックすると、ハードディスクへエクスポートのオプションのダイアログが開きます。



ハードディスクへのエクスポートオプションでは、出力ファイル形式、出力保存先、ファイル名の接尾詞、画像サイズ、ICCプロファイル等が設定できます。

出力オプションには、複数の自動エクスポート用のファイルフォーマットが用意されており、異なるフォーマットで異なる場所に同時に書き出す（Elite版のみ）ことが出来ます。

ファイルフォーマットの制限

画像フォーマットによっては、ファイルサイズが小さくなる分、画像の情報が失われる場合があります（ロッキー）。またすべての情報を保持したまま圧縮をすることができる形式もあります（ロスレス）。

JPEG はロッキーフォーマット

TIFFやほとんどのRAWファイルはロスレスフォーマットです。DNG (Digital NeGative) は特定のフォーマットです。Adobe 社によってRAWファイルの標準フォーマットとして開発されました。

利用可能な入力ファイルフォーマットと出力ファイルフォーマットの組み合わせは以下の通りです：

入力ファイルフォーマット	利用可能な出力ファイルフォーマット
JPEG	JPEG, TIFF (8 ビット)
TIFF	TIFF (8 または 16 ビット/入力ファイルによる)
RAW	JPEG, TIFF (8 または 16 ビット), DNG

処理形式

- **JPEGファイル**： JPEGフォーマットは、写真の出力ラボでのプリントやオンライン用、メール送信などで利用できます。DxO PhotoLab が JPEG ファイルを書き出す際に設定が必要な項目は、品質レベルです。スライダを 10 ~ 100 まで動かすことによって、圧縮率を設定できます。圧縮があがると品質は低下します。もちろん高品質に設定するとファイルサイズは大きくなり

ます。JPEG

は圧縮すると情報が失われますので、できれば高品質(例えば90)を選択しておき、必要に応じて小さいサイズに変換した方が良いでしょう。低い品質の画像を大きく利用するより良い結果となります。

- **TIFF ファイル:** TIFF

はロスレスフォーマットです。保存用の高品質ファイル用や、TIFF

画像を取り込んで編集できるアプリケーションで、後から編集をする場合などに利用します。TIFF

フォーマットで書き出す場合は、2つの設定を行います:

圧縮 / 非圧縮オプション: 非圧縮オプションを選択するとファイルサイズは大きくなりますが、後から編集する場合には圧縮したTIFF ファイルよりも開けるアプリケーションが多いので、非圧縮オプションの選択をお勧めします。

- **8 ビット、または 16 ビット:** 8 ビットは各チャンネル255階調、16 ビットは 65,536

階調を持っています。16ビットは、元画像がRAWファイルやTIFFファイルで、12 または 14

ビットフォーマットを持っている場合のみ利用できます。可能であれば16ビットで書き出した方が、より美しい階調を表現できます。将来的により高い品質で保存しておくことができます。

- **DNGファイル:** DNGフォーマットは、アーカイブする場合や、Adobe Camera

RAW, Photoshop, Lightroom などDNG形式に対応しているソフトウェアで処理を続ける場合に選択します。DxO

PhotoLabで生成されるDNGファイルは、16

ビットリニアのDNG形式です。この形式はオリジナル画像がRAWの場合のみ利用できます。リニアDNG

は3つのカラーチャンネルがそれぞれ補間されているため、オリジナルのRAW

ファイルより約3倍のファイルサイズになります。これらの補間は多くの光学補正を実行するのに必要です。この形式はカメラが生成するRAW

ファイルと同様のレベルのカラーと露光コントロールが可能です。DNGファイルの他の設定は、画像サイズの設定を除いてTIFF

と同じです。画像サイズについては、アーカイブや後処理のためにこのファイルを利用するので、最高の画質が保持されるようサイズができないようになっています。

- **品質:** JPEGの圧縮品質を調整します。

- **出力先フォルダ**

: デフォルトでは、オリジナル画像が保存されているフォルダと同じフォルダに書き出されるように設定されています。これは出力先フォルダ ドロップダウンメニュー (Windows) またはフォルダドロップメニュー (Mac) で選択されています。出力先フォルダ指定オプションを選択すると、パス

が開き、ハードディスクのフォルダを指定するか、新しくフォルダを作成できます。出力先の設定方法は様々です (例えば、パスを指定したり、元画像のフォルダ内を選択)、指定先を特定する場合、出力画像は、元画像が複数のフォルダに入っている場合でも全てこのフォルダ内に保存されます。元画像のフォルダ内を選択する場合、出力画像は、元画像の入っているフォルダ内に作られるサブフォルダ内に保存されます。こうすることで元画像も近くに出力画像を保存できます。この場合、サブフォルダは元画像フォルダの数だけ作成されます。

i これ以降で説明する項目は、エクスポートオプションウィンドウでオプションを表示をクリックすると表示されます。

- **接尾辞:** デフォルトでは、各ファイル名に「_DxO」が追加されますが、任意の文字に変更することもできます。

- **解像度:** 出力ファイルの解像度を設定します。

- **画像のリサンプリング/サイズ変更:**

画像サイズを変更すると画像のピクセルを再計算して再生成します。どのような方法をとっても画像情報が失われるため、サイズ変更はできるだけ最終段階で実行します。もしDxO

PhotoLabの後、編集をする場合には、オリジナルのサイズを変更しない方が良いでしょう。画像のリサンプリング (Windows)、サイズ変更 (Mac OS X) のチェックを有効にすると以下の選択が行えます:

- **最大サイズ**

: 幅または高さのピクセル数、センチメートル、インチのいずれかを入力します。ひとつのサイズ入力でも画像の縦横比を変えずに自動的にサイズを変更します。

- **補間法:** 補間に利用する演算方法を選択します。不足するピクセルを補間するための複数の演算方法が用意されています。通常は自動

のままです。問題ありません。ただ多くの写真家がバイキュービック法を利用していますので、バイキュービックを利用する場合はプルダウンから選択します。DxO PhotoLab では、バイキュービック法: シャープも利用できます。

- **ICC プロファイル (ELITE版のみ):** ICC プロファイルは、オリジナル画像が保持しているもの、sRGB, Adobe RGB

またはカスタムプロファイルから選択できます。DNG 出力には利用できません。sRGB

は、ウェブなどで利用したり印刷紙やインクジェット出力に利用する場合に適しています。印刷向けや出力後レタッチが必要な場合にはAdobe

RGB プロファイルを選択すると良いでしょう。この場合、出力形式にTIFF形式を使うことをお勧めします。カスタムプロファイルは、自分でプロファイルを選択できます。

ハードディスクにエクスポート

処理を開始する前に、ハードディスクにエクスポートオプションウィンドウ内のオプションのいずれかにチェックが入っている必要があります(新しいオプションを作成しても、チェックするまでは有効になりません)、少なくとも1つの設定にチェックがかかっている必要がありますが、必要なだけいくつでもチェックをかけることができます(ELITE版のみ)。DxO PhotoLabの強力な機能の一つで、一度の処理で複数の設定の出力を同時に実行することができます。

i 複数の出力形式を作成することで、複数のハードディスクやサーバーに一度に書き出せます。また同じ出力形式で出力ディレクトリが違う複数のファイルを書き出す設定を作成しておけば、画像のバックアップ作成に利用することができます。

画像ブラウザ内で画像を選択したら、画像ブラウザのコマンドバーにあるハードディスクにエクスポートボタンをクリックして、ハードディスクにエクスポート:オプションウィンドウのエクスポートボタンをクリックすれば処理とエクスポートが開始されます。出力先のフォルダに同じ名前のファイルがある場合、上書きするか、画像に別の名前をつけるかどうかを聞いてきます。これは既に出力したファイルを不用意に上書きしないためです。

i ファイル名の重複を避けるためには、接尾詞の追加機能を利用できます。

処理が開始されると、処理中の画像のサムネイルの右上に、歯車が表示されます。またエクスポートボタン自体に小さい進行バーが表示されます。エクスポートボタンをクリックすると、進行パレット内で進行状況を見ることができます。

i 処理にかかる時間は、エクスポートする画像サイズや枚数によって大きく異なります。

処理が終わると:

- 処理が問題なく終了したことを知らせるアイコンがサムネイル画像の右下に表示されます。
- エラーが生じた場合、感嘆符(!)が表示されます。

一度に処理する画像の数を変更することが出来ます。以下の場所にアクセスしてください。編集メニュー>プリファレンス>パフォーマンスタブ>表示と処理(Windows)、またはDxO PhotoLabメニュー>プリファレンス>詳細プリファレンスタブ(Mac)。

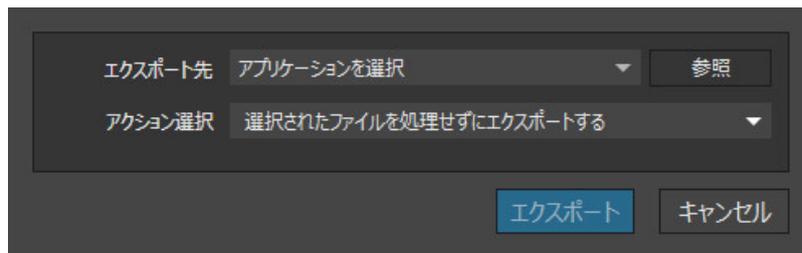
DxO
PhotoLab

i はマルチスレッド処理を行うので、1枚または複数の画像を処理する場合にコンピュータに搭載されているプロセッサをすべて利用します。ただし画像点数が多い場合には、マルチスレッド処理はRAMとディスク間のメモリスワッピングが増大するため、RAMが不十分だとスピードの恩恵は受けられません。

出力設定の作成と有効化

新規のエクスポートオプションを作成するには、フローティングウィンドウの左下にある新規オプションを追加ボタンをクリックし、必要に応じて設定を変更します。選択した処理形式によって、設定できる項目が変わります。これは後述します。他の出力先フォルダの指定や、ファイル名の接尾詞の追加、サイズ変更などは共通です。

別のアプリケーションへのエクスポート



別のアプリケーションへのエクスポート (Windows)

Adobe Photoshop や Lightroom などの他のアプリケーションでさらに編集を続けるために、画像をエクスポートすることができます：

1. 画像ブラウザ内でエクスポートしたい画像を選択します。
2. ハードディスクへエクスポートボタンの横にあるドロップダウンメニューから、別のアプリケーションにエクスポートを選択します。
3. システムウィンドウが開いたら、プログラムフォルダ (Windows) またはアプリケーションフォルダ (OS X) から開きたいアプリケーションを指定します。
4. アプリケーションを指定したら、アクションメニューからオプションを選択します (JPEG、TIFF、DNG、処理しないでエクスポート)。
5. アクション選択メニューから、処理形式 (JPEG、TIFF、DNG) を選択します。画像の処理をせずに画像をエクスポートすることも可能です。
6. エクスポートボタンをクリックします、ファイルは処理されてから、指定したアプリケーションで開きます。

1 枚または複数の RAW

- i ファイルをエクスポート用に選択した後、選択されたファイルを処理せずにエクスポートオプションを選択すると、アプリケーションで開いた際に DxO PhotoLab で設定した補正は反映されません。

Lightroom との連携ワークフロー

Lightroom との連携ワークフローについて

DxO PhotoLab ではLightroom との非破壊方式のワークフローが利用できます。Lightroom のカタログからRAW画像を DxO PhotoLab に転送し、現像処理後にLightroom にエクスポートできます。



i この機能はLightroom 3/4/5 と互換性があります。

このワークフローには2つオプションがあります。

1. Lightroom のプラグイン : DxO PhotoLab に RAW 画像を直接転送できます。
2. DxO PhotoLab の (Lightroom へエクスポート) 機能 : RAW 画像を現像処理し、様々な出力方式でエクスポート出来ます。

i DxO PhotoLab は自動的にプラグインをLightroom のプラグインフォルダ内にインストールします。インストールが正常に行われない場合や、プラグインのインストールを拒否したり、コンピュータにLightroom をDxO PhotoLab の後にインストールした場合、DxO PhotoLab 内のLightroom へエクスポートをクリックしてプラグインのインストールをすることが可能です。

Lightroomから DxO PhotoLab へ

Lightroom から DxO PhotoLab に画像を転送:

1. Lightroom 内で画像フォルダを選択し、DxO PhotoLab の画像ブラウザにエクスポートしたい画像をクリックします。
2. ファイルメニュー->プラグインエクストラ。
3. DxO PhotoLab が起動し、新規プロジェクトが作成され、その中に転送した画像が読み込まれます。
4. 画像の補正作業を始めます。

⚠ 転送前にLightroom内でRAW画像に対して適用された補正はDxO PhotoLabに転送される画像には反映されません。

i 転送された画像は自動的にDxO PhotoLabの設定タブ内で開き、プロジェクトが新規作成され、Lightroom にエクスポートボタンが表示されます。転送後、直ぐに作業を開始できます。

DxO PhotoLab から Lightroomに画像をエクスポートする

1. 画像の処理作業が終了したら、... にエクスポートを開きます。
2. Lightroomにエクスポートを選択します。

3. ダイアログウィンドウが開きます。
4. アクション選択メニューから処理形式(JPEG/TIFF/DNG)を選択します。
5. オプションメニューで添付するICC プロファイルを選択してください。
6. エクスポートボタンをクリックする。

エクスポートする画像に対しLightroomで更に編集を行いたい場合,RAW

- ① 形式と非常に近い補正を行うことができるDNG形式を選択することをお勧めします.そうでない場合は,JPEG またはTIFFを選択してください.

Lightroomにエクスポートされた画像は,エクスポートの日付と時間が記録されたコレクションに読み込まれます.« DxO PhotoLab という名称のコレクションが作成され,全てのコレクションがこの中に入ります.エクスポートされた画像ファイルは,ファイルシステムモードのLightroomのフィルムストリップ内で,元のRAW画像と同じスタック内に入っています.

Lightroomのカタログ内でRAW画像に対して,スター,色,キーワードを設定した場合,DxO

- ① PhotoLabでエクスポートした画像にも自動的に設定が保持されます.編集>カタログ設定の(変更点をXMP に自動的に書き込む)オプションをチェックしてください.

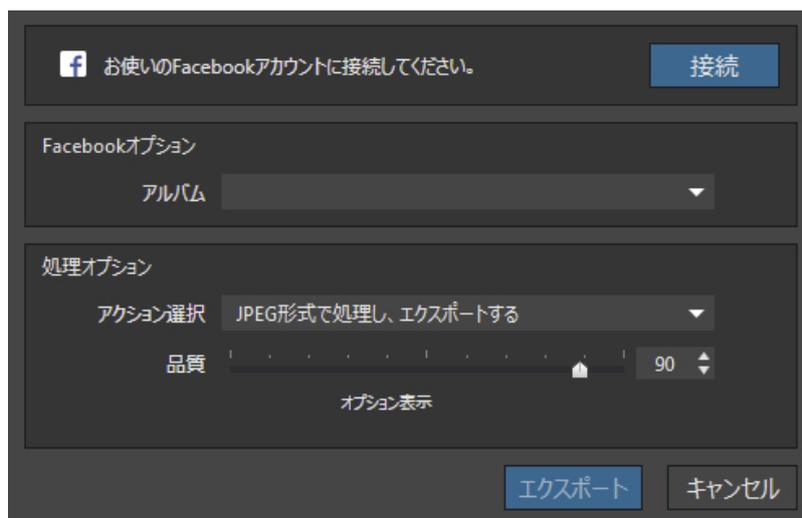
Lightroomのライブラリ,または他のソフトウェア内でRAW画像に対してスターランキングをつけた場合,EXIF またはXMPから直接DxO PhotoLabに読み込まれます.カラーまたはキーワードを画像につけた場合,DxO

PhotoLabで読み込むことはできませんが保存はされており,エクスポート後にLightroomで開くと再び読み取ることができます.このためには,

- ① Lightroomから転送された画像のXMPファイルが保存されている必要があります.保存するためには,編集メニュー>Lightroom のカタログの環境設定から,添付ファイルにXMP形式で変更を自動的に書き込むオプションをチェックします.同時に,DxO PhotoLabのプリファレンスの全般タブのからRAW画像のサイドカーXMP ファイルのメタデータを保存するオプションをチェックする必要があります.

- ① DxO PhotoLabでつけたスターランキングはエクスポートされた画像ファイルに書き込まれ,他のソフトウェアで読み取ることができます.

Facebookへのエクスポート



Facebook へのエクスポート(Windows)

Facebook へ画像をエクスポートする手順

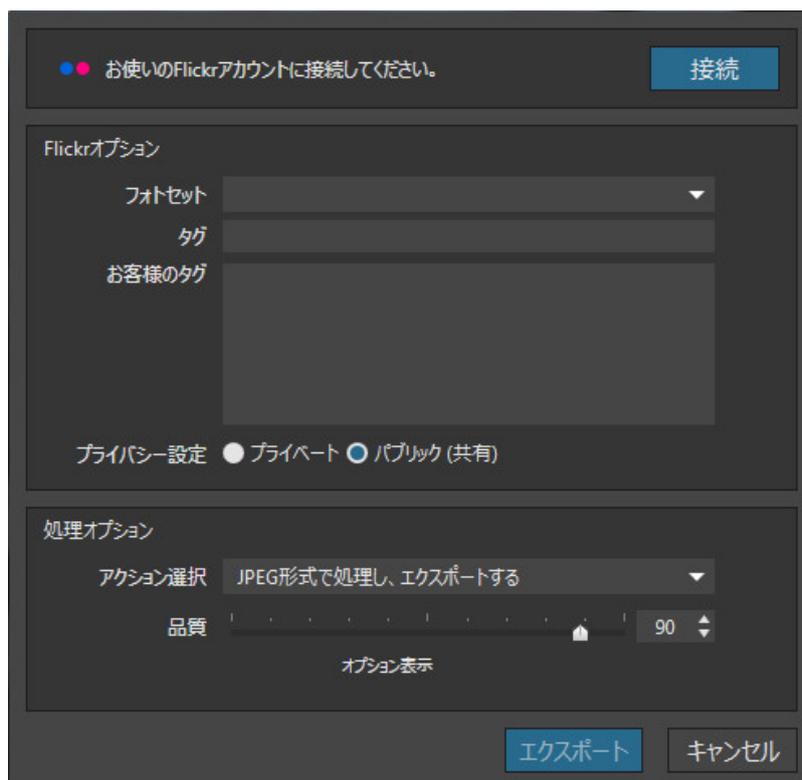
1. 画像ブラウザ内で、一枚または複数の画像を選択します。
2. 画像ブラウザの右上の (...エクスポート)ボタンの右にある下向きの矢印をクリックし(Facebook にエクスポート)を選択します。
3. プルダウンメニュー内であなたのアカウントに、ログイン(接続)してください。(接続されていない場合(接続)ボタンが表示されます)
4. Facebook のアカウントに複数のアルバムがある場合、アルバムのプルダウンメニューからアルバムを一つ選択します。
5. 処理オプション(Windows 版)または形式(Max OS X 版)内のアクション選択メニューで(JPEG形式で処理し、エクスポートする)を指定します。
6. 次に、スライダーを使ってJPEG画像の品質を指定します。
オプションを表示し(画像のリサンプリング)(Windows 版)、またはサイズ変更の(サイズ変更を有効にする)(Max OS X 版)にチェックを入れます。最大サイズに数値を入力し、補間法を選択します(デフォルトでは自動)。
8. (エクスポート)ボタンをクリックします。DxO PhotoLab
が画像の処理とエクスポートを開始します。(画像ブラウザ)の右上のツールバーの矢印ボタンをクリックするとウィンドウが開き進捗バーが表示されます
9. エクスポート作業が終了したら、Facebook
のページの選択したアルバムを確認してください。進捗バーのウィンドウ内の右側にあるルーペアイコンをクリックすると直接 Facebook のページにアクセスできます。

既に現像処理されているJPEG

- ① 画像に対して補正作業をする場合、選択された画像ファイルを処理せずにエクスポートするオプションも利用できます。Facebookは、JPEG以外の画像形式を受け付けませんので気をつけてください。

⚠ Facebookは自動的に画像を2048画素にリサイズします。これより小さいサイズの画像を転送する場合は、リサイズされません。

Flickrへエクスポート



Flickrにエクスポート(Windows)

DxO

PhotoLabから,Flickrウェブギャラリーへ直接写真を書き出すことができます(インターネット接続とFlickrアカウントが必要です).初めてこの機能を使う場合には,ハードディスクへエクスポートボタンの横にあるドロップダウンメニューから,別のアプリケーションにエクスポートを選択すると,Flickrアカウントに接続するための設定ダイアログボックスが開きます:

1. 接続をクリックします.
2. デフォルトのウェブブラウザが起動します.
3. Yahoo®/Flickr®のページで,お持ちのFlickrのユーザーIDとパスワードを入力します.
4. Flickr
のオプションで複数の画像を選択して,必要ならキーワードを入力します.また画像をプライベートにするか一般公開にするかを選択します.
5. DxO PhotoLabの画面に戻り,確認コードを入力します.
6. 接続が認証されたことを確認する画面が表示されます.

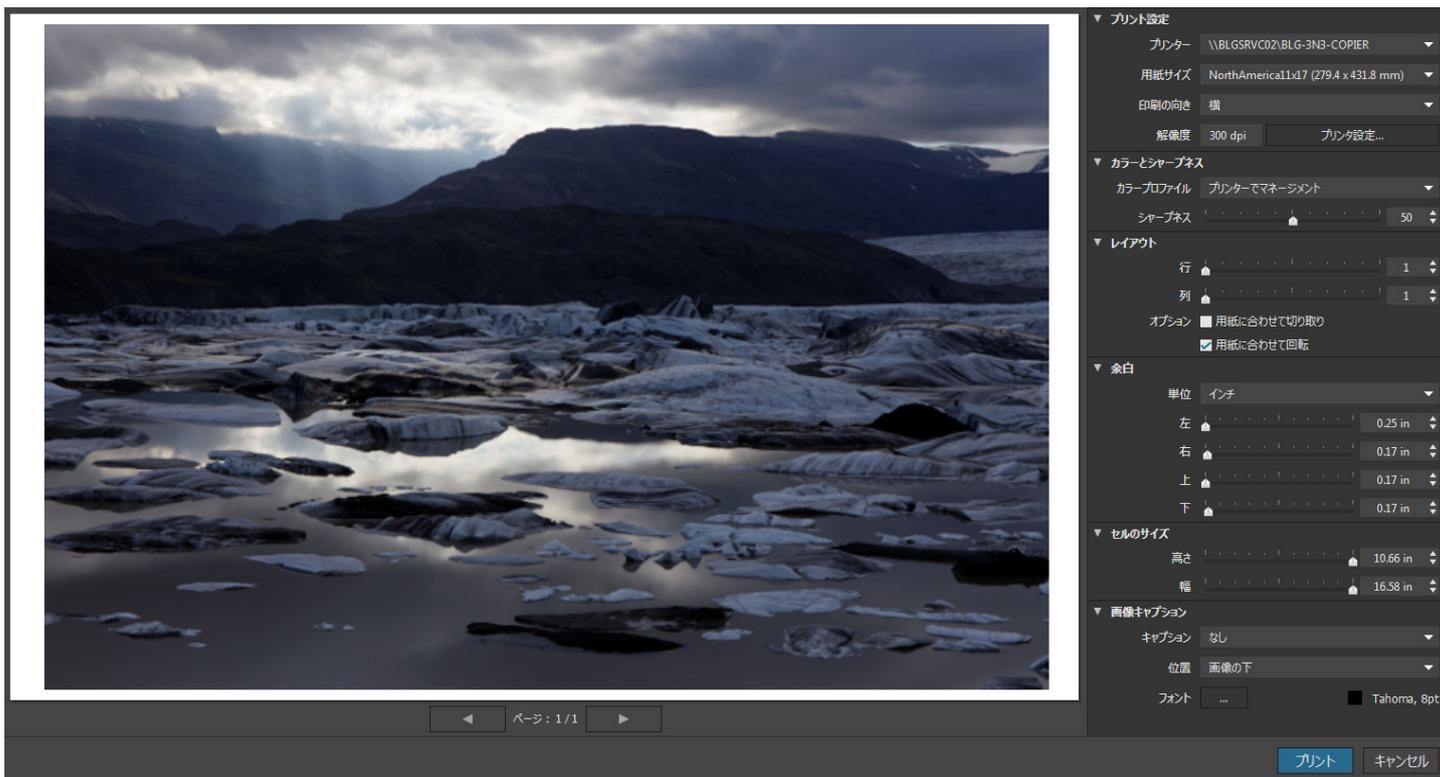
Flickrギャラリーへ画像をエクスポートするには:

1. 画像ブラウザ内でエクスポートしたい画像を選択します.
2. Flickrにエクスポートを選択します.
3. フローティングウィンドウでFlickrアカウントに接続します.
4. Flickrオプションで,フォトセットとタグを設定します.またプライバシー設定も行います.
5. 処理オプションで,エクスポートする画像のフォーマットと品質を設定します.
6. エクスポートボタンをクリックします.DxO
PhotoLabが変換とエクスポートを開始します.画像ブラウザのコマンドバーにプログレスバーが表示されます.
7. 終了したらFlickrページを確認してください.

i 以前のバージョンの DxO OpticsPro と異なり、Flickr へのエクスポートの前にあらかじめ画像を処理をしておく必要はありません。

プリント

プリント - Windows



プリントモジュール(Windows)

DxO

PhotoLabでサポートしている,RAW

やバーチャルコピーを含むすべてのファイル形式をプリントすることができます.プリントする前に必ずしも処理する必要はありません.プリントは選択タブ,設定タブのどちらからでも利用できます.

i プリントモジュールは,コンピュータに接続されているプリンタを自動的に表示します.PDFに書き出すこともできます.

プリントカラーマネジメントはプリンタドライバ,またはDxO

PhotoLabで実行できます.後者のオプションはICCプロファイルの選択と,レンダリングとシャープネスの調整が可能です.

ツールと設定

インターフェイス

枚または複数の画像を選択したら,以下の場所からプリントを実行できます:

- 画像ブラウザのコマンドバーにあるプリントボタン
- ファイル>プリントメニュー

プリントモジュールを開くと,DxO PhotoLabの画面上に大きなフローティングウィンドウが開きます.これは2つのセクションに分かれています.

- 左側:プリントプレビューエリアにはプリントされる画像が表示されます(矢印ボタンを使って別のアイテムに移動できます).
- 右側:設定エリアにはプリントコントロールの設定が用意されています.

プリントウィンドウの下に,プリントとキャンセルボタンが用意されています.

設定

プリント設定

一番上のパレットにはプリンタパラメータの設定があります:

- プリンター:接続して利用できるプリンタのリスト
- 用紙サイズ:プリンタドライバによる用紙サイズ
- 印刷の向き:プリンタドライバによる用紙の向き
- 解像度:プリンタドライバによるデフォルト解像度(300 dpi)

 プrintの最高解像度は1200 dpiです。

カラーとシャープネス

- カラープロファイル

:カラーとシャープネスセクションではPrintのカラー管理を、プリンタドライバを使うか、カラープロファイルドロップダウンメニューからICCプロファイルとレンダリングモードを選択する2つの方法で行えます。またPrintシャープネスをスライダで調整できます。

- プリンターでマネージメント

:プリンタプロパティを設定した後は、特に設定することはありません。プリンタドライバがカラーPrint管理を実行します。

 レンダリングモードの選択は、ICCプロファイルを選択した後に表示されます(DxO PhotoLabでマネージメント使用時)。

- DxO PhotoLabでマネージメント:このモードを選択すると、以下のウィンドウとメニューが順に表示されます:
- ICCプロファイルをインポートウィンドウ:コンピュータにインストールされているICCプロファイルを選択できます。
- レンダリングintent:4種類のレンダリングモードから選択できます。
 - 知覚的:このモードではガモットを圧縮し、すべてのカラーが印刷できるようにします。写真Printに最も適したレンダリングです。
 - 彩度:このモードは、元のカラーと変換されるカラー間のカラーマッチングを確実に実行します。明るい色を再現したい場合に有効です。
 - 相対的な色域
 - :このモードはカラーをできるだけ忠実に再現します。下の絶対値によるモードとは異なり、白は変換されるカラースペース内の白に変換されます。
 - 絶対的な色域:このモードもカラーを忠実に再現します。しかし相対的なモードとは異なり、白は変更されません。レイアウト

DxO

 PhotoLabのカラーマネージメントを利用する場合は、プリンタドライバ内の関連するオプションが無効になっていることを確認してください(パレット内に注意メッセージが表示されます)。

- シャープネススライダ:シャープネススライダを使って、写真をPrintする際にシャープネスを向上することができます。スライダは0から100で調整でき、デフォルトでは50に設定されています。

 シャープネスの強さはPrintサイズに自動的に対応します。スライダはシャープネスの好みや、出力サイズのテイストに合わせるために利用します。

 シャープネスのプレビューは表示できません。どの程度のシャープネスがかかるかは実際にPrintしてお試しください。

レイアウト

レイアウトパレットでは、スライダや数値を使って画像配列の行と列の数を決めることができます。さらに2つのチェックボックスが用意されています:

- 用紙に合わせて切り取り:チェックをかけると、画像が用紙サイズにあいませ(はみ出す部分はカットされます)。
- 用紙に合わせて回転:チェックをかけると、用紙にあわせて画像の向きが回転します。

余白

用紙の上下左右の余白を入力できます。ドロップダウンメニューから、単位(cm,インチ等)も選択できます。

セルのサイズ

プリントするセルの高さと幅を調整するサイズスライダでは、以下の調整が可能です:

- 1枚の画像をプリント: ページ内に画像を1点プリントする場合は、画像の高さと幅のサイズを指定できます。
- 複数の画像をプリント(コンタクトシート): 画像サイズと、画像間のスペースを縦横で調整できます。

画像キャプション

画像へのキャプション追加、キャプションの位置、フォント、フォントサイズなどが設定できます。

キャプション追加ドロップダウンメニューには4つのオプションが用意されています。

- なし(画像キャプションなし)
- ファイル名
- ファイル名と日付
- ファイル名とメタデータ(シャッタースピード,露出値,焦点距離,ISO値)

 キャプションの位置ドロップダウンメニューでは、画像の上下左右が選択できます。

フォント設定では、コンピュータ上で使用可能なフォントとスタイル、サイズ、カラーが選択できます。

 プリントモジュールを終了する際に、設定は保存されます。他のレイアウトや異なる設定を使いたい場合は、それぞれのスライダをダブルクリックして元の値に戻す必要があります。

プリント

プリント(OS X)



プリントメニュー(OS X)

ツールと設定

インターフェイス

プリントメニューはOS Xが提供する標準ツールです。1枚または複数の画像を選択したら、以下の場所からプリントダイアログを開くことができます:

- 画像ブラウザのコマンドバーにある印刷アイコン
- ファイル > プリントメニュー

DxO PhotoLabの画面上にプリントメニューが開きます。プリンタダイアログは以下の2つのセクションに分かれています:

- プリントプレビューエリア: 左側にはプリントされる画像が表示されます(矢印ボタンを使って別のアイテムに移動できます)。
- 設定エリア: 右側にはプリントコントロールの設定が用意されています。

プリントウィンドウの下に、プリントとキャンセルボタンが用意されています。

設定

プリント設定

右上には基本的なプリントパラメータ関連があります:

- プリンタドロップダウンメニュー: 接続して利用できるプリンタのリスト
- プリセット: 保存されたプリント設定

3つ目のドロップダウンメニューでは、DxO PhotoLab

の設定やプリンタドライバの設定が行えます(このメニューが見えていない場合は、プリントダイアログの下にある詳細を表示ボタンをクリックします)。

DxO - 画像設定

- 用紙に合わせて切り取り:チェックをかけると,画像が用紙サイズにあいます(はみ出す部分はカットされます).
- 用紙に合わせて回転:チェックをかけると,用紙にあわせて画像の向きが回転します.
- キャプション追加:画像へのキャプション追加,キャプションの位置,フォントなどが設定できます.
- キャプション追加ドロップダウンメニューには3つのオプションが用意されています.
- ファイル名
- ファイル名とメタデータ(シャッタースピード,露出値,焦点距離,ISO値)
- ファイル名と日付

キャプションの位置ドロップダウンメニューでは,画像の上下左右が選択できます.フォント設定では,コンピュータ上で使用可能なフォントとスタイル,サイズが選択できます.

DxO - レイアウト

- 余白:用紙の周囲の余白を入力できます.
- レイアウト:コンタクトシートを作成する際に,スライダを動かして縦横の画像数を決めることができます.
- セルのサイズ:実際の数値を入れて画像サイズを決めることができます.また「自動」を選択すると,用紙サイズにあわせて自動に調整されます.
- その他,用紙処理,用紙サイズ,用紙の向きなど,その他の設定はすべて中央のプルダウンメニューからプリンタドライバのパラメータを開いて設定します.

 プリントの最高解像度は1200 dpiです.

DxO - シャープネス

シャープネススライダを使って,写真をプリントする際にシャープネスを向上することができます.スライダは0から100で調整でき,デフォルトでは50に設定されています.

 シャープネスの強さはプリントサイズに自動的に対応します.スライダはシャープネスの好みや,出力サイズのテイストに合わせるために利用します.

 シャープネスのプレビューは表示できません.どの程度のシャープネスがかかるかは実際にプリントしてお試しください.

メニューとプリファレンス

Microsoft Windows

メニュー

ファイルメニュー

- 新規プロジェクト:DxO PhotoLabの新規プロジェクトを作成します。
- 前回の画像参照場所:最近作成した,または最近開いたプロジェクトを直接開けます。
- DxO PhotoLab プロジェクト履歴:データベースのバックアップ作成やバックアップの修復が行えます。
- 画像をICCプロファイル作成のためにエクスポートする:プロ向けキャリブレーションプログラムでICCプロファイルを作成するのに利用できる画像を保存します(RAWリニアまたはリアル・カラーレンダリングでエクスポート)。
- サイドカー:画像の設定ファイルをサイドカーファイル(.dop形式)としてオリジナル画像と同じフォルダ内に書き出し,他の画像に適用したり,他のユーザーと共有したりすることができます。サイドカーファイルはMacとWindows両方で共有できます。
- ハードディスクにエクスポート:ハードディスクや外部メディアに画像を書き出します。
- 別のアプリケーションにエクスポート:オリジナル,または処理した画像を他のアプリケーションで開きます。
- Facebookにエクスポートする:Facebook ギャラリーに画像を書き出します。
- Flickr にエクスポートする:Flickr ギャラリーに画像を書き出します。
- Lightroomにエクスポート:Lightroomに画像をエクスポートする
- プリント:プリントモジュールを開きます。
- 終了:DxO PhotoLab を終了します。

編集メニュー

- 元に戻す,やり直し:最後に行ったアクションに対して影響します。
- 全てを選択:画像ブラウザ内のすべての画像を選択します。
- ファイル名の変更:選択した画像ファイルのファイル名を変更します(この変更は実際のファイル名が変更されます)。
- プリファレンス:ソフトウェアの環境設定を行います(詳細はプリファレンスのページを参照してください)。

表示メニュー

表示メニュー上部では,タブ間の移動が行えます。その下に,画像表示に関するツールが表示されます。

 以下のコマンドのいくつかは,選択タブ,設定タブのどちらかにいるかによって利用できないものもあります。

表示メニューの下部は4つのセクションに分かれていて,以下のオプションがあります:

- 画像情報:選択した画像の詳細情報をフローティングウィンドウで表示します。
- 罫線(設定タブ):プレビュー画像の上に,グリッド罫線を表示します。
- リフレッシュ:画像フォルダ内の選択されたフォルダとプロジェクトの中身の表示を最新のものにします。
- 罫線(設定タブ):プレビュー画面上に,グリッド罫線を表示します(サイズはプリファレンスで変更できます)。
- 画像ブラウザを表示する/隠す:アプリケーションウィンドウの下にサムネイル画像が並んでいる,画像ブラウザを表示/非表示します。
- 全てのパレットを表示する/隠す(設定タブ):すべての補正パレットを表示/非表示します。
- インターフェース最大化:ツールバーと画像ブラウザを隠します。
- 画像の全画面表示:画像を画面いっぱいに表示します。
- Live

Review

:現在選択されているフォルダに新規追加された画像を自動的に表示可能(カメラをコンピュータに接続して使用しているユーザー向け,カメラを操作するにはサードパーティーソフトウェアが必要)

- 画像ブラウザをアンドックする:画面の下にある画像ブラウザを切り離して,フローティングウィンドウとして移動することができます。

画像メニュー

- プリセット適用:ドロップダウンメニューからプリセットを選択
- 現在の設定からプリセットを新規作成:選択された補正の設定がされた画像を元にプリセットを新規作成
- 補正設定をコピー:他の画像に適用するために、現在の画像の補正設定をコピー
- 補正設定をペースト:選択した画像に補正設定をペースト
- DxO光学モジュールの曖昧性を解決する:手動でDxO光学モジュールの曖昧性を解決するためのダイアログボックスが開きます。
- 回転:画像を左右に90°回転,リセット
- Windowsエクスプローラで入力画像を表示:現在の画像が保存されている場所をシステム上で表示します。
- Windowsエクスプローラで出力画像を表示:処理が完了した画像の保存場所をシステム上で表示します。
- 元画像を別のソフトウェアで開く:元画像を他のソフトウェアで画像を開きます。初めて利用する場合は参照のみが表示されますが、それ以降は一度選択したソフトウェア名が表示されます。
- 処理画像を別のソフトウェアで開く:処理した画像を他のソフトウェアで画像を開きます。初めて利用する場合は参照のみが表示されますが、それ以降は一度選択したソフトウェア名が表示されます。
- バーチャルコピーの作成:バーチャルコピーを自動的に作成して、画像ブラウザに参照番号付きで表示します。
- 現在選択されている画像からプロジェクトを作成する:画像ブラウザで選択した画像から新規プロジェクトを作成します。
- 現在選択されている画像をプロジェクトに追加:画像ブラウザで選択している画像を現在のプロジェクトに追加します。
- 削除する:このメニューは状況により異なる働きをします:
 - プロジェクトでは、選択した画像がプロジェクトから削除されます(画像ファイル自体はゴミ箱には移動されません)。
 - バーチャルコピーの無いフォルダでは、画像がゴミ箱に移動されます。
 - バーチャルコピーを含むフォルダで、すべてが選択されている場合は、すべてのファイルがゴミ箱に移動されます。
 - バーチャルコピーを含むフォルダで、バーチャルコピーのみが選択されている場合は、プロジェクトから削除されますが、ゴミ箱には移動されません。
- 処理タグの設定:画像の処理に関してタグを設定できます(処理可能タグ,処理タグ未設定,非処理タグ)。設定によって、選択されたサムネイル画像の上の が、緑,赤,グレーになります(プレファレンスの表示タブで、これが常にオフになっていると処理タグは表示されません)。
- レーティング:星マークをつけて画像のランクを付けられます。プリファレンス画面でスターランキングが有効になっていないと表示されません。
- EXIF情報:ファイル名,保存場所,EXIFデータ,関連DxO光学モジュールなどがフローティングウィンドウとして開きます。

DxO光学モジュールメニュー

このメニューには、画像の自動処理に必要なDxO光学モジュールに関する各機能が用意されています:

- DxO光学モジュールの追加ダウンロード(インターネット接続が必要):DxO Labsのダウンロードサーバーに接続して、新しいDxO光学モジュールを選択することができます。モジュールダウンロード後はすぐに利用できます。
- インストールされているDxO光学モジュール:インストール済みのDxO光学モジュールの一覧表示と削除が行えます。
- DxO光学モジュールのリリース予定表(インターネット接続が必要):DxO Labsのウェブサイトに接続して、今後リリースが予定されているDxO光学モジュールを見ることができます。
- 新しいDxO光学モジュールをDxO Labs社まで提案する(インターネット接続が必要):DxO Labsのウェブサイトに接続して、今後作成してほしいDxO光学モジュールを提案することができます。

補正パレットメニュー(設定タブ)

設定タブ内の補正パレットメニューでは、ツールパレットの管理が行えます:

- 各パレット名:各パレットの表示/非表示が行えます。
- 新規ユーザーパレットの作成:任意のツールを入れるカスタムパレットを作成します。ダイアログボックスが開いて名前をニュカできます。
- パレットを表示する/隠す:全てのパレットを表示/非表示します。

ワークスペースメニュー(設定タブ)

このメニューでは、ワークスペースの作成や選択ができます:

- DxO-スタンダード:デフォルトのワークスペース
- ユーザーワークスペース:ユーザーが作成したワークスペース名が表示されます。

- ワークスペースの保存:カスタムワークスペースを保存できます.選択すると名前を入力するダイアログボックスが開きます.
- ワークスペースを削除:選択しているワークスペースを削除します.

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは,DxO PhotoLabをより効果的に使えるよう様々な項目が用意されています:

- DxO PhotoLabヘルプ:ユーザーガイドを起動
- オンラインサポートとドキュメンテーション(インターネット接続が必要):オンライン上のヘルプを起動
- DxO Academy(インターネット接続が必要):DxO Academyのサイトを開きます.チュートリアルやウェブトレーニング,DxOユーザーガイドのダウンロードなどが行えます.
- ショートカット:キーボードショートカットを表示
- アップデートの確認をする(インターネット接続が必要):DxO Labsのウェブサイトに接続して,最新のDxO PhotoLabをインストールしているかどうかを確認します.もし最新でない場合は,最新版をダウンロードしてインストールすることができます.
- DxO PhotoLabのライセンス認証をする(インターネット接続が必要):DxO PhotoLabのライセンス認証を行います.
- DxO FilmPack(インターネット接続が必要):DxO FilmPackのライセンス認証を行います(最初の30日間は無料体験版として利用できますが,それ以降利用する場合は,DxO FilmPackの購入が必要です).
- DxO ViewPoint:DxO ViewPointのバージョンを選択したり,ライセンス認証が出来ます.
- ウェブサイトにアクセス(インターネット接続が必要):ウェブブラウザが起動し,DxO Labsウェブサイトにアクセスすることができます. DxO PhotoLabについて:この画面内にはご利用のバージョンやインストール済みの追加オプションが表示されます.DxO Labsのテクニカルサポートを受ける場合には,これらは重要な情報になります.

右クリックメニュー

画像ブラウザ内のサムネイルやメインプレビュー画像を右クリックすると,以下のコンテキストメニューが利用できます(選択タブ,設定タブのどちらでも利用できます).

- ハードディスクにエクスポート:ハードディスクや外部メディアに画像を書き出します.
- 別のアプリケーションにエクスポート:オリジナル,または処理した画像を他のアプリケーションで開きます.
- Facebookにエクスポートする:Facebook ギャラリーに画像を書き出します.
- Flickrにエクスポートする:Flickrギャラリーに画像を書き出します.
- Lightroomにエクスポート:Lightroomに画像をエクスポートする
- プリント:プリントモジュールを開きます.
- DxO光学モジュールのダウンロード(インターネット接続が必要):新しいDxO光学モジュールを選択することができます.モジュールダウンロード後はすぐに利用できます.
- DxO光学モジュール曖昧性を解決する:曖昧性を手動で解決するダイアログボックスが開きます.
- プリセット適用:ドロップダウンメニューからプリセットを選択して適用できます.
- 現在の設定からプリセットを新規作成:選択された補正の設定がされた画像を元にプリセットを新規作成
- 補正設定をコピー:他の画像やスタックに適用するために現在の画像の補正設定をコピー
- 補正設定をペースト:選択した画像に補正設定をペースト
- 現在選択されている画像からプロジェクトを作成する:画像ブラウザで選択した画像から新規プロジェクトを作成します.
- 現在選択されている画像をプロジェクトに追加::画像ブラウザ内で選択した画像を現在のプロジェクトに追加します.
- ファイル名の変更:画像ブラウザ内のファイル名を編集できます.ファイル名の変更はバッチ処理できません.画像は1枚ずつ選択して実行してください.
- 削除する:このメニューは状況により異なる働きをします:
 - プロジェクトでは,選択した画像がプロジェクトから削除されます(画像ファイル自体はゴミ箱には移動されません).
 - バーチャルコピーの無いフォルダでは,画像がゴミ箱に移動されます.
 - バーチャルコピーを含むフォルダで,すべてが選択されている場合は,すべてのファイルがゴミ箱に移動されます.
 - バーチャルコピーを含むフォルダで,バーチャルコピーのみが選択されている場合は,プロジェクトから削除されますが,ゴミ箱には移動されません.
- 回転:画像を左右90°に回転,リセット
- 元画像のフォルダを読み込む:プロジェクトでは,このコマンドでオリジナル画像のあるフォルダを開くことができます.

- Windowsエクスプローラで入力画像を表示:現在の画像が保存されている場所をシステムで表示します。
- Windowsエクスプローラで出力画像を表示:処理が完了した画像の保存場所をシステムで表示します。
- 出力画像を別のソフトウェアで開く:例えばチェック用にプリントしたい場合など、書き出した画像を他のソフトウェアで画像を開きます。初めて利用する場合は参照のみが表示されますが、それ以降は一度選択したソフトウェア名が表示されます。
- バーチャルコピーの作成:同じ元画像からバーチャルコピーを作成することで、異なる補正設定やプリセットを適用することができます。
- 処理を可能にする:選択した画像の処理ステータスを設定できます(しない,多分,する),赤/黄/青の記号を選択するとプロジェクトのサムネイルに表示されます。プリファレンス画面で有効になっていないと表示されません。
- レーティング:星マークをつけて画像のランクを付けられます。プリファレンス画面でスターランキングが有効になっていないと表示されません。
- EXIF情報:ファイル名,保存場所,EXIFデータ,関連DxO光学モジュールなどがフローティングウィンドウとして開きます。

プリファレンス

i プリファレンスは編集メニューから開くことができます。プリファレンスウィンドウには、全般、表示、パフォーマンスの3つのタブがあります。

全般タブ

プリファレンス画面の全般タブには以下の項目があります:

アプリケーション用プリファレンス

- インターフェイスの表示言語(再起動必要):利用する言語を選択してDxO PhotoLabを再起動してください。
- アップデートを自動的にチェックする:利用可能なアップデートを自動的に検索します(インターネットへの接続必要)。設定変更後はDxO PhotoLabの再起動が必要です。
- ソフトウェア改善プログラムへ参加する:この項目にチェックを入れると、お使いのコンピュータの最低限の仕様とDxOのプロジェクト情報がDxO Labsに送信されます。この情報は今後のプログラム改善のために参考にされます(詳細は、タブ内のリンクをクリックしてください)。

処理

- DxO FilmPackの旧カラーレンダリング(v2.0以前のバージョン)を適用(再起動必要):このオプションはDxO FilmPack 3以降を利用している場合に、前のバージョン(2.0以前)のカラーレンダリングを利用したい場合に使います。設定変更後はDxO PhotoLabの再起動が必要です。
- RAW画像のサイドカーXMPファイルのメタデータを保持する(PhotoshopやLightroom等をお使いの場合のみ):書き出したファイルのxmpサイドカーファイル内に、画像のメタデータを保存します。例えばAdobe Bridgeなどのプログラムで作成されたメタデータを保存できます。

補正用諸設定

- サイドカーファイル(接尾辞.dop)の自動保存:サイドカーファイルは、拡張子に.dopが付いた小さなテキストファイルで、画像ファイルに関連づけられています。このファイルには画像補正の設定情報が含まれています。画像を他のコンピュータにコピーする場合など、画像だけではなく関連したサイドカーファイルのコピーも必要です。この下の自動読み込みの設定にチェックがかかっている場合、後で画像を開いた際にサイドカーファイルが自動的に読み込まれます。
- サイドカーファイル(.dop)からの設定自動読み込み:選択した画像に関連づけられているサイドカーファイルから自動的に設定を読み込みます。ファイルメニューからサイドカーを手動で読み込むこともできます。
- RAW画像用:RAWに適用するプリセットをドロップダウンメニューから選択できます。このプリセットにより、選択した画像に即座に補正が実行されます。初期設定はDxO標準になっています。
- RGB画像用:RAW以外のTIFFやJPEGに適用するプリセットです。初期設定はDxO標準になっています。

DxO PhotoLabプロジェクト履歴

場所(再起動必要):DxO

PhotoLab

のデータベースが保存されているディレクトリパスを表示しています。参照ボタンをクリックすると、システム内のディレクトリが開きます。

表示タブ

表示タブは、アプリケーション全体に関わる設定、設定タブの設定、画像ブラウザの設定の3つのパートに分かれています。

表示全般

- ディスプレイに使われているICCプロファイル:3つのオプションから選択できます:
 - 当ディスプレイのプロファイル:ディスプレイが計測器によりキャリブレートされている場合に利用します。
 - ジェネリックプロファイル(sRGB):表示モニター用(特定のカリブレーションなし):デフォルト
 - Adobeプロファイル(Adobe RGB):このプロファイルに対して調整された表示モニター用:Adobe RGBガモットを表示できる高品質モニターを利用している場合はこちらを利用します。
- ウィンドウ内の背景色:スライダで黒から白までの背景色の明るさを設定できます。元の設定に戻すにはスライダをダブルクリックします。
- DxO光学モジュールがダウンロードされていないか見つからない場合,DxO光学モジュールのダウンロードウィンドウを表示する:画像を選択しプロジェクトに読み込む際に,DxO光学モジュールがない場合,DxO光学モジュールダウンロードウィンドウを表示します。表示されますがまだインストールはされません。
- バッチ処理前に,DxO光学モジュールの有無・曖昧性確認のダイアログボックスを表示:解決のためのダイアログを表示します。

設定タブ

グリッドのサイズ:ディストーションやパース補正設定時に表示すると便利な罫線グリッド表示のサイズを設定します。

画像ブラウザセクション

サムネイルに6種類のアイコンを表示できます。これらのアイコンの表示は常にオン、常にオフ、マウスオーバー表示、から選択できます:

- 処理ステータス:処理前か処理済みかがわかります。
- 画像名:RAWかRVB (JPEG,/TIFF)ファイルかがわかります。
- 処理タグ:緑,赤,グレーの で,処理をするかどうかを設定できます。
- レーティング::写真のレーティングを付けられます。
- DxO光学モジュールのステータス:DxO光学モジュールが利用可能かどうかを表示します。
- 削除ボタン:プロジェクトやハードディスクから画像を削除できるボタンを表示します。
- グリッドのサイズ:画像上に表示される罫線グリッド表示のサイズを設定できます(表示タブ>グリッドのサイズ)

パフォーマンスタブ

キャッシュ

キャッシュのファイルサイズと場所を設定できます.DxO

PhotoLabのプレビューやサムネイルを一時的に保存するのに利用されます。画像枚数の多い処理を行う場合などは、キャッシュサイズを上げてDxO PhotoLab

のパフォーマンスを向上することができます。参照ボタンをクリックしてキャッシュファイルの保存場所を指定できます。またクリアボタンでキャッシュをクリアすることができます。

 スライダ上にマウスポイントを置くと、現在のキャッシュサイズが表示されます。

表示と処理

- OpenCL有効化(再起動必要):サムネイル表示,画像処理のスピードをアップできます.DxO PhotoLabを最初に起動したときに,CPUプロセッサの処理よりもグラフィックカード(GPU)の処理が速いかどうかテストされます。もしCPUの方が速い場合は,OpenCLオプションはグレーアウトして利用できません。
- 同時に処理する画像の最大数(2枚を奨励):初期設定では,同時に2枚の画像を処理します。パワフルなコンピュータを使っている場合には,より多くの画像を同時に処理させることができます。

キーボードショートカット

一般

コマンド	Windows ショートカット	Mac OS X ショートカット
新規プロジェクト	Ctrl + N	Cmd + N
カット	Ctrl + X	Cmd + X
コピー	Ctrl + C	Cmd + C
貼付け	Ctrl + V	Cmd + V
全てを選択	Ctrl + A	Cmd + A
元に戻す	Ctrl + Z	Cmd + Z
やり直し	Ctrl + Y	Cmd + Shift + Z
ペースト(テキスト入力欄)	Ctrl + V	Cmd + V
画像ブラウザをドック/切り離し	Ctrl + U	Cmd + U
オンラインヘルプ	F1	Cmd + ?
選択タブに移動	Ctrl + F1	Alt + Cmd + 1
設定タブに移動	Ctrl + F2	Alt + Cmd + 2
変更タブ	Ctrl + Tab	Ctrl + Tab
プレファレンスウィンドウを開く	Ctrl + Shift + P	Cmd + ,
元画像を表示(キーを押している間)	Ctrl + D	D
インターフェース最大化	F11	
フルスクリーンモード	F12	Cmd + Shift + F
画像ブラウザの表示/非表示	Ctrl + F9	Shift+ Tab
画像ブラウザのリフレッシュ	F5	
フォルダ/ファイル/プロジェクト/プリセットの名称変更	F2	
画面にフィット	F3	Cmd + 0
100%ズーム	F4	Cmd + 1
ズームイン	Ctrl + +	Cmd + +
ズームアウト	Ctrl + -	Cmd + -
一時的にハンドツールに切り替え	スペースバー(押している間)	スペースバー(押している間)
前の画像を表示	左の矢印	左の矢印
次の画像を表示	右の矢印	右の矢印
画像を右に90°回転	Ctrl + L	Cmd + L
画像を左に90°回転	Ctrl + R	Cmd + R
バーチャルコピー作成	Ctrl + J	Cmd + D
ランク付け	Ctrl + 0 - 5	0 - 5
処理開始	Ctrl + Alt + P	Cmd + K
画像プロパティ	Ctrl + I	
プロジェクトから画像を削除	Delete	Cmd + Del
ディスクから画像を削除	Delete	Cmd + Del
バーチャルコピーを削除	Delete	Cmd + Del
選択画像をプリント	Ctrl + P	Cmd + P

選択タブ

コマンド	Windows ショートカット	Mac OS X ショートカット
参照ブラウザの表示/非表示	Ctrl + F10	Tab
フォルダ検索	Ctrl + F	

設定タブ

コマンド	Windows ショートカット	Mac OS X ショートカット
参照画像を表示(キーを押したまま)	Ctrl + D	D
ハンドツール(キーを押したまま)	スペースバー	スペースバー
元画像と補正画を比較表示または前後表	Ctrl + T	C
すべてのパレットを表示/非表示	F9	Tab
ズームフィット	F3	Cmd + 0
100%表示	F4	Cmd + 1
ズームアウト	Ctrl ++	Cmd + -
ズームイン	Ctrl +-	Ctrl + =
罫線グリッドを表示	Ctrl + G	G
情報を表示	Ctrl + H	I
ハイライトクリッピングを表示	Ctrl + W	A
シャドウクリッピングを表示	Ctrl + B	B
補正内容のコピー/ペースト	Ctrl+ Shift + C / V	Cmd + Shift + C / V
バーチャルコピーの作成	Ctrl + J	Cmd + D

画像の全画面表示モード

コマンド	Windows ショートカット	Mac OS X ショートカット
EXIF & ナビゲータ	i	i
ヘルプ&ショートカット	F1	Cmd + ?
レーティング	Arrow Up/Down	Arrow Up/Down
直接ランク付け	Ctrl + 0-5 0-5	0-5
処理可能タグ設定	7, Ctrl + 7, P Shift + Ctrl + 7, Shift + P	7, Ctrl + 7, P Shift + Ctrl + 7, Shift + P
処理タグ未設定	9, Ctrl + 9, X Shift + Ctrl + 9, Shift + X	9 or Ctrl + 9, X Shift + Ctrl + 9, Shift + X
非処理タグ設定	8 or Ctrl + 8 or U Shift + Ctrl + 8 or Shift + U	8 or Ctrl + 8 or U Shift + Ctrl + 8 or Shift + U

左に回転	Ctrl + L	Cmd + L
右に回転	Ctrl + R	Cmd + R
次の画像	Right arrow	Right arrow
前の画像	Left arrow	Left arrow
削除	Del	Cmd + Del
ズームフィット	F3	Cmd + 0
ズーム率100%	F4	Cmd + 1
ズーム率切り替え	Double click	Double click
全画面表示解除	ESC	ESC

登録、ダウンロード、インストール、ライセンス認証

 以下に説明する内容は必ずインターネット接続が必要です。

登録

ソフトウェアの認証を行うには、ライセンスを登録する必要があります。DxO Labsのウェブサイト(www.dxo.com/CD)に接続して、登録手続きを済ませてください。DxO Labsお客様アカウントを持っていない場合は、フォームに必要事項を入力してDxO Labsお客様アカウントを作成します。すでにお持ちの場合にはサインインしてください。

ダウンロード

ライセンスを登録すると、DxO Labsのお客様アカウント内に重要な情報が表示されます。DxO PhotoLabのダウンロードリンクもここに用意されています。ここからダウンロードすることで、最新バージョンのソフトウェアをインストールすることができます。WINまたはMACボタンをクリックしてインストーラをダウンロードします。

インストール

Windows

1. インストールプログラムで使用したい言語を選択します。
2. ようこそ画面が開き、DxO PhotoLabのインストールを開始します。次へをクリックします。
3. ライセンス使用許諾に同意したら次へをクリックします。
4. DxO PhotoLabをインストールするディレクトリを選択します。
5. インストールをクリックします。インストールの実行には数分かかります。

Adobe

 Lightroomがお使いのコンピュータにインストールされている場合、インストールの始めにLightroom用のプラグインをインストールするかどうかを確認するダイアログボックスが開きます。これに承認するとLightroom用のプラグインが自動的にインストールされます。

OS X

1. ダウンロードが完了したら、DxO_PhotoLab_1_0.dmgをダブルクリックして解凍し、インストーラを起動します。
2. 開いたウィンドウ内にあるDxO PhotoLabアイコンを、アプリケーションフォルダにドラッグ&ドロップします。アプリケーションフォルダ内からDxO PhotoLabを起動します。
3. DxO PhotoLabをはじめに起動する際に、ライセンス使用許諾が表示されます。DxO PhotoLabを利用するには、使用許諾を読んで同意するをクリックします。

 Adobe Lightroomがお使いのコンピュータにインストールされている場合、DxO PhotoLabを最初に起動する際、Lightroom用のプラグインをインストールするかどうかを確認するダイアログボックスが開きます。

 アプリケーションがインストールできたら、ライセンス認証コードを入力しなくても31日間体験デモ版として利用できます。この期間は機能制限はありません。31日間を過ぎると、書き出した画像に「DxO PhotoLab DEMO」という透かしが入ります。予期せず透かしマークが入ってしまわないよう、できるだけ早く購入してライセンス認証を受けてください。

 体験デモ版の期限(31日間)が過ぎると、DxO PhotoLabのプリント機能は利用できなくなります。プリント機能を利用するには、ライセンス認証を実行してください。

ライセンス認証

1. DxO PhotoLabを起動します。
2. ダイアログボックスが表示されます。フィールドにライセンス認証コードを入力(またはコピー&ペースト)し、認証ボタンをクリックします。
3. お客様アカウントが作成されていない場合は、www.dxo.comでアカウントを作成するようメッセージが表示されます。アカウント作成に必要な情報をすべて入力します。作成されると、ライセンス認証コードをお客様アカウントページで見ることができます。アプリケーションに戻って、ライセンス認証コードを入力します。
4. DxO PhotoLabが正しく認証されたことが表示されます。OKをクリックしてソフトウェアを起動します。



1つのライセンス認証コードで、ソフトウェアを2台(ESSENTIAL版)または3台(Elite版)のコンピュータ上でライセンス認証することができます。

アンインストール

Windows

1. スタート > プログラム > DxO PhotoLab > Uninstallをクリックします。
2. アンインストールの手順に従って進めます。

OS X

1. アプリケーションフォルダをクリックします。
2. DxO PhotoLabのアイコンをゴミ箱をドラッグ&ドロップします。

サポートしている画像形式

DxO PhotoLab で開けるファイル

DxO PhotoLab は以下の画像形式をサポートしています:

- カメラから直接出力された RAW 形式の画像
- カメラから直接出力されたDNG形式の画像
- Adobe Lightroom, Camera Raw, DNG Converter を使って作成されたDNG 画像, ただし圧縮形式で保存されたDNG 画像を除く
- 8 / 16 ビットのTIFF画像
- JPEG画像

DxO ONE でサポートされている画像形式

- **JPEG**
- **DNG**
- **SuperRAW**

Adobe Lightroom, Camera Raw, DNG Converter を使って作成されたDNG 画像を読み込むには, 元のRAW画像の撮影に使われたカメラがDxO PhotoLab でサポートされている必要があります. DxO PhotoLab は Adobe製ソフトウェアで作成されたDNG画像をRAW画像とみなします. このため, RAW 画像に適用できる全ての補正項目もDNG画像に適用することが可能です.

DxO PhotoLabでエクスポートできる画像形式

DxO PhotoLabは以下の画像形式でエクスポートできます:

- 8 / 16 ビットのTIFF形式
- JPEG形式
- DNGリニア形式